

年報
平成 14 年度



Oita University of Nursing and Health Sciences
大分県立看護科学大学

年報

もくじ

今、看護大学に求められているもの.....	- 3 -
1 委員会/ワーキング・グループの活動.....	- 4 -
1-1 教授会.....	- 4 -
1-2 運営委員会.....	- 5 -
1-3 自己評価委員会.....	- 7 -
1-4 入試委員会.....	- 7 -
1-5 図書委員会.....	- 7 -
1-6 地域交流・公開講座委員会.....	- 7 -
1-7 研究倫理・安全委員会.....	- 8 -
1-8 広報委員会.....	- 8 -
1-9 情報ネットワーク委員会.....	- 8 -
1-10 国際交流委員会.....	- 9 -
1-11 就職対策委員会.....	- 9 -
1-12 大学院設置準備委員会.....	- 10 -
1-13 その他.....	- 10 -
2 学内外行事の概要.....	- 11 -
2-1 学 年 歴.....	- 11 -
2-2 オープンキャンパス.....	- 13 -
2-3 公開講座、公開講演会、公開講義.....	- 13 -
2-4 第4回看護国際フォーラム.....	- 13 -
2-5 第4回大分看科大／ソウル大学研究交流会.....	- 14 -
2-6 姉妹校学生交流.....	- 14 -
2-7 第5回若葉祭（大学祭）.....	- 15 -
3 教育活動.....	- 16 -
3-1 平成14年度入学者選抜状況.....	- 16 -
3-2 平成14年度3年次編入学試験状況.....	- 17 -
3-3 平成14年度大学院修士課程入学試験状況.....	- 18 -
3-4 講義.....	- 19 -
3-5 演習.....	- 34 -
3-6 実験.....	- 36 -
3-7 実習.....	- 37 -
3-8 大 学 院.....	- 41 -
3-7 ボランティア活動.....	- 45 -
4 学内セミナー.....	- 46 -
4-1 オープン・ハウス.....	- 46 -
5 学内プロジェクト研究.....	- 47 -
6 奨励研究.....	- 51 -
7 インターネットジャーナル「大分看護科学研究」.....	- 55 -
8 業績.....	- 56 -
8-1 著書.....	- 56 -
8-2 原著・総説・プロシーディングス.....	- 57 -
8-3 研究報告書その他の刊行物.....	- 61 -

8-4	学会発表	- 62 -
8-5	学術講演	- 67 -
9	学会・学外委員等の活動	- 75 -
10	海外研究派遣	- 78 -
11	学外研究者の受入	- 79 -
11-1	共同研究員の受け入れ	- 79 -
12	教職員名簿	- 80 -

今、看護大学に求められているもの

平成のはじめには10校未満であった看護系大学、学部、学科が、平成4年以降急増し、現在、100校を超えており、まだまだ増加するようである。このような状況は、看護大学に席を置く者にとっては大変うれしいことである。しかし、世間の人々、看護に関係のない大学の関係者にさえも、看護学の大学教育の実情が意外と知られていないのが現実である。もっと一般社会に向かって看護学の教育の現状などを伝え、懸命に活躍している看護職が正当に評価される社会を創っていくことが、大学に席を置くものの責任であろう。

看護大学の数が増えたことに満足してしまっているだけでは、自己満足の域をでない。看護系大学にとっては、今、もっとも必要とされていることは、大学における教育・研究の質をさらに向上させる努力をすることと、出口および出口以降に焦点を合わせた活動を積極的に展開していくことである。看護系大学が増加するきっかけを再認識し、大学教育で育てた学生達がプライドと自信をもって働きやすい社会を醸成することが、社会のニーズにあったケアを提供していくことにつながるはずである。

学校教育法の改正により、来年度（平成16年度）から大学は定期的に第三者評価を受けることが義務づけられた。第三者評価ももちろん大切であるが、組織としての大学の活動、研究者・教育者個人の活動を自分達で評価し、評価結果を還元する自己評価システムを充実していくことがもっと重要である。

本学では、開学以来、自己評価活動の一環として研究報告会（アニュアルミーティングと呼んでいる）と年報の発行を行ってきた。アニュアルミーティングでは、学内のプロジェクト研究、奨励研究を中心に研究報告を行い、率直に意見交換することによって研究の質を高め、看護研究の活性化を図っている。年報は、大学としての活動および教員個人の教育、研究、地域貢献に関する活動を開示し、その足跡を残し、改善に結びつけることとしている。

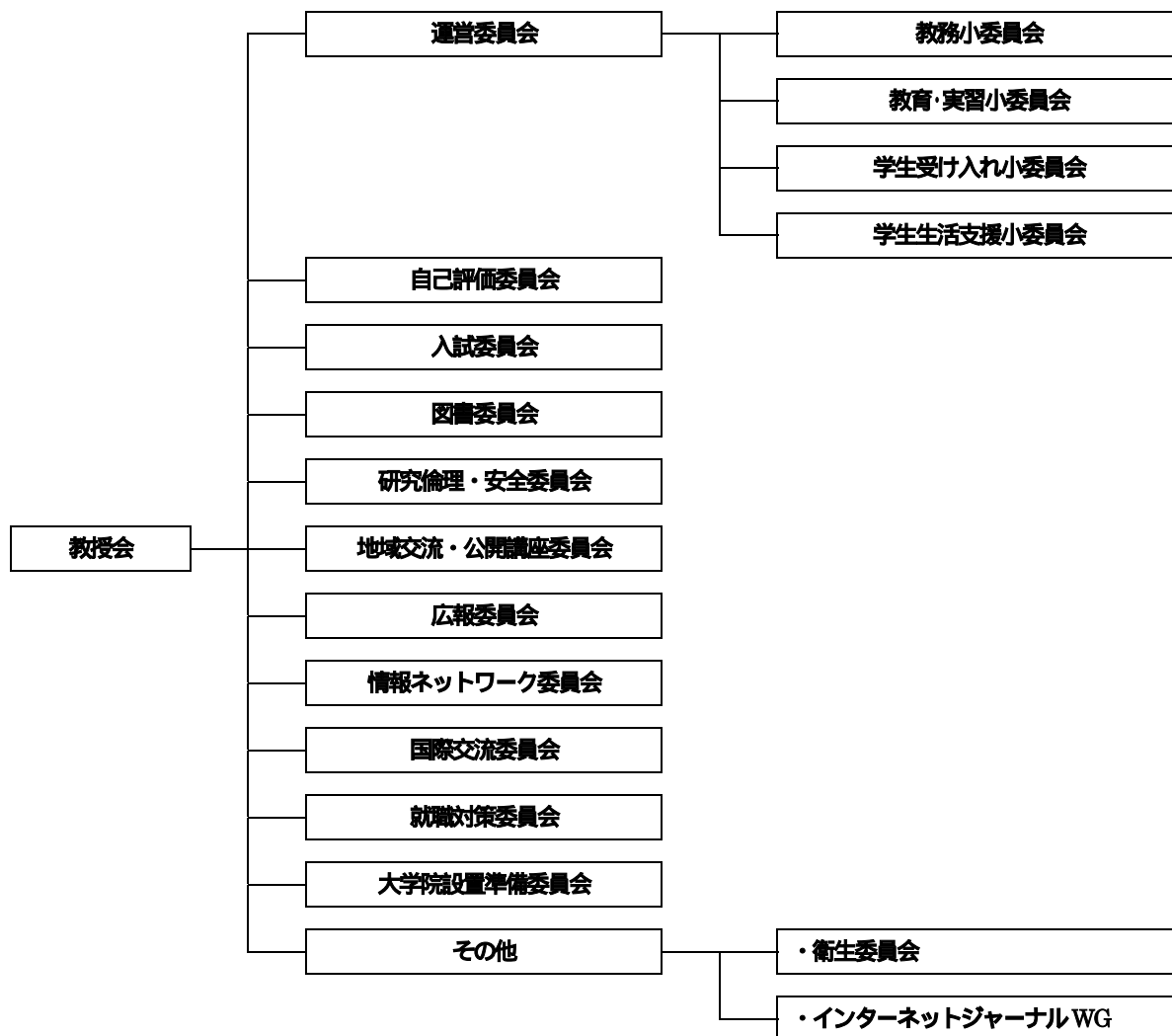
FD活動については、本学のような規模の小さい、単科大学ではどのような活動を行っていくべきかについて現在検討中である。一人ひとりの顔が見える規模の大学における独自のFD活動があるはずだと考えている。

平成15年6月

学長 草間 朋子

1 委員会/ワーキング・グループの活動

平成14年度委員会構成図



1 - 1 教授会

構成員：全科目群の教授・助教授・講師、事務局長
事務局：総務課長、教務学生課長

各委員会よりの分掌事項進行状況の報告、ならびに提案議題について審議を行うと共に、大学運営に関わる重要事項の意志決定を行ってきた。

1 - 2 運営委員会

委員：草間朋子、栗屋典子、高橋 敬、市瀬孝道、稲垣 敦、齋藤高雅、甲斐倫明、佐伯圭一郎、高橋久夫、伊東朋子、藤内美保、佐藤和子、高野政子、宮崎文子、河島美枝子、洪 麗信 (12月末まで)、木下由美子、平野 亙、小出綱夫 (事務局長)

事務局：泷 信子 (総務課)、安部正雄 (教務学生課)

各小委員会よりの分掌事項進行状況の報告、ならびに提案議題の審議を行うと共に予算に関する審議を行ってきた。

1 - 2 - 1 教務小委員会

委員：佐伯圭一郎、木下由美子、宮崎文子、高橋 敬、高橋久夫

単位認定に関する作業、平成 15 年度時間割作成、平成 15 年度シラバス作成の作業などを中心に活動を行った。

1) 助産学履修者選考 WG

構成員：教務小委員会メンバー、吉留厚子、林猪都子、小西清美、後藤由美

平成 15 年度の助産学実習履修者の選考作業を 4 月に行い、15 名が履修を許可された。さらに、次年度の選考に向けて作業を行った。

1 - 2 - 2 教育・実習小委員会

委員：草間朋子、市瀬孝道、栗屋典子、宮崎文子、甲斐倫明、稲垣 敦

本委員会は学生の教育を効果的かつ円滑に行うために教育関連の活動と教育・研究予算の策定を行っている。昨年度にカリキュラムの見直し作業を行った新カリキュラムを本年度からスタートさせた。4 年次生の卒業研究に関しては昨年と同様に 2 つのサポートグループを設置し、卒業研究論文集・卒業研究発表会要旨集の作成、卒業研究発表会のサポートと、次年度の各研究室学生配置、看護研究の基礎 I の講義のサポート (テキスト作成も含む) 等の実務を行った。また 4 年次生を対象とした総合人間学も 2 年目を迎え、9 回の講義を実施し、地域住民から多数の参加もあり公開講義としても成功を納めた。また本年度から国家試験対策サポートグループと総合実習サポートグループをその作業の重要性からワーキンググループ (WG) に昇格させて、これらの WG の更なる活動の充実を図った。教育・研究予算関連では本年度から新たにプロジェクト研究費、奨励研究費を予算化し教員の研究の活性化を図った。

1) 国家試験対策 WG

構成員：宮崎文子、檜原登志子、藤内美保、林猪都子、工藤節美、吉田成一、品川佳満、佐藤俊実 (教務学生課)

国家試験対策WGは、完成年次から 2 年目に当たり本年度から設置された。そのねらいは、学生の国家試験対策委員会の立ち上げの推進を図り、学生が主体的に取り組むための効率的な学習を押し進めることとしている。

本年度は、学生の国家試験対策委員会の立ち上げを促すと共に、国家試験対策年間計画の作成を行い、国家試験対策が *イグニス* の企画・実施、模擬試験の作成・印刷・実施、及び受験手続きの指導や国家試験対策補講計画と実施ならびに学生への受講周知徹底を促した。

2) 総合実習 WG

構成員：関根 剛、大賀淳子、高波利恵、目原陽子

総合実習WGは、看護実習の最終段階にあたる総合実習を円滑に行うことを目的として、設置されたものである。

本年度は、実習学生数の増加に伴い新しい実習先を設けて、実習施設の人事異動等に伴う総合実習マニュアルの改訂、総合実習オリエンテーション、ガイダンスを 1 月に実施した。本年度はWG設置が 12 月と遅れたことから、実習施設との十分な打ち合わせをする時間がなかったこと、実習目的の

施設などへの説明が不十分などの反省点があげられたので、翌年度の改善点とすることとした。

3) 実習関連 WG

構成員：桜井礼子、吉留厚子、高野政子、内田雅子、加藤さゆり、八代利香、玉井保子、安部恭子、
実習関連 WG は、実習センターの管理・運営に関する活動として、実習センター利用細則の改訂を行い、学生用の利用細則を作成した。また、実習センター内の備品・消耗品の物品の整理・補充を行った。また、実習全般に関わる事項については、実習中の事故対応について検討を行い、事故等報告書を作成、事故時の対応と報告経路を明確にし、これまでの感染事故時の対応マニュアル等をあわせ、事故対応マニュアルとしてまとめた。2002 年度版実習ガイドブックの改訂では、看護学生総合保障制度の手続きの方法、事故等報告書を新たに掲載した。

1 - 2 - 3 学生受け入れ小委員会

委員：佐藤和子、齋藤高雅、洪 麗信 (H14.12 迄)、高野政子、安部正雄 (教務学生課)

本小委員会の役割は、外国人学生を除く 3 年次編入学生、科目等履修生、聴講生、研究生の受け入れの手続きおよび受け入れの方法・条項・内規などを定めることである。

本年度は、平成 15 年度 3 年次編入学生の受け入れに関する単位認定作業、単位互換制度による開講科目の決定および手続きの変更に関する検討とともに、科目等履修生、研究生に関する受け入れ可能科目の決定および募集要項の審議・作成等を行った。

1 - 2 - 4 学生生活支援小委員会

委員：河島美枝子、平野互、伊東朋子、藤内美保、宮地恵子 (保健室)、門脇俊彦 (教務学生課)

本小委員会は、学生の健康管理、奨学金による生計の支援、サークル活動・自治会活動の支援など学業の基盤となる学生生活全般にわたる支援を行っている。本年度は禁煙、交通事故防止、成績不振や留年・休学などの学業困難の予防を目標に以下の活動を行った。

継続的な基本活動

悩み事相談 (学生相談) の実施、保健室活動の運用と管理 (健康診断と事後処理、健康教育・指導、専門医への紹介、救急対応)、学生便覧の作成、新入生オリエンテーションの実施、コンタクトグループ活動の支援、PTA による後援会活動の支援

本年度に実施した特別活動

学生生活実態調査の見直しとリニューアル、喫煙状況実態調査の実施、通学途上の安全 (交通事故) に関する実態調査の実施、学業に障害を来す学生の 1、2、3 次予防策の検討と実施

1) 学生生活実態調査 WG

構成員：藤内美保、中山晃志、吉武康栄、門脇俊彦(事務)、河島美枝子

学生の声がストレートに反映される学生生活実態調査は、本学における教育や福利厚生をはじめとする学生生活の充実のための基礎資料として重要である。過去 4 年間に行われて来た本調査を、より有効でかつ効率的なものにバージョンアップすることを目的として本 WG の作業が行なわれた。さらに本年度は学生の喫煙に関する実態調査も加えて行った。具体的な作業内容は以下であった。

- ・ 過去 4 年間に蓄積された学生生活実態調査データの解析・まとめおよび報告書の作成
- ・ 今後の調査 (実施頻度、調査の時期、調査項目) のあり方の検討
- ・ 新学生生活実態調査票の開発
- ・ 専門的な解析技術を持たない教員でも、短時間で調査結果の解析および報告書の作成が行なえるための一連の新学生生活実態調査解析システムの開発
- ・ 学生の喫煙に関する調査における調査票の作成、調査の実施、結果の分析と報告書の作成、ポスター作成・掲示

1 - 3 自己評価委員会

委員：粟屋典子、関根 剛、佐藤和子、洪 麗信（12 月末まで）、鈴木真也（9 月末まで）、吉田成一（11 月より）、伊東朋子、内田雅子、小西清美（1 月より）、山根厚人（総務課・9 月まで）、平川俊助（総務課・10 月より）

当委員会が行った活動は以下の通りである。

1. 13 年度年報の編集を完了し、続けて 14 年度年報の編集に向けて活動中である。
2. 13 年度アニュアル・ミーティングを 3 月 6 日に開催し、演題 5 題、および学内共同研究 2 題の発表と意見交換が行われた。
3. 自己点検・自己評価に関しては、14 年 2 月から 3 月にかけて「学内者による自己点検・自己評価に関するアンケート調査」を実施し、その分析結果を教員に報告した。第三者評価を受けるまでの 5 年間の活動計画を検討した。
4. セクシュアル・ハラスメント防止・対策委員会に関しては、該当する事項が生じていない。

1 - 4 入試委員会

平成 14 年内に実施する入学試験に関わるすべての事項を審議した。構成メンバーは非公開としている。

1 - 5 図書委員会

委員：齋藤高雅、伴信彦、木下由美子、安部眞佐子、稲垣敦、影山隆之、G.T.Shirley、檜原登志子、林猪都子、萱島香苗（図書館）

事務局：牛島聡子

図書館の管理運営に関する基本方針に基づき附属図書館の運営上の問題について協議を行った。具体的には、1)サービスの充実として学外者利用内規の見直し、2)資料整備として雑誌購入予算枠に関する検討、3)施設整備として書架の増設、また、4)図書購入予算配分の見直し等である。これらは図書館の運営に反映され、学外者の利用数の伸び、雑誌の購入タイトル数の増加等の結果を得ている。また、新規購入図書の選定については、教職員からの提案に基づいて委員会で選書を行うとともに、学生等から要望のあった図書、業者から持ち込まれた見計らい図書の採否を決定した。

図書館システムの改善については情報ネットワーク委員会の協力を得た。

本年度より大学院開設に伴い開館時間を延長した。さらに運用上の措置として学生向けに土・日曜日・祝日の無人開館を行った。これらの措置により附属図書館の利用者の利便性は大いに向上したと考える。

1 - 6 地域交流・公開講座委員会

委員：稲垣 敦、高橋久夫、宮崎文子、吉留厚子、高野政子、工藤節美

9 月 14 日から 11 月 9 日まで隔週土曜日 5 回にわたり、看護職を対象とした公開講座を実施した。統一テーマは、昨年に引き続き「21 世紀の看護」であり、「EBN に向けた看護研究とは？」というサブテーマで開催した。また、4 回以上の受講者には、修了証を授与し、記念品を贈呈した。なお、今年度は公開講座 WG を設置せず、委員会メンバーでポスター・ちらしの作成や関係諸機関への広報、前日の会場の設営や当日の運営などを行った。公開講座の開催にあたっては、門脇教務学生課長ほか関係者の協力を得た。また、大分地域大学等生涯学習協議会と連携して、生涯学習アンケートを実施した。学内施設利用申請についても随時審査を行い、総務課と連携して適宜指導した。

1 - 7 研究倫理・安全委員会

委員：草間朋子、高橋敬、檜原登志子、河島美枝子、平野互、吉田誠一、安部眞佐子、顧問 二宮孝富（大分大学）、西英久（大分医科大学）、

事務局：長尾成朗（2001.4月以降）

本委員会は本大学の教員が行う研究に関して、倫理・安全上問題がないか審査することを目的とする。委員会は倫理・安全に関する指針と、「教員の研究に関する学内了解事項」（平成14年7月17日改定）に基づき毎月1回開催し、これまでに（1月～12月）教員から提出された研究計画書71件の審査を行った。

1 - 8 広報委員会

委員：木下由美子、平野 互、齋藤高雅、高橋久夫、伊東朋子、藤内美保、林猪都子、長尾成朗（総務課）

オープンキャンパスの企画・運営、高校生の一日体験入学への対応、OBSテレビの取材、大学見学訪問者（17件）への対応、大学行事の広報活動、「What is 大分県立看護科学大学？」のQ&Aの追加・修正、大学案内に添付された質問への回答を行った。

1) 2002 英文大学案内作成WG

構成員：高橋久夫、G.T.Shirley、洪 麗信、八代利香、岡崎寿子、長尾成朗（総務課）
A4版16ページの「2002 英文大学案内」を作成し、2,000部印刷した。

2) 2003 大学案内パンフレット作成WG

構成員：平野 互、伴 信彦、定金香里、大賀淳子、安部恭子、佐藤俊実（教務学生課）
B5版21ページの「2003 大学案内」を作成し、10,000部印刷した。

1 - 9 情報ネットワーク委員会

委員：甲斐倫明、佐伯圭一郎、伴 信彦、桜井礼子、高野政子、山根厚人（9月まで）

ネットワークの運営管理を統括する。また、新規計画の検討およびWGの設置などの情報ネットワークに関連する諸問題を統括する。実際の活動では、ネットワークの維持運営管理を主な任務とするため、WGを中心に活動を行った。実際の委員会運営もWGのリーダーを含めたメンバーで行った。

1) ネットワークシステム WG

構成員：赤羽恵一、甲斐倫明
担当内容：メール、ノーツを含めたインターネット・イントラネット管理運営

2) Windows ユーザーサポート WG

構成員：中山晃志、佐伯圭一郎
担当内容：教職員用 PC (Windows) の管理（トラブル対応、新規ソフト対応など）

3) Mac ユーザーサポート WG

構成員：伴 信彦、赤羽恵一
担当内容：教職員用 PC (Mac) の管理（トラブル対応、新規ソフト対応など）

4) メディアセンターサポート WG

構成員：品川佳満、伴 信彦
担当内容：メディアセンター（教材作成室を含む）の管理（トラブル対応、新規ソフト対応など）

5) Web サイトWG

構成員：甲斐倫明、赤羽恵一、定金香里、吉永祐子（5月まで）、G.T.Shirley、品川佳満、高波利恵、岡崎寿子、吉武康栄、佐藤俊実（教務学生課）
担当内容：本学のWeb内外サイトの作成および管理運営

6) 看護メーリングリストWG

構成員：高野政子、影山隆之、安部恭子
担当内容：メーリングリスト kango-ml の管理運営

7) 豊の国ネット情報WG：

構成員：桜井礼子、伊東朋子、関根 剛、甲斐倫明
担当内容：豊の国ネットに配信する情報の検討および運営

8) 携帯電話Web サイトWG

構成員：山根厚人（後任：平川俊助）、甲斐倫明
担当内容：携帯電話 web サイトの作成および運営

情報ネットワーク委員会が行った主な作業内容は以下の通りである。

1. Tnet から OCT へのバックボーン回線の切り替えを行った。
2. 回線の切替に際して、ファイアウォールを変更した。
3. 本学が医療診断支援システムのネットワークに加わったことから、豊の国ハイパーネットと本学の回線の接続を行った。
4. 5年リース機器の更新について検討し、機器およびシステムの更新案を作成した。
5. 研究室ごとのホームページ作成をバックアップした。
6. メールアドレスの管理（追加・削除）
7. Web の作成、更新（英文ページの作成など）
8. 携帯電話対応の Web（休講情報など）の作成、更新
9. 教職員マシンのトラブル対応
10. イントラネット・インターネットのトラブル対応
11. 看護メーリングリストの運営
12. 日本看護系大学協議会の情報広報事業支援として、HP の作成・管理とメーリングリストの作成・管理

1 - 1 0 国際交流委員会

委員：草間朋子、洪 麗 信、G.T.Shirley、関根 剛、内田雅子、桜井礼子

大学の国際交流に関連する事項の企画立案、運営をした。

本年度は、主にソウル大学と本学との学生交流の企画・運営と第4回看護国際フォーラムの企画・運営を行った。両企画をスムーズに運営するために、フォーラム、学生交流ともにSGを立ち上げ、教員の方々の協力を得た。

1 - 1 1 就職対策委員会

委員：佐藤和子、影山隆之、宮崎文子、佐伯圭一郎、工藤節美、藤内美保、吉留厚子、門脇俊彦、安部正雄（教務学生課）

就職・進学に関する情報の収集・提供と前年度までに確立した就職活動支援システムにそった企画・運営・指導を行った。今年度は特に、学生の主体的な就職活動の推進と、それを可能にする支援システムの充実を

重点目標とした。就職・進路ガイドブックを読みやすく活用しやすいものになるよう改訂し、進路指導ガイダンス（平成14年7月、平成15年2月）には、2年生以上の学生の積極的参加を呼びかけた。特に、7月ガイダンスでは卒業生、2月ガイダンスでは4年生を各数名招いて体験談を話してもらい、在学生の動機づけを高めることを図った。さらに、面接・小論文 マニュアルを作成し、72名の学生に臨場感のある模擬面接を行った。学生個々の就職活動に対しては、各研究室の教員を中心にした指導を要請した。卒業生に対するアンケート調査を行い、就職後の情報収集と状況把握に努めた。

1 - 12 大学院設置準備委員会

委員：草間朋子、栗屋典子、市瀬孝道、甲斐倫明、洪 麗信（12月末まで）、
小出綱夫（事務局長）、石川 誠（総務課）、門脇俊彦（教務学生課）

事務局：渡辺康弘（総務課）

平成16年4月の大学院後期課程開設に向けて、設置の趣旨、専攻領域、開講科目など基本計画案を検討した。

1 - 13 その他

1) 衛生委員会

構成員：草間朋子、関根剛、石川誠（総務課）、渡辺康弘（総務課）

教職員の健康の維持と増進のため、定期健康診断を中心とした健康管理に関する情報を、タイムリーにきめ細かくメールを用いて提供をした。さらに、教職員および地域住民に快適な環境を提供するため、屋外を含めて学内全体の環境の美化に努めた。

2) インターネットジャーナルWG

構成員：草間朋子、佐藤和子、甲斐倫明、稲垣 敦、G. T. Shirley、桜井礼子、伴 信彦、定金香里、
高波利恵

平成14年は新編集委員の推挙、和文の執筆要項の再検討、執筆の依頼、広報手段の検討、編集委員会開催の準備、第3巻第2号、第4巻第1号、第4巻第2号の企画及び編集に関する実務が行われた。インターネットジャーナル「大分看護科学研究」第3巻第2号は平成14年6月に刊行され、本学ホームページ上（<http://www.oita-nhs.ac.jp/journal/index.html>）で公開された。

3) 短期海外派遣研究員選考会

構成員：草間朋子、栗屋典子、齋藤高雅、河島美枝子

本年度より選考委員を除く教員全員の応募が可能となった。派遣期間と派遣人員それぞれ1ヶ月、3名としている。選考基準として①意欲、目的 ②本人の将来の研究への貢献 ③本学における教育への貢献 ④準備の進捗状況 ⑤海外研修の必要性の5点を考慮して、申請者が提出した研究概要書を審議した。その結果、3名（稲垣 敦、伴 信彦、定金香里）を選考し、教授会へ推薦した。

2 学内外行事の概要

2 - 1 学 年 歴

前期

休日もしくは講義を行わない日

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

8	入学式
9	オリエンテーション（1年次生、3年次編入生）
10	オリエンテーション（1～4年次生）
11	前期授業開始
15～26	前期履修登録
17, 24	学生定期健康診断

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

13～	地域看護学実習及び 老人看護学実習2（4年次生）
-----	-----------------------------

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

～14	地域看護学実習及び 老人看護学実習2（4年次生）
11	前期後半授業開始
17～	助産学実習（4年次生選択）
19	開学記念日（休講）
24～	総合実習（4年次生）

7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

～5	総合実習（4年次生）
20	夏季休業開始

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

5	オープンキャンパス
---	-----------

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

1	大学院入学試験
6	授業開始
12～20	初期体験実習（1年次生）
～20	助産学実習（4年次生選択）
24～	後期履修登録
29	編入学試験
30～	成人・老人Ⅰ、小児、母性、精神看護学実習（3年次生）

後期

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

- 1 後期授業開始 (3, 4年次生)
- 7 後期授業開始 (1, 2年次生)
- ～18 後期履修登録

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

- 9～10 若葉祭
- 17 特別選抜試験(推薦・社会人)

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

- 2 後期後半授業開始
- ～20 成人・老人I、小児、母性、
精神看護学実習 (3年次生)
- 21 冬季休業開始
- 24～25 卒業研究発表会

1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
13	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

- 8 授業開始
- 15～ 基礎看護学実習及び
看護アセスメント学実習 (2年次生)
- 17 センター試験準備 (1, 3, 4年次生休講)
- 18～19 センター試験

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

- ～14 基礎看護学実習及び
看護アセスメント学実習 (2年次生)
- 21 看護師国家試験
- 22 保健師国家試験
- 24 助産師国家試験
- 25 一般選抜試験(前期)及び
特別選抜試験(私費外国人留学生) (休講)

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

- 1 春季休業開始
- 12 一般選抜試験(後期)
- 18 卒業式
- 27 国家試験合格発表

2 - 2 オープンキャンパス

大学進学希望者やその家族および進路指導者の教員等を対象に、本学の特徴と施設等を紹介する「オープンキャンパス」を開催した。

日 時：平成14年8月5日（月）

午前の部 9：30～12：30

午後の部 13：30～16：30

内 容：説明会（1時間30分）

本学の概要：草間朋子

看護学とは：粟屋典子

教員から一言：高橋 敬、伴 信彦、後藤由美

学生から一言：丸上輝剛、下川益美

入試について：佐藤俊実（教務学生課）

学内見学（1時間）：各部署に担当教員配置 43名

学生ボランティア 12名

個別相談（学生生活） 齋藤高雅、宮崎文子、河島美枝子、佐藤和子
（奨学金） 矢部美香（教務学生課）

参加者：午前の部 235名

午後の部 108名 計 343名

2 - 3 公開講座、公開講演会、公開講義

1) 公開講座

昨年と今年の統一テーマは、「21世紀の看護」であり、今年は「EBN に向けた看護研究とは？」という副題で開講した。9月から11月までに5回、隔週土曜日に開催した。なお、公開講座は昨年からの看護職を対象としている。

統一テーマ 21世紀の看護 — EBN に向けた看護研究とは？ —

回	講師名	日	時	演 題
第1回	草間朋子	9月14日（土）	14:00～16:00	「EBN 概論」
第2回	佐伯圭一郎	9月28日（土）	14:00～16:00	「看護研究のデザイン」
第3回	影山隆之	10月12日（土）	14:00～16:00	「ちょっとまで！社会的・心理的アプローチ」
第4回	吉武康栄	10月26日（土）	14:00～16:00	「生体信号処理のレシピ」
第5回	吉留厚子・内田雅子	11月9日（土）	15:00～17:00	「看護研究の実例」

2) 公開講義

「総合人間学」について、学生と一般市民を対象とする公開講義として9回実施した。学外からの参加者は延べ590名であった。（4年次後期）（32頁参照）

2 - 4 第4回看護国際フォーラム

今年度は、「看護の質的研究—グランデッド・セオリーを中心に—」をテーマにし、看護における質的研究に造詣の深い2名の講師を国内外から招聘した。現在、質的研究に取り組んでいる方々や、これから質的研究に取り組みたいと考えている看護職の方々に、質的研究をわかりやすく身近なものとして理解し活用していただけるようにと考え、企画した。

なお今年度は例年会場としてきた別府ビーコンプラザがとれなかったため、本学の講堂で開催した。フ

フォーラム参加人員は210名（県内：63名、県外：44名、学内：学生57名、教員46名）であり、県外からも多数の参加があった。

日時：平成14年11月23日（土）13時～17時

場所：大分県立看護科学大学 講堂

演題および演者

「Grounded Theory :Paradigm and Application to Nursing Research」

ジュリエット・コービン先生（アルバータ大学 質的方法国際研究所 米国）

「グランデッド・セオリーの看護研究への適用の実際」

戈木クレイグヒル滋子先生（東京都立保健科学大学）

2 - 5 第4回大分看科大/ソウル大学研究交流会

ソウル大学との学術交流の一環として、ソウル大学看護大学から2名の講師を招き、「看護教育における看護情報学の課題と展望（Nursing Informatics and Nursing Education: Prospect and Issues）」をテーマに研究交流会を開催した。本学からも1名の演者が発表を行った。

日時 平成15年3月17日（月）

演題および演者

1. Progress in Nursing Informatics: Research and Practice
Park, Hyeoun- Ae, PhD, Associate Professor
2. Nursing Informatics in Japan : Current Educational Program for Undergraduate
佐伯圭一郎 健康情報学助教授
3. Education of Nursing Informatics in College of Nursing ,Seoul National University
Hong, Kyung Ja, PhD, Dean and Professor

2 - 6 姉妹校学生交流

ソウル大学との学生交流

ソウル大学からの学生受け入れ

受け入れ期間 平成14年6月21日（金）～6月29日（土）

受け入れ学生7名 教授1名

4年生	曹 松 爾 (Cho Song-e)	金 美 泳 (Kim Mi-yeon)
	李 相 英 (Lee Sang young)	朴 世 恩 (Park Sae-eoun)
3年生	金 鎮 暎 (Kim Jin-young)	權 榮 玉 (Kwon Young-ok)
	金 姫 俊 (Kim hee-jun)	
教授	金 錦 順 Kim Keum Soon	

本学の実習センターに宿泊し、日本での看護実践の現場を見学した。主な訪問施設は、大分県立病院、別府リハビリテーションセンター、佐伯市保健所、佐伯市役所、渡辺助産院、百華苑（介護老人福祉施設）である。

また、教員によるウェルカムパーティ、学生による、風の広場でのバーベキューパーティが催され、ソウル大学の教員・学生と本学の教員・学生との交流が行われた。また、阿蘇・久住、別府の観光、新たな観光スポットであるビックアイの見学や、サッカーの試合を共に観戦するなどを通して学生同士の交流が図られた。

本学よりソウル大学への学生派遣

派遣期間 平成14年8月25日(日)～9月1日(日)

派遣学生 桑野 紀子(1年) 芦田 沙矢香(2年) 櫛山 桂世(2年)
高瀬 珠子(3年) 大津 優子(4年) 甲斐 仁美(大学院生)

応募者14名より5名が選考された。また今年度から大学院生1名が参加した。

教員は、高橋敬教授、伊東朋子講師2名が大分から同行し、また、ソウル市では、洪麗信教授が施設見学に同行した。

韓国での主な訪問先は、ソウル大学と構内にある博物館、中央図書館、サムソンメディカルセンター、産後ケアセンター、南楊州市の保健センターと栗石保健診療所等であった。また、南山伝統家屋村や東門、南門市場でのショッピングなどの体験は、韓国の文化にふれる機会となった。

2 - 7 第5回若葉祭(大学祭)

2年次生を中心に1年次生を加えた学園祭実行委員会(中島道子委員長)の主催により、晴天の中、2日間にわたり盛大に開催された。

昨年の経験と反省を踏まえて、また、関係者の暖かいご支援・ご協力により、大成功に終わった。

日 時 平成14年11月9日(土)～10日(日)

参加者 延べ約1,500名

イベント等

- ・ 大分大学ブラス演奏
- ・ 抽選会 Part 1～2
- ・ 野津原町子ども神楽
- ・ カラオケ
- ・ 第六感クイズ
- ・ ヘアーショー(第1部・第2部)
- ・ 超豪華抽選会
- ・ 看護大生の主張
- ・ 浴衣で卓球大会
- ・ 健康チェックコーナー
- ・ 裏ミス in 看護大
- ・ 紙ひこーきとぼしっこ大会
- ・ 美男子バトル
- ・ 二人は一緒
- ・ 献血
- ・ 募金(ALS)
- ・ 国際協力写真・パネル展
- ・ ミス・ナース服コンテスト
- ・ 西の洲会によるハーモニカ演奏
- ・ 福岡吉本興業お笑いライブ
- ・ ゲームの鉄人に挑戦(ニュースポーツゲーム)
- ・ 一人芝居「冬の銀河」～エイズと戦う血友病患者の訴え～
- ・ わかる人にはわかる! 実行委員プレゼンツ・○×クイズ
- ・ 実行委員プレゼンツ! ウキウキビンゴ大会
- ・ 模擬店(焼きそば等)
- ・ お茶会(サークル「茶道部」、サークル「裏千家茶道部」)

※ 大学主催の公開講座「看護研究の実例」を同時開催

3 教育活動

3 - 1 平成14年度入学者選抜状況

1) 概 要

一般選抜では、募集人員を一般選抜前期日程40人、特別選抜30人に変更し入学者選抜を実施した。

選抜の区分及び募集人員、入学者選抜試験の概略は次表のとおりである。

選抜の区分及び募集人員

学 部	学 科	入学定員	募 集 人 員			
			一 般 選 抜		特 別 選 抜	
			前期日程	後期日程	推 薦	社 会 人
看護学部	看護学科	80人	40人	10人	30人	若干名 ^{注)}

注) 社会人の募集人員「若干名」は推薦の30人に含まれます。

入学者選抜試験の概略

(単位：人、倍、%)

区 分	志願者	受験者	競争率	合格者	入 学 者			
					計	県 内 (率)	男 (率)	
特 別	推 薦	85	85	2.9	29	29 (100.0)	0 (0.0)	
	社会人	15	15	7.5	2	0 (0.0)	0 (0.0)	
	計	100	100	3.2	31	29 (100.0)	0 (0.0)	
一 般	前 期	274	252	5.7	44	39	12 (30.8)	1 (2.6)
	後 期	258	150	13.6	11	11	3 (27.3)	2 (18.2)
	計	532	402	7.3	55	50	15 (30.0)	3 (6.0)
合 計	632	502	5.8	86	81	44 (54.3)	3 (3.7)	

試験教科等

区 分	教 科	試 験 期 日	出 願 期 間
特 別	推 薦	平成13年 11月18日(日)	平成13年 11月1日(木)～11月8日(木)
	社会人		
一 般	前 期	平成14年 2月25日(月)	平成14年 1月28日(月)～2月6日(水)
	後 期	平成14年 3月12日(火)	

2) 特別選抜試験

① 推薦選抜

大分県内の高等学校卒業見込者の中から、調査書の全体の評定平均値が4.0以上で、各高等学校長から推薦された生徒を対象に、総合問題と面接により実施した。

② 社会人選抜

社会人としての実体験から看護学への強いモチベーションを持った学生を確保することにより教育・研究への活性化を図るため、また、生涯学習の要請に対応するため、社会人選抜を実施した。

年齢が満24歳以上で、社会人の経験を3年以上有し、大学入学資格を有する者を対象に、総合問題と面接により実施した。

3) 一般選抜試験

平成14年度大学入試センター試験で本学が指定する教科・科目(下表参照)を受験した者について、分離分割方式(前期日程、後期日程)により試験を実施した。

なお、本学で実施する試験は、前期日程では総合問題、後期日程では総合問題と面接により実施した。

日程	教科名	科目名	教科・科目数	
前期日程	国語	『国語Ⅰ・国語Ⅱ』(近代以降の文章)	4教科4科目	
	数学	『数学Ⅰ・数学A』、「数学Ⅱ」、『数学Ⅱ・数学B』から1科目を選択		
	理科	「物理ⅠB」、「化学ⅠB」、「生物ⅠB」から1科目を選択		
	外国語	『英語』		
後期日程	国語	『国語Ⅰ・国語Ⅱ』(近代以降の文章)	3教科3科目	
	数学	『数学Ⅰ・数学A』、「数学Ⅱ」、『数学Ⅱ・数学B』から1科目を選択		2教科 2科目 を選択
	理科	「物理ⅠB」、「化学ⅠB」、「生物ⅠB」から1科目を選択		
	外国語	『英語』		

注1)「国語」については、「近代以降の文章」の得点のみを合否判定に用います。

注2)「数学」及び「理科」において、複数科目を受験した場合は、高得点の科目をその教科の得点とし、合否判定に用います。なお、後期日程については、「国語」、「数学」及び「理科」の3教科を受験した場合には、高得点の上位2教科を合否判定に用います。

3 - 2 平成14年度3年次編入学試験状況

概要

就業看護職員等の生涯学習に対する強いニーズに対応するため、3年次編入学試験を、看護系短期大学又は看護系専修学校の専門課程を卒業した者及び卒業見込者を対象に、英語、総合問題及び面接により実施した。

募集人員

学 部	学 科	募集人員
看護学部	看護学科	10人

試験の概略

(単位：人、倍、%)

区 分	志願者	受験者	競争率	合格者	入 学 者		
					計	県 内 (率)	男 (率)
短期大学	22	22	7.3	3	2	2 (100.0)	0 (0.0)
専修学校	33	32	—	0	0	0 (0.0)	0 (0.0)
合 計	55	54	18.0	3	2	2 (100.0)	0 (0.0)

試験科目等

試験科目	試験 期 日	出 願 期 間
英 語 総合問題 面 接	平成13年 9月2日(日)	平成13年 8月2日(木)～8月9日(木)

3 - 3 平成14年度大学院修士課程入学試験状況

概 要

看護職の指導的役割を担う人材を育成し、地域社会における健康と福祉の向上及び看護学の発展に寄与することを目的として、大学卒業等又は看護師、保健師、助産師の資格を有し3年以上の実務経験がある者を対象に、英語（総合問題）、専門科目及び面接により実施した。

募集人員

研究科名	課 程 名	専 攻 名	募集人員
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	6名

試験の概略

(単位：人、倍、%)

区 分	志願者	受験者	競争率	合格者	入 学 者		
					計	県 内 (率)	男 (率)
修士課程	18	18	2.6	7	7	4 (57.1)	0 (0.0)

試験科目等

試験科目	試験 期 日	出 願 期 間
英 語 専門科目 面 接	平成14年 2月17日(日)	平成14年 2月1日(金)～2月7日(木)

3 - 4 講義

1. 一年次

- 1) 自然科学の基礎 前期 (04/17/02～09/27/02) 2 単位
担当：甲斐 倫明、赤羽 恵一、鈴木 真也、吉永 祐子、定金 香里
佐伯 圭一郎

看護学を専攻する学生の自然科学の基礎的理解を深めるために次の講義を行った。(1)20 世紀の自然観革命、(2)なぜ、天気予報の単位は変わったか、(3)熱と圧力、(4)暦と自然現象、(5)化学の基礎、(6)有機化合物の構造、(7)有機化合物の反応性、(8)身の回りの化学反応、(9)生命の誕生と遺伝子の起源、(10)生物の多様性と進化、(11)体細胞分裂と DNA の複製、(12)配偶子形成と個体発生、(13)微分法の意味とその応用、(14)積分法の意味とその応用、(15)確率の基本 1、(16)確率の基本 2

- 2) 生体構造機能論 前期 (04/12/02～09/27/02) 2 単位
担当：高橋 敬、吉永 祐子、安部 眞佐子

看護学各分野の基盤になるために正常なヒトの構造（骨格、筋肉、血管系、内分泌系、神経系その他）とそれらの生理機能について教科書（解剖生理学）に沿って講義した。内容を印象づけ、また基本的な理解を深めるためにプラスチックモデルを用いたり、ビジュアルな方法を踏襲した。すなわちパソコンのスライド表示（パワーポイント）や、ビデオ画像をパワーポイントに埋め込んだものを動画で説明し、それをプリントアウトして配付した。豊富な図や絵は教材作製室でデジタル化したり、オックスフォード大学出版部のホームページからダウンロードしたものを活用した。講義と並列して大分医科大学の解剖学教室の協力で藤倉義久教授を含む 6 名の教官による 6 時間の人体解剖実習見学を行なった（9/26）。

- 3) 生体代謝論 前期 (04/15/02～09/30/02) 1 単位
担当：安部 眞佐子

生体での基本的な代謝の状況を理解するために、生体分子の種類と名前、簡単な構造上の特性について講義した。また、遺伝子発現、複製を含む情報代謝についても言及し、学年進行に応じられる準備段階として、併せて基本的な遺伝学に関する用語に関してもふれた。

- 4) 生体微生物反応論 後期 (11/18/02～02/17/03) 1 単位
担当：吉田 成一、西園 晃、園田 祥子

微生物と生体、環境との関わり、特に微生物感染症について、を理解させることを主要な目標として、以下の項目について講義した。消毒・滅菌法、感染症、食中毒、病原細菌学、病原ウイルス学、各種感染症とその原因。

- 5) 体育 前期後期 (04/12/02～02/26/03) 1 単位
担当：吉武 康栄、稲垣 敦

主として、健康の維持・増進のために必要な理論と方法について講義・実技を行った。また、生涯スポーツの基礎を養うことを目的とするとともに、体力測定を前期・後期の 2 回行うことで、自己の体力を認識・改変させることも目的として授業を行った。さらには、ダイエット講義、トレーニング講義を行い、最新の知見を提供しながら生活習慣に対する生体の適応について理解させることに努めた。

- 6) 人のこころの仕組み 前期 (04/11/02～09/30/02) 1 単位
担当：齋藤 高雅、関根 剛

人のこころの仕組みに関する基礎的事項の講義を行った。「見ること」、脳と神経、学習、マインドコントロールなどを通じて、こころとは何かについて考え、さらに、パーソナリティ形成、こころの発達や障害について学習した。具体的には、性格形成における遺伝と環境、性格把握のための類型論と特性論、心の成り立ちに

ついてフロイト・ユング・エリクソンの諸説の概要説明、また、パーソナリティ障害について、ハンドアウトを配布して講義を進めた。毎回、講義終了後、講義の感想あるいは質問の提出を求め、これにより講義の理解度を確認しながら講義を進めた。

7) 哲学入門 前期前半 (04/17/02～06/06/02) 1単位
(人間と倫理) 担当：西 英久

受講者が人間とは何かという問いを自ら考えること、また、真、善、美、聖の価値を再度問い直すことををねらいとして、「私(人間)は何を知り得るか」という哲学の根本問題が思想家において如何に考えられているかを教授した。具体的項目は、人間とは何か、(哲学的人間学)、人間尊重の精神(カント哲学を中心に)、自由について、幸福について、弁証法(ヘーゲル哲学を中心に)、現代哲学の諸問題(実存主義・現象学)などである。

8) コミュニケーション論 前期 (04/13/02～10/03/02)
(身体表現法) 担当：関根 剛、齋藤 高雅

コミュニケーションにおける言語的・非言語的表現に関して、いくつかのグループエクササイズや箱庭の制作を通じて体験的に、非言語的表現の大きさや言語的表現の意味などについて理解を深める機会をもった。また、グループ別に異なる課題を与えて、実際に行動観察をおこなった。その結果は、効果的なプレゼンテーションの方法などについて解説をした上で、実際にプレゼンテーションする体験をもった。また、講義終了後、講義の感想あるいは質問の提出を求め、講義の理解度を確認し、講義のすすめ方の参考とした。

9) 人間と社会 前期 (04/15/02～09/30/02) 1単位
担当：大杉 至

まず、「現代社会論」により、現代社会の特質とその動向をさまざまな観点から考え、さらに家族や地域といった集団と個人の間を講義した。また、自殺、飛行問題、いじめなど、現代における社会的諸問題を具体例に即して社会学的に捉え、看護に携わる者、市民に必要な社会的資質を養うことを目指した。

10) 法学入門 前期前半 (04/11/02～06/06/02) 1単位
(生活と社会システム) 担当：二宮 孝富

暮らしの中で重要な役割を果たしている法について理解するために、日常生活の局面に法がどのように関係しているか、特に、医療、福祉にかかわる問題に重点をおいて、さまざまな事例をもとに解説した。具体的には、法と裁判、消費生活と法、家族生活と法、事故・賠償と法、福祉と法、医療と法である。

11) 経済学入門 前期後半 (06/13/02～09/26/02) 1単位
(生活と社会システム) 担当：合田 公計

私たちが安心して働き、生活するために必要な社会システムのあり方を、日本経済の全体的な特徴、教育、労働、社会保障、税、公共事業の側面から考察した。具体的には、経済って何？、日本経済は何にお金を使っているのか、労働者保護法制と労使関係、労働保護法制の変容、日本の医療費、公的医療保険制度、高齢化社会は危機か？、公共事業のあり方を考える、どのような社会システムを築くべきか、などである。

12) 文化人類学入門 前期 (04/16/02～09/30/02) 2単位
(比較文化論) 担当：原 智章

文化人類学の基礎的な概念とともに、人間の多様性と普遍性、「他者」についての理解を深めることを目的に、文化人類学とは何か、グローバル化とは何か、文化人類学の方法、歴史、文化の概念、言語とコミュニケーション、性別とジェンダー、婚姻・家族、宗教と死生観、について医療人類学、教授した。

13) 環境科学概論 前期(04/16/02～09/24/02) 1単位
担当：甲斐 倫明、伴 信彦、赤羽 恵一

毎回、講義内容をまとめたハンドアウトを配布し、テキストの代わりになるように配慮した。講義内容は次の通りである。(1)環境科学の歴史、(2)大気汚染と水質汚濁、(3)地球環境問題、(4)健康・環境影響と環境リス

ク論、(5)リスクアセスメントと環境基準、(6)環境疫学、(7)環境有害物質の曝露評価、(8)生態リスク、(9)発がんの生物、(10)化学物質の安全性試験、(11)内分泌攪乱化学物質による健康影響、(12)環境リスク対策、(13)ISO規格とリスクマネジメント、(14)リスクコミュニケーション

14) 生活環境論 前期 (06/13/02～09/12/02) 1 単位
(生活の科学) 担当：甲斐 倫明、伴 信彦

我々を取り巻く食環境、水環境、住環境と廃棄物についての基本的事項を解説し、健康で快適な生活を送るための食品保健・環境保健のあり方を論じた。講義内容は次の通りである。食中毒、食品添加物と食品中の残留物質、上水道と下水道、室内汚染、騒音・振動・悪臭、廃棄物、遺伝子組み換え食品

15) 健康情報学 前期 (04/11/02～09/09/02) 1 単位
担当：佐伯 圭一郎

人口統計、疾病情報や保健情報など、様々な健康情報に関して、情報の発生源から、評価の方法までを体系的に学習した。単に様々な統計指標を理解するだけでなく、それらの数値から情報を読みとり、思考する能力を養った。

16) 英語 - A 1 前期 (クラス 1 : 04/13/02～09/28/02) 1 単位
(クラス 2 : 04/16/02～09/24/02) 1 単位
担当：高橋 久夫

VOA の Special English Programs として、1996 年 4 月から 1 年間放送された放送用スクリプトをもとに 20 編に精選されたテキストを読んだ。このテキストの第一の特徴は英文が平易で明解であることで、随所に英語の基本となる語彙や構文が散りばめられている。第二の特徴は話題が up-to-date なものであるばかりでなく、多岐にわたっている点である。環境、食物、健康、動物、遺伝子等々の話題が取り上げられているが、いずれも我々が現在地球規模で直面し、挑戦を受けているものばかりである。これらについての大学やその他の研究者の最新の調査結果が平易で明解な英語で述べられている。

17) 英語 - B 1 前期 (クラス 1 : 04/15/02～09/30/02) 1 単位
(クラス 2 : 04/11/02～09/27/02) 1 単位
担当：Gerald Thomas Shirley

Basic conversation was reviewed and practiced. Listening, pronunciation and usage were also given importance. Conversation important for daily life was practiced in an interesting way.

18) 言語表現法 前期前半 (04/15/02～06/10/02) 1 単位
担当：日高 貢一郎

ことばは、人がお互いの意思を伝え合い、理解しあうために不可欠な手段である。的確で適切なコミュニケーションを図るために、言葉の働き、方言、敬語、話し方、文章表現などを以下の項目で講義をした。言葉の働き、方言の公用、大分の方言、医療と方言、敬語の仕組み、尊敬語と謙譲語、職場と敬語、話し方のポイント、手紙の書き方。

19) 看護学入門 前期前半 (04/11/02～09/27/02) 1 単位
(看護学概論) 担当：佐藤 和子

看護学の導入として、看護とは何か、看護の本質と機能および看護専門職としての役割と活動を理解することを目的に、看護の概念、看護の対象および患者・医療者関係の理解、主な看護理論とその変遷、看護制度および看護教育のとその変遷、専門職としての看護などについて、演習、グループ活動を含めて教授した。

20) 生活援助論 (生命過程) 前期後半 (06/11/02～09/27/02) 1 単位
(生活援助論) 担当：伊東 朋子、玉井 保子、千本 美紀、丹生 紀子

あらゆる看護技術に共通の要素を取り上げ、技術 1 つ 1 つが看護になるための要件を学ぶ。健康に資するよ

うに行動する人々を援助する技術を講義した。項目は観察・記録、療養環境（ベッドメイキング）、運動と休息（ボディメカニクス・体位変換・移動）、バイタルサイン

21) 生活援助論（生命維持） 後期前半（10/20/02～11/29/02） 1単位

（生活援助論） 担当：伊東 朋子、玉井 保子、千本 美紀、重野 文江

生命ならびに生活の過程を整える看護技術の基礎と治療に関連する援助技術の基礎を講義した。項目は 看護記録・コミュニケーション、バイタルサイン、感染予防、無菌操作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲである。

22) 生体反応論 後期（10/10/02～02/18/03） 1単位

担当：市瀬 孝道

病気の本体や成り立ち、修復過程が理解できるように、以下に示す病気の基本となる病変について具体的な疾患名や臨床症状を挙げながら講義を進めた。退行性病変、進行性病変、代謝障害、循環障害、炎症、免疫、感染症、腫瘍、小児・老人疾患。

23) 生体薬物反応論 後期（05/17/02～07/19/02） 1単位

担当：鈴木 真也

シンプル薬理学をテキストに用い、疾病の薬物療法の原理に主眼を置き、薬物を投与した場合の生体反応（局所及び全身）をイメージ出来るよう講義を進めた。また、必要に応じてどのような情報源から薬の情報を得るか？についても解説した。薬物処方における医師の意図、話が理解できる、薬物に関する情報を、適当な資料を見つけて自分で調べることができる、薬に関する不明な点について、適切な日本語で医師／薬剤師等に質問できるように、講義した。

24) 体育 前期後期（04/12/02～02/12/03） 1単位

担当：稲垣 敦、吉武 康栄

運動の楽しさや健康の素晴らしさを体感するため、多くのレクリエーションを体験した。福祉レクリエーション関係のビデオを視聴し、看護や介護におけるレクリエーションの必要性や可能性を考えた。課題として、各学生が独自のニュースポーツを開発した。実技内容は、学内ビソゴ、ソフトバレーボール、リングテニス、フットサル、室内ゲーム各種、アルティメット、スポーツチャンバラ、バトミントンなど。

25) 人間関係学 後期（10/07/02～02/28/03） 1単位

（人間関係論） 担当：齋藤 高雅、関根 剛

人間関係のあり方について理解を深めるため、対人関係の心理・対人行動の心理、援助行動、コミュニケーションなどの基礎理論をはじめに論じ、家族・学校・職場・地域など様々な場や異文化間における人間関係の諸相について論じた。具体的項目としては、対人魅力、タイプと相性、同調と説得、交流分析とゲーム、ヒューマンエラー、リーダーシップ、ソーシャルサポート、および家族・学校・職場など様々な場や異文化間における人間関係と精神保健問題である。毎回、講義終了後、講義の感想あるいは質問の提出を求め、これにより講義の理解度を確認しながら講義を進めた。

26) ME の原理と安全管理 後期後半（12/06/02～02/7/03） 1単位

（医療環境工学） 担当：甲斐 倫明、伴 信彦、赤羽 恵一

毎回、講義内容をまとめたハンドアウトを配布し、テキストの代わりになるように配慮した。講義内容は次の通りである。(1) ME とは何か、(2)電磁気に関する基礎知識、(3)生体情報の検出に関する ME 機器、(4)X線診断装置、(5)超音波診断装置およびMRI、(6)生命維持に関する ME 機器の実際、(7)ME 機器の安全対策

27) 生物統計学 後期（10/11/02～02/14/03） 1単位

（健康情報管理学） 担当：佐伯 圭一郎

基本的な統計学の知識を実際の調査・研究の場面と関連づけながら、情報収集と分析の技法について学んだ。特に、統計的な方法論の考え方に重点を置き、あわせて情報の取り扱いに付随する情報モラルや倫理的側面に

についてもふれた。

- 28) 英語 - A2 後期 (クラス1 : 10/15/02~02/26/02) 1単位
(クラス2 : 10/09/02~02/18/02) 1単位
担当 : 高橋 久夫

独特の軽妙な風刺たっぷりの twist(もじった) English で書かれているので、しゃれた挿絵も手伝って楽しく読みながら英語力を磨き、且つ、医学上の重要人物や医学的発見、重要な病名などについての知識を得ることができたと思う。

- 29) 英語 - B2 後期 (クラス1 : 10/11/02~02/18/03) 1単位
(クラス2 : 10/8/02~2/28/03) 1単位
担当 : Gerald T. Shirley

Useful language at a basic level in a meaningful context continued to be practiced. Model conversations followed by guided activities designed for pair work were used to maximize speaking time.

- 30) 看護疾病病態論 後期 (12/3/03 ~ 2/27/03) 1単位
(看護疾病概論) 担当 : 藤内 美保 安部 恭子

看護者として何を観察し、どのような看護が必要かを導くための、医療者として必要不可欠な疾病に関する病態生理、臨床像、検査、治療について系統別・疾患別に教授した。対象とした疾患系は、循環器系、呼吸器系、血液・造血器系、内分泌疾患、代謝疾患、自己免疫性疾患である。

- 31) 健康論 前期 (04/16/02~06/04/02) 1単位

健康の概念と健康に対する考え方の歴史的変遷を理解し、健康の意味を考え、健康の維持・増進の重要性について学ぶことを目的とした。さらに人々の健康ニーズを把握し、健康増進活動における看護職の役割を認識するとともに、専門職として積極的に取り組む姿勢を養うための講義を行った。

担当 (講義回数) : 概要

担当 : 草間 朋子 (2)	健康の概念と健康政策、生活習慣と健康
永松 啓爾 (1)	クロイツフェルト・ヤコブ病とその周辺
平野 互 (4)	健康の価値、健康度の評価、健康づくり
桜井 礼子 (3)	ライフサイクルと健康、運動・栄養・ストレスと健康
八代 利香 (1)	環境と健康
宮崎 文子、河島 美枝子、栗屋 典子、高野 政子、木下 由美子、洪 麗信	

- 32) 看護情報学概論 後期前半 (10/08/02~11/28/02) 1単位
(看護学概論) 担当 : 佐藤 和子

看護職は臨床や地域において保健医療活動を行ううえで多くの看護情報に遭遇する。看護活動の全過程において、看護情報がどのように生成、処理、利用されているか、また、看護情報の検索、蓄積、伝達について理解することをねらいに、看護情報とは何か、看護と情報科学の関連や医療情報システムおよび看護情報システムの概要、看護過程や看護記録との関連について教授した。特に、看護情報の収集、処理過程については、学生の関心のある保健・医療・福祉に関するテーマを取りあげ、グループごとに文献の検索を行い、学習の成果を報告した。

2. 二年次

- 1) 生体構造機能特論 前期 (04/15/02~06/08/02) 1単位
担当 : 高橋 敬、吉永 祐子

生体の構造と機能の各論的な講義を行なった。すなわち進化をまじえた比較動物学、クローン生物学、老化

の生物学などをとりあげより深く理解できるようにパソコンのスライド（パワーポイント）とそのプリントアウトしたものを配付した。特にクローン問題はアップツウデイトであるばかりでなく、倫理問題にも関わる重要項目である。さらに人口問題、発生学、形態形成などの人体の構造機能に力点を置いた。すなわ本質をよく理解させるために、印刷は同じ絵のコピーを何枚でも複製できるところから説き起こした。また老化の生物学は永久に生きられる不老長寿の原理にも触れ、生体機能のもつ合理性に言及した。そして、人口増殖の問題はパソコンによるシミュレーションで十分理解できるので、エクセルの使用法を説明し数式を解いた。講義の評価はレポートで行なった。

2) 感染免疫学 前期 (04/15/02～06/10/02) 1 単位
(感染特論) 担当：鈴木 真也

看護微生物学 内田勝久 (他5名) 著 (医歯薬出版) をテキストとして用い、必要に応じてビデオも使用した。細菌、ウイルス等の病原微生物に対する生体防御機構である免疫系を頭の中でイメージできることを到達目標として講義を進めた。

3) 健康運動論 前期 (04/17/02～09/09/02) 1 単位
(健康運動論 I) 担当：稲垣 敦

生物の進化に伴う形態や運動機能の変化、加齢や不活動による体力の低下などに関する知見をもとに、体力や運動の重要性や健康との関連性を講義し、トレーニング理論と具体的な運動の仕方についても解説した。また、筋力や柔軟性の測定実習を行った。講義内容は、健康関連体力、筋力、筋肉痛、柔軟性、トレーニング理論、運動強度の表し方、運動エネルギーの供給システム、呼吸循環器系持久力など。

4) カウンセリング論 前期 (04/11/02～9/30/02) 1 単位
担当：齋藤 高雅、関根 剛

臨床的援助のみならず、より広い対象へのカウンセリング的援助の基礎理論について学べるよう、事例を交えながら精神分析療法をはじめとする各種の心理療法の基礎的な考え方を論じた。対象とした心理療法は以下のものである。精神分析療法、来談者中心療法、認知行動療法、ブリーフ・セラピー、箱庭療法、森田療法、集団心理療法、セルフヘルプ・グループ、家族療法。さらに、障害受容、ターミナルケアについて論じた。講義では、内容をまとめたハンドアウトを配布し、適宜、視聴覚教材を使用した。毎回、講義終了後、講義の感想あるいは質問の提出を求め、これにより講義の理解度を確認しながら、講義を進めた。

5) 音楽とところ 前期 (04/15/02～9/30/02) 2 単位
担当：宮本 修

現代社会では、音楽に対する機会が多くなってきた。さまざまなメディアを通して、あらゆるジャンルの音楽を耳にすることができる。講義では、クラシック音楽からポピュラー音楽まで鑑賞し、音楽とところの関係を考察した。また、ストレス社会における音楽の癒しについて、さらに音楽療法（音に感じる、音楽を楽しむ、音楽で考える、音楽を感じる）についても言及した。

6) 人間行動論 前期前半 (4/12/02～9/19/02) 1 単位
担当：関根剛

学習心理学の原理を応用して、人の行動を変化させるための考え方の基礎および技法について解説をした。その際に、他人の行動に影響を与える上での倫理についての講義を受講することを条件とした。内容はできるだけ日常生活や看護場面につながるような一例をあげ、課題に取り組んだり、トークンを用いたりするなど、行動分析的な実際例を講義の中に取り入れた。また、講義終了後、講義の感想あるいは質問の提出を求め、講義の理解度を確認し、次回の講義の最初にフィードバックするなどの工夫をした。

7) 美術とところ 前期 (04/15/02～9/30/02) 2 単位
担当：澤田 佳孝

自己を表現することの楽しさ、感じたこと・考えたことを形にすること(造形表現)の歓びを、描く体験を通

じて理解することをねらいとして、素描を中心とした描写、色彩表現、総合表現について教授した。

8) 応用情報処理学 前期後半 (06/14/02～09/13/02) 1 単位

担当：佐伯 圭一郎、品川 佳満、中山 晃志

看護研究の場を想定し、実際のデータ例に基づいて、高度な統計手法を含みながら、一部演習形式で学習を進めた。

担当者（講義回数）：概要

佐伯 圭一郎（4）：観察的・実験的研究における統計手法、観察的研究における統計手法

中山 晃志（1）：多変量解析

佐伯・品川・中山（3）：SAS 実習

9) 英語 - A1 前期 (クラス1：04/13/02～09/28/02) 1 単位

(クラス2：04/16/02～09/24/02) 1 単位

担当：高橋 久夫

今日の地球環境問題、社会問題そして現代生活の種々の課題について英語を通して読んで理解し、語彙、文法事項が厳選されて含まれているので、学生が時事英語力と総合的な英語力を高めることができたと思う。

10) 英語 - B1 前期 (クラス1：04/17/02～09/25/02) 1 単位

(クラス2：04/12/02～09/30/02) 1 単位

担当：Gerald T. Shirley

Natural language in everyday situations was practiced in order to increase students' command of simple, spoken American English. Interesting and fun speaking and listening activities such as role play were practiced in pairs and small groups.

11) 生活援助論：診断治療 前期 (04/12/02～06/05/02) 1 単位

(生活援助論)

担当：伊東朋子、玉井保子、千本美紀、丹生紀子

1 年次の生活援助論で修得した技術を活用し、基本的ニーズをさらに充足させる技術を学ばせ、診断・治療に伴う看護技術を講義した。項目は排泄（導尿・浣腸）、与薬、吸入・吸引、検査である。

12) 臨床看護総論 前期 (06/13/02～09/26/02) 1 単位

担当：伊東 朋子、藤内 美保

看護実践を意図的、系統的に行うための問題解決法について学ばせ、看護過程を実践するための具体的な方法について教授した。具体的項目は 看護過程の概念と意義、看護過程の歴史の変遷及び理論、看護過程の展開：看護の診断(1)、看護過程の展開：看護の診断(2)、看護過程の展開：看護の診断(3)、看護過程の展開：計画立案、看護過程の展開：実施、看護過程の展開：評価である。

13) 看護と遺伝 前期後半 (6/13/02～9/26/02) 1 単位

担当：佐渡 敏彦、吉河 康二

遺伝学の基礎および人の遺伝とその発現のしくみを理解し、看護者として患者の抱く遺伝病や遺伝子診断についての疑問に的確に答えられるだけの問題解決能力を育てることを目的に、遺伝学の基礎、遺伝子の発現のしくみ、発生と遺伝子、ヒトの遺伝病とヒトゲノム計画の展開、遺伝カウンセリング、遺伝子診断技術、遺伝子生命倫理について教授した。

14) 看護アセスメント方法論 前期後半 (6/11/02～9/24/02) 2 単位

担当：藤内 美保、安部 恭子、神田 貴絵

クライアントの看護に必要な情報の収集を身につけることを目的とし、症状別の病態のメカニズムや観察のポイントを中心に系統的に教授した。3 コマ連続の講義・学内実習を7 週間行い、インタビュー技術の方法論、呼吸器系、循環器系、消化器系、筋骨格器系、神経系、腎泌尿器系の身体システム別にアセスメントの基礎的知識と技術を身につけるための授業を展開した。さらに、検査・処置を主体として各系統別に事例のア

セスメントを演習形式で行い、これまでの知識を活用させた。

- 15) 看護疾病病態論 前期 (04/11/02 ~ 06/06/02) 2 単位
担当: 藤内 美保、安部 恭子、神田 貴絵、法化 陽一、山崎 透
今泉 雅資、堀 文彦、原岡 正志

看護者として何を観察し、どのような看護が必要かを導くための、医療者として必要不可欠な疾病に関する病態生理、臨床像、検査、治療について系統別・疾患別に教授した。対象とした疾患系は、消化器系、肝・胆・膵系、筋骨格系器、神経系、腎泌尿器系、アレルギー疾患、感覚器（眼科・耳鼻咽喉科）である。

- 16) 成人看護学概論 前期前半 (04/12/02~06/07/02) 1 単位
担当: 栗屋 典子

社会的に重要な役割を担っている時期に当たる成人期の人々を理解するための基本的事項、及び健康問題をもつ成人に生じやすい多様な問題と看護の役割を教授した。講義内容は、ライフサイクルにおける成人期の特徴、成人期の健康問題の特徴、健康の保持・増進と疾病予防への看護、健康問題をもつ成人期の対象への看護、終末期にある成人期の対象と家族への看護などである。

- 17) 老人看護学概論 前期前半 (04/12/02~06/07/02) 1 単位
担当: 栗屋 典子

高齢者を理解するための基本的事項、及び老年期における健康問題によって引き起こされる身体的・心理的・社会的問題と看護の役割について教授した。講義内容は、ライフサイクルにおける老年期の特徴、老年期における健康問題の特徴、薬物療法・手術療法を受ける高齢者の看護、痴呆症状のある高齢者の看護、保健・医療・福祉施設における高齢者の看護など。

- 18) 成人・老人看護援助論 前期後半 (06/11/02~09/27/02) 2 単位
(成人・老人看護援助論) 担当: 檜原 登志子、内田 雅子、小野 美喜、大津 佐知江、福田 広美

成人期・老年期の身体的・精神的特徴を踏まえて、急性期及び慢性期の健康問題をもつ人々への看護援助の方法を系統的に教授した。主な講義内容は、感覚・知覚・認知・運動機能、栄養と排泄機能、身体調節機能、および手術に関する健康問題をもつ対象への看護援助などである。

- 19) 成人・老人看護援助論 後期 (10/08/02~01/14/02) 2 単位
(成人・老人看護援助論) 担当: 檜原 登志子、内田 雅子、小野 美喜、大津 佐知江、福田 広美

前期後半に引き続き、さまざまな健康問題をもつ人々への看護援助の方法を系統的に教授した。講義内容は、酸素化機能、性と生殖機能に関する健康問題をもつ対象への看護援助、及びクリティカルケア・ターミナルケア・ホスピスケアなど特別な状況における看護である。

- 20) 小児看護学概論 前期前半 (04/11/02~06/10/02) 1 単位
担当: 高野 政子

小児看護の特質と概要を理解するための基本的概念として小児の特徴を発達的にとらえ、小児と環境の関わりを考え小児保健・小児医療の動向を述べ教育・福祉の視点から小児看護の役割と重要性について教授した。具体的な内容は次の通りである。小児看護学の変遷と小児看護の特殊性、世界の子どもの健康と医療、子ども観の変遷と子どもの権利、日本の母子行政・母子保健と家族と親子関係（虐待含む）、小児の成長・発達総論、形態・機能的発達、心理的・社会的・言語的発達。

- 22) 母性看護学概論 前期前半 (04/11/02~09/30/02) 1 単位
担当: 宮崎 文子、神崎 光子

母性看護学の基本概念として、人間の性と生殖の側面から女性の全生涯を通じた健康生活の促進と健康問題への対応に視点をおき、母性看護の役割と重要性について系統的に教授した。内容は次に示すとおりである。

1. 母性とは、母性看護とは 2. 母性看護の変遷 3. 人間の性と生殖の概念と意義、性機能 4. Reproductive

health/rights の概念、gender と sex 5. 家族関係の理論とサポートシステム 6. 母性看護の理論と実際 7. 胎児の成長・発達(母子の歯科保健を含む) 8. 母性愛着行動と母子関係 9. 思春期の特徴とその対応 10. 家族計画と受胎調節 11. 人工妊娠中絶の諸問題、不妊症 12. 更年期・老年期の特徴とその対応 13. 母性の環境と諸問題(労働、環境汚染、文化) 14. 母子保健に関する諸制度

23) 精神看護学概論 後期(10/11/02~01/09/03) 1 単位

担当: 影山 隆之

最初に、心の健康・不健康とは何かという問いをめぐって、精神的健康問題を理解するために重要なさまざまな視点が拠って立つ概念モデルを紹介した。その上で、精神保健看護と精神医学の歴史および現代的意義について概観した。後半の授業では、まず各種の精神症状と状態像について系統的に解説し、精神看護アセスメントの基本的な考え方、およびインタビューの方法について示した。最後に、主な精神疾患について基本的事項を解説した。

24) 保健福祉システム論 後期 (10/08/02~12/16/02) 2 単位

担当: 平野 亙

憲法に謳われた国民の「権利」について示し、権利に対応する国家の義務すなわち社会保険、社会福祉、国家扶助および公衆衛生を内容とする社会保障制度の概要とその意義を論じた。加えて、システム・マネジメントに必要な事業評価とリスクマネジメントについて解説し、さらにインフォームド・コンセントをはじめとする患者・障害者の諸権利の諸相について論じた。

25) 健康運動学演習 後期 前半(10/07/02~11/25/02) 1 単位

(健康運動論Ⅱ)

担当: 稲垣 敦

生物の進化に伴う形態や運動機能の変化から、立つことや二足歩行の意味を考えた。また、看護にかかわる動作を力学的に解説し、簡単な看護ボディメカニクスの測定実習も行った。講義内容は、体重配分、絶対筋力、パワー、基底面、重心、安定性、摩擦力、モーメントなど

26) 心理アセスメント特論 後期後半 (12/02/02~01/14/03) 1 単位

担当: 齋藤 高雅

心理アセスメントの意味、その効用と限界、理論、実施方法などについて論じ、精神健康状態の客観的な評価法・検査法について実際の心理テストを用いて、体験的に学習した。質問紙法(MMPI, YG)、投影法(ロールシャッハ・テスト、TAT、SCT、描画法(HTP、Baumテストなど)、知能検査、発達検査、記銘力検査、精神作業検査、評価尺度(精神健康調査票 GHQ、病態別各スケール、QOL)などを学んだ。

27) 大分の歴史と文化 後期 (10/07/02~01/09/03) 2 単位

担当: 吉良 國光

地域の看護や保健の業務に携わるものにとって、地域の歴史や文化・暮らしを知ることは必須不可欠である。古来、大分県は国内外の諸地域と交流し、それを取り入れながら独自の文化を形成してきた。大分の歴史・地理・文化を景観や文化財など身近な素材を手がかりにして学び、地域の生活者の視点を身につけるために以下の項目を講義した。豊国の形成、律令国家の形成と二豊、中世の台頭、豊後武士団、宇佐八幡宮と荘園公領制、大友氏の内紛、戦国大名大友氏、キリシタン大名大友宗麟。

28) 放射線健康科学 後期前半 (10/07/02~11/29/02) 1 単位

担当: 甲斐 倫明、伴 信彦、赤羽 恵一

現代医療に不可欠な放射線の物理、健康影響、その防護についての基本的な事項を講義した。講義内容は次の通りである。(1)放射線影響と放射線防護の歴史、(2)身近な放射線・放射線源、(3)放射線とは何か、(4)放射性同位元素と放射能、(5)放射線と物質との相互作用、(6)放射線の線量、(7)DNA 損傷と染色体異常、(8)放射線の健康影響(確定的影響)、(9)放射線の健康影響(確率的影響)、(10)放射線リスクの評価、(11)安全の考え方と放射線防護基準、(12)患者のための放射線防護、(13)患者のための放射線防護 Q&A、(14)UV および電磁界の

健康影響

- 29) 英語 - A2 後期 (クラス1: 10/10/02~01/09/02) 1 単位
(クラス2: 10/09/02~01/14/02) 1 単位
担当: 高橋 久夫

現代生活のさまざまな問題がテーマであって、語彙に注釈もより豊富で、一般的なだけの注釈ではなく、文脈に添ったものになっていたので興味深く読み進んでいくうちに英語力を養うことができたと思う。

- 30) 英語 - B2 後期 (クラス1: 10/09/02~01/14/03) 1 単位
(クラス2: 10/10/02~01/09/03) 1 単位
担当: Gerald T. Shirley

Essential English for everyday conversation continued to be practiced. A wide variety of speaking and listening exercises (such as information gap activities) that maximize student interaction were used to stress conversational fluency.

- 31) 母性病態論 後期 (10/09/02~01/08/03) 1 単位
担当: 肥田 木孜、谷口 一郎

母性のライフサイクルにそった主要疾患についての病態・生理、症状、治療、看護への視点から講義をすすめた。対象とした疾患名は次のとおりである。月経異常の鑑別診断、無月経、思春期貧血、子宮内膜症、子宮癌、STD、異常妊娠、異常分娩、異常産褥、産科領域の諸検査、ピルの基本知識と最近の動向、閉経症候群と治療、不妊症と治療、胎児・新生児の異常

- 32) 母性看護論 2 年次後期 (12/03/02~01/08/03) 2 単位
3 年次前期 (04/12/02~06/06/02)
担当: 吉留 厚子、後藤 由美

母性看護の対象は母子のみではなく家族を含むことを認識し、妊娠から分娩、産褥期の生理的変化と心理・社会的側面から対象を理解でき、また、母性看護実習を円滑にできるように具体的に援助方法を提示しながら教授した。

- 吉留厚子 (18) : 妊娠、分娩、新生児の看護
後藤由美 (2) : 産褥期の看護
宮崎豊子 (1) : 異常妊娠・分娩の看護
渡辺しおり (1) : 継続看護

- 33) 地域看護学概論 後期 (10/08/02~11/26/02) 1 単位
担当: 木下 由美子

地域における個人や家族、社会集団へ保健および看護活動を行うために、地域看護学の基本的事項を以下の項目で講義した。地域看護学の概念、地域看護活動の場の特性、プライマリ・ヘルスケアとヘルス・プロモーションの概念、大分県の地域看護活動 (平川 久美氏担当)、地域看護活動の対象と方法 (個人と家族、集団と地域)、地域看護の変遷と今後の課題。

- 34) 国際看護活動論 後期前半 (10/07/02~11/29/02) 1 単位
担当: 洪 麗信

国際社会における責任を認識し、国際交流、国際協力に貢献できる看護職になるための基本的事項として、国際協力の観点から、世界の人々の健康状態とそれに関連する社会、経済、政治、文化、等について論じた。

3. 三年次

- 1) 保健医療ボランティア論 前期後半 (07/22/02~07/23/02) 1 単位
担当: 帖佐 理子

病院内や地域の医療福祉現場でのボランティアの事例や、発展途上国のボランティア活動事例を紹介しながら、ボランティアとは何か、なぜボランティアを行うかを考えさせた。

2) 現代の環境問題 前期前半 (04/15/02～06/10/02) 1単位
(環境保健学) 担当：甲斐 倫明、伴 信彦

現代の環境問題の背景と複雑さ、解決へ向けた取り組み等について、社会・政策的な側面も交えて論じた。講義内容は次の通りである。概論 - 環境問題とは、地球温暖化、環境ホルモン、遺伝子組み換え食品、エネルギー問題と人口問題、ゴミ問題

3) 英語 前期前期 (04/16/02～09/24/02) 1単位
担当：高橋 久夫、Gerald Thomas Shirley

英語を学ぶことは世界を学ぶことである。英語を通して世界遺産のさまざまな問題を学んだと思う。遺産は決して過去のものではない。環境問題、紛争などによってさらなる危機に瀕している、また先住民（マイノリティ）、絶滅動物、観光化、開発などのさまざまな問題とも関連している。世界には国境を越えて、かけがえのない場所があるということを学んでくれたと思う。人類の歴史に学び、自然の偉大さに触れるなかで、時間と空間を越えてよりよい未来を築くことが大切であることも学んでくれたと思う。

4) 韓国語 前期 (04/16/02～09/24/02) 2単位
担当：金 贊曾

韓国語の文の構造は日本語によく似ており、日本人にとってはとても学びやすい言語である。日本語とほぼ同じ発音をする単語が少なくない。また、意味は異なるが、日本語とよく似た発音が存在する。授業ではこのメリットを活かし、実際に使える韓国語の習得ができるように教授した。

5) スペイン語 前期 (04/17/02～09/25/02) 2単位
担当：ALTAMIRANO, Juan Jose

授業では、学生が積極的に参加できるように、学生に心を開き率直に会話をすることを重視した。また、学生にとって、わかりやすく、楽しく、かつ質の高いスペイン語を体験できるように教授した。

6) 発達と援助論 前期 (04/11/02～09/27/02) 2単位
担当：高野 政子、目原 陽子

小児の発達過程の特質を理解するため主要理論に基づき、小児の行動を多面的に捉え、発達過程に応じた日常生活の援助方法と保育方法を講義し演習を行った。また、健康障害のある小児とその家族への援助方法を教授した。講義内容は次の通りである。小児期の主要発達理論と小児各期の発達アセスメント、乳児の保育理論と技術、幼児の保育理論と技術、学童期の保健・看護、思春期の保健・看護、病気の子どもと家族、健康障害（病態と治療）と看護（総論）、障害のある小児と療養生活への援助（各論）、発達障害のある小児の生活への援助、未熟児の看護、親子関係に問題のある場合のケア。

7) 助産学概論 前期 (04/11/02～09/30/02) 1単位
担当：宮崎 文子、吉留 厚子

助産および助産の基本概念について、歴史的変遷から概説し、助産師の責務と社会変化の中で期待される役割と重要性について、さらに助産師活動に積極的に取り組む姿勢について系統的に教授した。内容は次に示すとおりである。1. 助産学の構成 2. 助産の本質・意義・対象 3. 助産の原理原則 4. 助産の歴史とあり方 5. 助産風俗 6. 母子保健の動向と諸制度 7. 助産師の職性と業務（諸外国と日本） 8. 助産師教育（諸外国と日本） 9. 助産学を構成する理論、助産課程の基本 10. 助産ケアに活用できる看護学関係理論 11. 諸外国の助産師活動 12. ICM（国際助産師連盟）の活動 13. 日本の助産師の現状と課題 14. 助産学と研究

8) 助産診断・技術学 前期後期 (05/13/02～02/28/03) 1単位
(助産診断・技術学) 担当：林 猪都子、後藤 由美

助産診断に基づいて、助産を実践するための基本的な知識と技術を理解するために、妊娠分娩期の生理と経過、援助方法について講義と演習を行った。講義内容は次の通りである。助産診断・技術学の意義、妊婦の援助、妊娠期の異常の援助、妊娠期の保健指導技術（演習）、分娩の生理と経過、産婦の援助、分娩期の異常の援助、産婦のエクササイズ(演習)

- 9) 助産診断・技術学 前期後期 (05/10/02～02/28/03) 1単位
(助産診断・技術学) 担当：小西 清美、林 猪都子、吉留 厚子、神崎 光子、木村 厚子
芦刈 美智子

女性のライフサイクルにおけるセクシュアリティをめぐる健康問題への援助、及び産褥、新生児の生理的・心理社会的特徴を理解し、助産診断に基づいた助産を実践するための基本的な知識・技術を習得できるように講義・演習を行った。内容は次の通りである。産褥の生理、褥婦の援助、乳房管理の実際、褥婦のエクササイズ、退院時指導要領作成、異常褥婦援助、新生児の生理、新生児の援助、新生児の異常時の援助、乳幼児の援助、新生児演習、セクシュアリティ（全般・思春期・更年期）、家族計画、受胎調節法の実際

- 10) 助産診断・技術学 前期後期 (05/08/02～02/12/03) 1単位
(助産診断・技術学) 担当：梶原 真人、松本 英雄、岩里 桂一郎、中村 聡、室 康治、馬場 真澄、大川 欣栄

マタニティサイクルの女性の医学的管理と異常、新生児医療、婦人科疾患に関する健康管理について講義をした。講義内容は次の通りである。妊婦の医学的管理、異常妊娠、異常分娩、産科手術と産科処置、褥婦の医学的管理と産褥の異常、婦人科疾患と健康管理、ME機器とその診断法、新生児医療と管理

- 11) 精神看護援助論 前期 (04/15/02～09/18/02) 1単位
担当：河島 美枝子、影山 隆之、大賀 淳子

保健医療に関する様々な臨床の場で、精神的問題を持つ人に看護サービスを提供する際に必要となる基本的知識を教授した。全体を通して学生が理解しやすく、また臨床場面での応用・活用がしやすいように多くの事例を提示して具体的な内容とした。さらに精神症状については、ビデオ教材も利用して学生により具体的イメージを持たせるようにした。内容は、精神看護とコミュニケーション、精神科看護の見立て・検査・治療法、精神科領域の薬物療法と看護、統合失調症、気分障害、ストレス関連疾患、不安障害、心身関連性障害、摂食障害、物質関連障害、認知障害と看護、チーム医療・外来・デイケア・病棟・訪問看護の機能と看護、精神科救急、自殺、精神保健福祉関連の法制度・システムと看護などであった。

- 12) 保健活動論 前期 (04/11/02～09/26/02) 2単位

地域、学校、産業における法令に基づく保健活動のあり方と実際を教授した。看護職として個人及び集団の健康の増進、疾病予防のための支援のあり方を理解するとともに、保健活動の具体的な実践方法およびその評価について学ぶことができるよう講義を構成した。また、地域の救急救命活動の実態を理解し、救急救命処置の一つとして心肺蘇生術の実践ができるよう演習を行った。

担当

- | | |
|--------|----------------------------|
| 草間 朋子 | (2) 看護職の活動概論、看護職と法令 |
| 平野 互 | (2) 健康教育の進め方 |
| 桜井 礼子 | (4) 学校保健活動、地域保健活動（保健所・市町村） |
| 八代 利香 | (1) 保健管理に関する記録 |
| 高波 利恵 | (2) 産業保健活動 |
| 深堀 勝 | (1) 産業保健活動の実際と産業医の役割 |
| 三宮 昭子 | (2) 学校保健の実際（保健教育・保健指導） |
| 藤内 修二 | (2) 保健所の活動の実際 |
| 神品 実子 | (1) 保健所保健師の役割と市町村との連携 |
| 日本赤十字社 | (5) 救急救命処置の基礎 |
| 足立 浩二 | (1) 救急救命士の役割 |

13) 看護の倫理 前期 (04/17/02～06/05/02) 1 単位
担当：大林 雅之、平野 亙

看護職に必要な倫理的思考方法と生命倫理学の知識を習得することを目的に、事例演習を交えながら7回の講義を行った。講義は、「Bioethics (新しい医療倫理の展開)」・「生命倫理の方法 (生殖補助医療を中心に)」・「先端医療と倫理・人間の死と倫理 (死の自己決定権、死の医療化、安楽死等)」の4回を大林、「Profession と倫理」・「看護職の責任と倫理」・「看護の倫理と患者の権利」の3回を平野が担当した。成績評価は、レポートにより行った。

14) 在宅看護論 前期 (04/15/02～06/17/02) 1 単位
担当：木下 由美子、工藤 節美、加藤 さゆり

地域で生活する疾病や障害をもつ人々に看護を行うために、在宅看護の基本的な考え方と援助方法について次の項目で講義と演習を行った。在宅看護の概念、在宅看護の活動の場と特性、社会資源の種類と活用、ケアマネジメント (演習を含む)、公的介護保険制度におけるケアマネジメント、訪問看護ステーションにおける事業経営 (安東いつ子氏担当)、生活支援の方法、医療依存度の高い人のケア、在宅終末期ケア、在宅看護過程 (演習)。

15) 家族看護学概論 前期 (06/11/02～07/2/02) 1 単位
(家族看護学) 担当：木下 由美子、工藤 節美

家族が健康的なライフスタイルを獲得することや、健康問題を主体的に解決していくために、家族のセルフケア機能を見直し、家族にどのような看護援助や生活調整が必要になるかについて、次の項目の講義と演習を行った。家族看護学の概念、家族の構造と機能、家族を理解するための諸理論、家族看護過程 (演習)。

16) 運動処方特論 後期後半 (01/09/02～02/13/03) 1 単位
担当：稲垣 敦

健康運動や運動処方の理論とそれらを実施するための具体的な技術について講義した。また、体力測定や運動負荷試験の実習も行った。講義内容は、運動処方に関する法規、運動処方の流れ、メディカルチェックと体力測定、運動負荷試験、心電図の読み方、運動メニューの作成など。

17) 地域生活援助論 後期 (01/08/03～02/19/03) 2 単位
(地域生活援助論) 担当：木下 由美子、工藤 節美、加藤 さゆり、宇都 宮仁美、時松 紀子

地域看護診断を行い、地域で生活している人々が健康問題を自ら解決できるように、健康学習やグループ活動の支援を行う。また、ケアコーディネーターとして地域の保健・医療・福祉の社会資源を活用して地域生活者の援助を行うために、次の項目で講義と演習を行った。地域看護活動の展開 (演習を含む)、対象別地域看護活動<母子保健活動、成人保健活動、障害者保健活動、高齢者保健活動 (演習を含む)、地域精神保健活動、感染症保健活動、難病保健活動>、地区組織化活動における保健師の役割 (グループの組織化と支援、セルフヘルプ・グループ)、災害看護活動、健康相談と家庭訪問、市町村保健師活動 (浜野清子氏担当)。

18) 看護国際比較論 後期 (01/08/03～02/28/03) 1 単位
担当：洪 麗信

国際的規模での看護・保健活動の実態を把握し、国際的な保健医療協力のあり方を論じた。

19) 看護研究の基礎 集中講義 (02/20/03,02/21/03) 1 単位
担当：栗屋 典子

卒業研究に取り組むにあたって、研究の意義や論文作成までの一連の過程で必要とされる基本的知識や技術に関する基礎教育を行った。講義内容と講師は以下に示す。卒業研究の意義・すすめ方・発表の仕方 (河島)、研究の倫理と安全 (平野)、実験系の研究のすすめ方の基礎 (安部)、調査研究のすすめ方の基礎 (工藤)、文献研究のすすめ方の基礎 (齋藤)、データ解析の基礎 (中山)、文献検索の方法・文献の入手法 (吉武)。8

20) 成人・老人援助論 前期前半 (04/16/02～06/04/02)

(成人・老人援助論) 担当：檜原 登志子、内田 雅子

2年次の講義に引き続き、さまざまな健康問題をもつ対象への看護援助を教授した。講義内容は、性と生殖機能に関する健康問題をもつ対象への看護援助、ターミナルケア・クリティカルケア・ホスピスケアなど特別な場面における看護である。

4. 四年次

1) 生体科学特論 前期後半 (07/11/02～09/20/02) 1単位

担当：安部 眞佐子

安部眞佐子(4) 薬理遺伝学、脂肪代謝と遺伝子多型
濱本洋子(2) 骨と看護
石塚香子(1)骨代謝

2) 病態特論 前期 (09/10/02～09/24/02) 1単位

担当：市瀬 孝道

本年度は食道癌+胃癌、直腸癌+転移性肝癌、悪性リンパ腫、肝癌等のいくつかの症例を取り上げて、病気経過中の臨床データや病理解剖所見を照らし合わせながらホルマリン固定された疾病臓器と他の全ての臓器の肉眼観察を行い、更に、これらの病理組織標本観察も行った。臨床データや全ての臓器の標本観察によって病気臓器のみでなく病態の全体像を把握させた。

3) 運動指導特論 前期前半 (04/10/02～10/18/02) 1単位

担当：稲垣 敦、大賀 淳子、後藤 由美

稲垣 敦(4)：子供のレクリエーション、高齢者のレクリエーション、ヨーガ、肩こり・腰痛体操、中高齢者の体力測定
大賀淳子(2)：精神障害者の運動表現療法
後藤由美(1)：妊婦体操

4) 環境倫理学 前期後半 (09/09/02～09/13/02) 1単位

担当：甲斐 倫明

環境倫理をより理解しやすくするために、現代の生命倫理の事例と対比させたり、環境問題の事例をたくさん盛り込むように配慮した。講義内容は次の通りである。(1)環境倫理学とは、(2)現代の環境問題と倫理、(3)人間中心主義と生命中心主義、(4)自然の生存権の問題、(5)世代間倫理の問題、(6)地球全体主義。

5) 実務情報処理学 前期後半 (09/09/02～09/20/02) 1単位

担当：佐伯 圭一郎、品川 佳満、中山 晃志

健康情報処理演習で修得した情報処理能力を看護婦・保健婦の実務の場を想定した具体的事例を通じて、さらに高度なものへと高める。

担当者(講義回数)：概要

佐伯圭一郎(4)：保健医療看護における情報処理、観察研究の実践、尺度の評価・作成
佐伯・品川・中山(4)：データ解析演習

6) 助産診断・技術学 前期 (04/16/02～05/09/02) 1単位

(助産診断・技術学) 担当：林 猪都子

妊娠期、分娩期の助産診断の講義と実際の症例を用いて、入院時から分娩経過の予測と助産診断が行えるように助産過程の展開を行い、助産学実習で活用できるように教授した。

7) 総合人間学 後期(10/07/02~12/16/02) 2単位
担当: 栗屋 典子(学部長)

さまざまな分野で活躍され、かつ造形の深い講師のものの見方や考え方を通して、人間として、また医療従事者として備えておくべき豊かな知識と感性を養うことをねらいとしている。本年度は下記の講師が講義を行った。なお、本科目は公開講義としており、学外から延べ590名の参加があった。

坂本 和一 (立命館アジア太平洋大学学長): 常識を超える力はどうして生まれるのかープロジェクト X の世界ー

有田 幸子 (元日本看護協会会長): 私と看護

平田 喜代美 (母乳育児コンサルタント・所長): 母乳育児は地球を救う

坪山 明寛 (大分県立三重病院院長): 医療と人権 一ぬくもりの尊さー

阿江 通良 (筑波大学教授): スポーツ選手から学ぶ動きの知恵

斉藤慎一 (筑波大学教授): 肥満と食生活

越智 宏倫 (老化制御研究所所長): 老化制御

小西 聖子 (武蔵野女子大学教授): 被害者犯罪心理

溝口 薫平 (湯布院 玉ノ湯社長): 地域おこし

8) 地域助産活動論 後期前半(10/07/02~11/29/02) 1単位
(地域助産論) 担当: 宮崎 文子

助産管理の概念について、その本質と機能、助産管理(経営)の歴史の変遷、開業権を持つ専門職業としての概括的な知識・考え方および地域助産活動に必要な理論について教授した。内容は次に示すとおりである。

1. 地域母子保健の理念、行政的施策の動向と助産師の役割 2. 助産管理の基本概念(組織と機能) 3. 助産業務の特性と課題 4. 助産院の経営管理 5. 助産院経営史と経営理念 6. 助産院経営とマーケティング 7. 財務管理(損益分岐点分析を中心に) 8. 人的資源管理と助産院の勤務体制 9. 安全性と救急支援システム 10. 多角化の取り組み(子育て支援・女性の生涯を通しての支援) 11. 働く場の特性と助産業務管理(病院・診療所) 12. 働く場の特性と助産業務管理(保健所・市町村・母子保健センター) 13. 助産業務と関連法規・社会保障制度 14. 医療事故と助産師

9) 看護研究の基礎 後期前半(10/07/02~11/29/02) 2単位
(原著講読) 担当: 洪 麗信

卒業研究に関係した健康・医療福祉関連の論文を購読し、研究を行ううえでの論理的な展開法を学ぶことを目的として、教員の指示する原著、原書を講読させ、論文内容をまとめ、発表要旨原稿を作成させて、研究室ごとに行う抄読会(3回以上)において発表させた。

10) 卒業研究 後期(10/07/02~12/25/02) 5単位
担当: 栗屋 典子(学部長)

既習の看護研究の基礎□、ならびに看護研究の基礎□(原書講読)を踏まえて、研究を行い、将来の研究活動の基本を習得することをねらいとしている。学生は4月より各研究室に配属させ、指導教員と相談の上研究テーマを選び、教員は研究方法、論文作成、研究発表までの一連の過程を指導した。学生には卒業研究発表会抄録要旨と卒業研究論文を期日までに提出させ、12月24、25日の卒業研究発表会にてそれぞれの研究成果を発表させた。

3 - 5 演習

1. 一年次

1) 生体科学演習 後期(12/02/02～02/27/03) 1単位

担当：高橋 敬、安部 眞佐子、石塚香子

講義について記入をして下さい。栄養関連の生化学の講義と演習（人体の構造と機能）にカラーリングブックを利用した。カラーリングブックは解剖学と生理学で最も重要であるものを必要最小限選んで、その絵をコピーし、色鉛筆で色を付けさせながら学ばせた。これによってより具体的な知識を身につけることができた。また要点はパソコンのスライド（パワーポイント）で説明し、プリントアウトしたものを手渡した。レポートを提出させ、評価した。

2) 生体反応学演習 後期(10/10/02～02/20/03) 1単位

担当：市瀬 孝道、鈴木 真也

(1) 生体反応学演習

系統別疾患等についてグループごとに1題ずつテーマを与え、それぞれの疾患の病態、症状、治療法等についてまとめさせ、発表会を行った。更に個々の学生には全テーマについてまとめさせレポートを提出させた。演習テーマは以下に示す。循環器系の疾患、血液・造血管系の疾患、呼吸器系の疾患、消化器系の疾患、腎・泌尿器系・生殖器系の疾患、内分泌系の疾患、脳・神経・筋肉系の疾患、皮膚・骨・耳・目の疾患。

(2) 臨床検査演習

本演習では現在行われているそれぞれの検査の意義を説明し、また、その異常検査値から病態把握が（病態像がイメージ）できるようにすることを到達目標として講義を進めた。また、15コマ目では臨床検査に関する演習問題を回答させた。講義内容は以下に示す。検体検査、各臓器の機能検査、生理・病理検査、画像診断、感染症の検査。

3) 健康情報処理演習 後期(11/10/02～02/14/03) 2単位

担当：佐伯 圭一郎、品川 佳満、中山 晃志

パーソナルコンピュータを活用して、学習や保健医療の場における情報管理の道具として役立てるための知識と技術を学んだ。また、インターネットをコミュニケーションや情報収集に役立てる技法を習得した。

内容は、情報機器の仕組みと機能、ネットワークの利用（WWW,メール）、ワードプロセッサ、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーション、統計データの分析、グループ別演習（情報収集・分析・プレゼンテーション）である。

2. 二年次

1) 基礎看護学演習 後期(11/07/02～01/09/03) 1単位

担当：伊東朋子、藤内美保、玉井保子、重野文江

対象の健康問題をアセスメントし、健康問題を系統的に解決する能力を養うため、ペーパーペーシェント及びロールプレイを通して、対象を総合的に把握し、健康問題を明らかにするまでの過程を学習させた。主としてグループワークおよびグループワーク内容の発表という形態で学習を進めた。

2) 人間関係学演習 後期前半(10/10/02～02/17/03) 1単位

担当：関根剛

他人とコミュニケーションを行っている際に、自分は何を感じたり考えたりしながら会話をしているか、自分の知覚や認知の癖に気がつくための方法として、プロセスレコードについて概説した。その上で、実際にプロセスレコードを記載させ、また、他者のプロセスレコードを読んでみることで、自己の振り返りをする機会をもった。次に、カウンセリングの基本的スキルについて概説しながら、グループごとにロールプレイを実施

した。また、講義終了後、講義の感想あるいは質問の提出を求め、講義の理解度を確認し、講義のすすめ方の参考とした。

3) 環境科学演習 後期後半(02/18/03～02/24/03) 1単位

担当：甲斐 倫明、伴 信彦、赤羽 恵一

環境問題でとりあげられるリスク情報を理解するためには、その情報の定量的な側面の理解が不可欠である。この演習では、与えられた課題について考え、解答あるいは考察を行うことで、環境科学がかかえる問題に触れ、理解を深めることを目的とする。この演習では、3つの演習課題を各グループ(2人)ごとに取り組み、レポートとして提出させた。与えた課題は次の通りである。(1)環境リスク論におけるコストベネフィット解析についての考察、(2)化学物質の毒性試験から得られる基準値のもつ不確かさ、(3)生命表を用いた平均余命の計算。

3. 三年次

1) 成人・老人看護学演習 前期後半(06/16/02～09/22/02) 1単位

担当：粟屋 典子、檜原 登志子、内田 雅子、小野 美喜、大津 佐知江、福田 広美

臨地実習を控えて、受け持つ対象に適切な看護過程が展開できる能力を養うことを目的に、特徴的な急性期および慢性期の患者の事例を用いて、看護問題の査定、看護計画の立案、実施したと仮定しての評価の方法を具体的に習得させた。また、確実な看護技術を習得することを目的に、気管内吸引と創傷処置の実技演習を実施した。

2) 小児看護援助論 前期後半(06/11/02～09/27/02) 1単位

(小児看護論) 担当：高野 政子、目原 陽子、衛藤 展子

小児の主要な健康障害と治療の要点を述べ、小児と家族に対する援助方法を教授した。また演習1では小児の疾患の特色を事例を通して、健康障害を看護上の問題をあげ基本的な初期計画をグループワークで検討し発表した。具体的な内容は次の通りである。呼吸器系の障害と看護、循環器・代謝障害と看護、消化器系の障害と看護、泌尿器系・運動器系の障害と看護、神経系の障害と看護・感染症と看護、演習2では4つのグループに分かれて、小児看護の特色のある事例の看護課程の展開を発表を通して相互に意見交換をして検討した。その一方で実習室では、小児看護の特殊な看護技術の実際(検温・輸液の介助・酸素療法・沐浴・離乳食等)を実践した。

3) 母性看護学演習 前期前半(04/11/02～06/06/02) 1単位

担当：吉留 厚子、林猪 都子、神崎 光子、後藤 由美、木村 厚子

母性看護学実習で実施する母性看護特有の援助の実際を教員の指導のもとで行い、また、母性看護の特色のある症例をもとに看護過程のペーパートレーニングを行い、母性看護実習の実践で応用できるように教授した。

4) 精神看護学演習 前期(06/14/02～09/06/02) 1単位

担当：河島 美枝子、影山 隆之、大賀 淳子

次に続く精神看護学実習への橋渡しとして、精神看護の実践に必要な基本的な技法をグループワークにより、能動的かつ体験的に習得させた。それまでの講義で得た座学としての知識を学生に再確認・補充すると共に臨床と結びつける内容・方法とした。さらにグループの構成員としてのあり方についても体験的に考えさせる場ともした。内容は、コミュニケーション・エクササイズ、臨床における精神症状の理解、面接の演習、統合失調症家族会の方をお招きして、看護計画の作成演習などであった。毎回の演習中に感想・レポートなどの小記録を課し、次回に教員の意見・感想を添えて返却することで、学生とのコミュニケーションを密にした。

5) 保健管理学演習 後期(01/09/03～02/27/03) 2単位

担当：草間 朋子、平野 亙、桜井 礼子、高波 利恵、望月 京子

保健活動の領域で実際に直面する可能性のある事例に対して、グループワークを通して、さまざまな視点から問題解決にいたる筋道を検討するとともに、プレゼンテーションと議論の訓練を行うことを目的とした。本年度は共通課題として、健康教育の企画・実践・評価に関する事例を6題提示した。1グループを6～7名とし、12グループを編成して、同一事例に対して2グループが別個に検討を加えた。2グループは、プレゼンテーション・ワークとして、実際に健康教育の模擬授業を行った。発表を通して、問題解決方法の多様性、視点の違いなどを議論した。評価は、問題解決のための能力ばかりでなく、議論への参加態度にも着目した。

6) 地域看護学演習 前期(04/11/02～04/26/02) 1単位

担当：木下由美子、工藤節美、加藤さゆり、宇都宮仁美、高波利恵、望月京子、森永千佳子

実習地域の地域看護診断の演習および在宅終末期ケアのディベートのグループと、家庭訪問におけるコミュニケーション、移動、清潔の援助技術を習得するグループにわかれて、地域看護学実習に向けて実践能力を高めるための演習を行った。

7) 国際看護学演習 後期・後半(01/08/03～02/28/03) 1単位

担当：洪 麗信

国際看護の実践に向けての能力を養うため、国際看護実践を図るために必要な基本的事項に関する講義およびグループワーク、発表、討論を行った。

3 - 6 実験

1. 一年次

健康科学実験

・組織学、血液生化学実習

担当：高橋 敬、安部 眞佐子、石塚香子

実験日：10/9/02～11/29/02

内容：実習は血液生化学と組織観察を行った。前者は血糖値やGOT/GPT活性の測定および血清たんぱく質の分離などを行い、血液の基本的な性質を理解させた。後者は顕微鏡をもちいて、ネズミやヒトの様々な組織切片を観察させスケッチさせた。顕微鏡を使用するにあたり、その基本的な成り立ちと使用法を説明し会得したもらった。スケッチでは各部位の名前を調べさせた。これにより、ミクロな構造とそれに課せられた機能を実体験から修得することができた。ミクロの世界を微細に観察することにより、小さな構造の大きな機能を考える手立てとなった。尺度はマイクロメータを用いて計測させ、同じ対象でも倍率を変えることによりさらに詳細な観察ができることを体験させた。

・血液検査

担当：定金香里、市瀬孝道

実験日：10/3, 11/1, 11/6, 11/13

実験内容：ヘマトクリット値測定、血球数算定、CRP 検査、血球形態観察。基本的原理の理解に重点をおき、実際に学生自身が個々に手技を行った。また血球の種類を正確に把握するため、8種類の血球をスケッチした。考察を兼ねて検査結果から貧血の有無を診断した。

・基礎微生物学実験

担当：吉田 成一

実験日：2/24、2/26、2/27、2/28

内容：(1)環境中に存在する細菌の確認：ヒトの表皮に常在する細菌の確認。手洗いによる細菌数の変化を測定した。(2)薬剤感受性試験：各種病原微生物の抗生物質に対する感受性を測定し、臨床使用時での使い分けについて考察した。

．ラットの解剖

担当：市瀬孝道、定金香里

実験日：11/20, 11/22, 11/28, 12/04

実験内容：本実験ではヒトの構造を知る一手段としてラットを解剖し、系統だてて臓器・器官を観察して、臓器の相対的位置や相互の関連性について理解させた。また、各臓器を摘出して、色、大きさ、重さ等を測定、スケッチすると共に生きた臓器を実際に触れてその形状や感触を理解させた。

．放射線

担当：赤羽恵一

実施日：11/6, 11/13, 11/15, 11/22, 11/27

実験内容：バックグラウンド放射線および空気中ラドン²²²の測定を通して、身近な放射線の存在とその量について学んだ。また、移動型 X 線装置使用時の装置周辺の線量率の測定を行い、医療現場での放射線防護について考察した。

．水質汚染と室内空気汚染

担当：甲斐倫明

実施日：10/17, 10/18, 10/30, 10/31

実験内容：水道水中の残留塩素、河川水（大分川）と生活排水の COD、喫煙時の室内空気汚染（CO、ダスト）、密閉室内の HCHO の測定を行い、これらの物質による汚染のレベルとその発生源について考察した

．染色体異常

担当：伴 信彦

実験日：12/4, 12/6, 12/11, 12/13

実験内容：放射線によって誘発された染色体異常の標本を検鏡し、染色体の構造的異常について学んだ。また、ダウン症の核型分析と慢性骨髄性白血病細胞の分裂像の観察を通して、疾病と染色体異常の関係について考察した。

．最大下負荷による呼吸循環系持久力の測定

担当：稲垣 敦

実験日：11/06, 11/20, 11/22, 11/29

実験内容：自転車エルゴメーターを用いた最大下運動負荷時に心拍数と運動負荷を測定して、PWC170 及び最大酸素摂取量を推定し、呼吸循環器系持久力を評価した。

．筋電図による神経・筋活動評価

担当：吉武 康栄

実験日：11/13, 11/15, 11/27, 12/4

実験内容：筋電図の発生機序・意義を学習した。その後、最大下負荷運動中に主動筋である大腿 4 頭筋から実際に筋電図を測定した後に、神経筋疲労閾値を筋の電氣的活動動態から評価した。

3 - 7 実習

1. 一年次

1) 第1段階 初期体験実習 前期 (09/12/02～09/20/02) 1単位

担当：安部恭子、宇都宮仁美、大賀淳子、大津佐知江、小野美喜、加藤さゆり、神田貴絵、工藤節美、桜井礼子、千本美紀、高波利恵、玉井保子、時松紀子、檜原登志子、福田広美、目原陽子、望月京子、八代利香、吉田紀子、平野互、草間朋子

看護職が活動している保健・医療・福祉の場において、3日間の施設実習で看護活動の実践を体験し、対象の健康ニーズと看護職の活動を知り、また、看護職と共同する他の専門職の役割や、人々の健康を支えるためのシステムについて知ること、さらに、学内カンファレンスを通して、学生同士の実習経験を共有することにより、地域社会で生活している人々の様々な健康ニーズを知り、人々の健康を支えるための看護職の役割を知ingことを目的としている。

事業所：

株式会社大分銀行、新日本製鐵株式会社大分製鐵所、九州電力株式会社大分支店、昭和電工株式会社大分事務所健康管理センター

保健福祉施設：精神保健福祉センター、別府発達医療センター

検診センター：大分県地域保健支援センター、大分県地域成人病検診センター

学校：岩田学園、大分高校

病院：大分県立病院、大分赤十字病院、農協共済別府リハビリテーションセンター、湯布院厚生年金病院、緑ヶ岡保養園

介護老人保健施設：わさだケアセンター、陽光苑、小野鶴養生院、健寿荘

特別養護老人ホーム：百華苑

日程表

9/12 (木)	学内オリエンテーション
9/13 (金)	見学実習
9/17 (火)	見学実習
9/18 (水)	見学実習
9/19 (木)	学内カンファレンス (グループワーク)
9/20 (金)	学内カンファレンス (発表会)

2. 二年次

1) 第2段階 基礎看護学実習 後期 (01/15/03～01/29/03) 2単位

担当：大賀淳子、神田貴絵、高波利恵、小野美喜、藤内美保、吉田紀子、安部恭子、大津佐知江、福田広美、八代利香、望月京子、目原陽子、玉井保子、千本美紀、重野文江、伊東朋子

基礎看護学で学習した理論と実践を統合させるため、病院で実習することにより、入院患者という対象を社会で生活している人として理解させ、その対象の看護の必要性を認識し、また日常生活上の基本的ニーズに対して援助技術が実践できることをねらいとした。

実習施設

大分県立病院5～9階東西各病棟

大分赤十字病院4西病棟、4～6東病棟

大分県立看護科学大学

2) 第3段階 看護アセスメント学実習 後期 2/3/03～2/14/03 2単位

担当：安部恭子、大賀淳子、大津佐知江、小野美喜、加藤さゆり、神田貴絵、重野文江、千本美紀、高波利

恵、玉井保子、福田広美、目原陽子、望月京子、吉田紀子、藤内美保、伊東朋子

第2段階の基礎看護学実習を土台に、健康障害をもち入院している人（患者）の生活援助技術を通して、円滑なコミュニケーションを深め、人間関係を形成していくなかで、その人の「健康問題を総合的にアセスメントするプロセスを学ぶ」ことに主眼をおいた実習の展開をめざした。またアセスメントしたことが、看護活動にどのように反映していくかを考えることで、第4段階の専門・広域看護学実習へとスムーズに移行していくことをねらいとした。実際の病棟という場面において、受持ち患者の身体面、心理面、社会面の状態を総合的に捉え、健康にかかわる問題を明らかにするプロセスを学んだ。各病棟には、1グループ6名の学生と1名の担当教員という組み合わせで、2週間の病棟実習を行った。

実習施設は、大分県立病院 5～9階東西病棟の計10単位、大分赤十字病院 西 西4、東4、東5、東6の計4単位

日程表 1/31/03 学内におけるオリエンテーション 2/3/03～2/14/03 病棟での実習 上記のうち2/5(水)と2/12(水)は帰学日とし、学内にて学習をした。

3. 三年次

1) 第4段階 成人看護学実習 後期 (09/30/02～12/20/02) 4単位

担当：安部恭子、大津佐知江、小野美喜、加藤さゆり、神田貴絵、重野文江、千本美紀、高波利恵、玉井保子、時松紀子、福田広美、望月京子、栗屋典子、檜原登志子、内田雅子

成人期の対象を身体的、心理的、社会的、精神的側面から総合的に理解、健康問題に応じた適切な看護を実践できることをねらいとして実習を行った。実際には、健康問題をもつ成人期の対象を受け持ち、それぞれの対象の健康問題とそれに伴う問題を査定し、健康段階（急性期・慢性期・終末期）に応じた看護計画の立案、看護ケアの実践・評価を行った。

実習施設

大分県立病院5～7階東西各病棟

2) 第4段階 老人看護学実習 後期 (09/30/02～12/20/02) 2単位

担当：安部恭子、大津佐知江、小野美喜、加藤さゆり、神田貴絵、重野文江、千本美紀、高波利恵、玉井保子、時松紀子、福田広美、望月京子、栗屋典子、檜原登志子、内田雅子

老年期の特性を踏まえ、個別性を尊重した看護を実践できることをねらいとしている。実際には、さまざまな健康問題をもつ老年期の対象を受け持ち、QOLに配慮した看護過程を展開した。

実習施設

大分県立病院5～9階東西各病棟

2) 第4段階 小児看護学実習 後期前半 (9/30/02～12/20/02) 2単位

担当：高野政子、目原陽子、吉田紀子

小児と関わる機会が少ない学生に、健康な小児の発達段階の特徴や個人差を考慮した関わり方や日常生活の保育者の役割を学ぶ目的で保育所実習を行った。また健康障害のある小児の療養生活における看護上の問題に対する援助活動を通して、健康障害が子どもと家族に及ぼす影響や小児看護の役割を学ぶことをねらいとして、それぞれ1名の事例に対して看護過程を展開した。

小児看護学実習は最初の4日間は1グループ2～3名で保育所実習を実施し、その後の病院実習は2施設に配置して2週間の実習を行った。

実習施設

大分県立病院 4階西病棟（1グループ8～9名の学生を配置した）
大分こども病院（1グループ4～5名の学生を配置した）
大分市立保育所（生石、下郡、桜ヶ丘、裏川、浜町、金池、新春日町の7ヶ所の保育所）

4) 第4段階 精神看護学実習 後期（10/01/02～12/20/02） 2単位

担当：河島美枝子、影山隆之、大賀淳子、宇都宮仁美、八代利香

精神的健康問題を有する人を理解し、対象者の状況に応じた看護を体験的に学ばせることを目的とした。学生には実習施設（大分丘の上病院）で行われている受診から社会復帰に至るまでの様々なアプローチを幅広く体験する中で、看護の果たす役割を考えること、精神科患者に必要な看護の過程を理解すること、患者理解と同時に自己洞察を深めること、チームメンバーとしての役割を理解することなどを中心とする指導を行った。教員は学生の個性・能力に十分配慮し、臨床指導者による指導を支援し、学生の積極性や自主性の発揮を促し、実習中に生じた様々な問題を学生がグループワークを通じて適切な対応に導く支援を行うなどの役割を果たした。学生による実習評価は実習の時間を長くして欲しいなどの意見が多く好評であった。

実習施設

大分丘の上病院

5) 第4段階 母性看護学実習 後期（09/30/02～12/20/02） 2単位

担当：神崎光子、後藤由美、木村厚子、宮崎文子、吉留厚子、林猪都子、小西清美

母性看護学実習は、対象の妊娠・分娩・産褥の経時的変化を身体的・生理的側面だけでなく、親としての役割に対する認識や夫をはじめとする家族との関係など、心理・社会的側面を含めて総合的に理解して母性各期の特性とニーズに応じた看護過程の展開の実際を学ぶと共に、併せて人の生命誕生と親となる過程における看護職の役割の認識を深めることをねらいとする。実習施設は2施設である。施設毎に1グループ4～10名の学生と1～2名の担当教員という組み合わせで、2週間（のべ12週間）の実習を行った。

実習施設と学生数

大分県立病院4階東病棟、産科外来（学生数52名）

堀永産婦人科医院（学生数23名）

4. 四年次

1) 第4段階 地域看護学実習 前期（05/13/02～06/14/02） 4単位

担当：安部恭子、衛藤展子、宇都宮仁美、大賀淳子、加藤さゆり、神田貴絵、工藤節美、桜井礼子、千本美紀、高波利恵、玉井保子、丹生紀子、目原陽子、望月京子、森永千佳子、八代利香、木下由美子、平野 亙

地域看護の対象となる個人、家族、社会集団への看護活動を通して、保健・医療・福祉システムの現状および地域看護のあり方を学ぶことを目的に実習を行った。

実習施設は県内全域にわたり、保健所(14カ所)にて1週間、市町村(39カ所)にて2週間、訪問看護ステーション(32カ所)にて1週間の計4週間の実習を88名の学生が行った。

2) 第4段階 老人看護学実習 前期（05/13/02～06/14/02） 1単位

担当：内田雅子、大津佐知江、小野美喜、檜原登志子、福田広美、粟屋典子

施設入所者の生活支援を通して、対象を理解し、高齢者を対象とする施設における看護専門職の役割と課題を学ぶことをねらいとして実習を行った。

実習施設

介護特別養護老人ホーム：創生の里、百華苑
介護老人保健施設：健寿荘、小野鶴養生院、陽光苑

3) 第5段階 総合実習 前期後半 (06/24/02～07/05/02) 2単位

担当：栗屋典子 (学部長)

実習の最終段階に位置づけられており、学生の自律性と総合的な判断力を育成することをねらいにしている。学生は、第4段階までの実習体験から各自の到達度を踏まえて課題を明らかにし、自らが希望する実習施設と領域を選択し、実習目標・計画を立て、主体的に実習を展開する。各施設(部署)には原則として学生1名を配置し、看護系教員全員が担当教員・指導教員として関わった。

実習施設 大分県内 39 施設

4) 助産学実習 前期 (6/17/02～9/20/02) 6単位

担当：神崎光子、後藤由美、木村厚子、宮崎文子、林猪都子、吉留厚子

本学の助産学実習は選択実習であり、基礎看護学、看護アセスメント学、専門看護学実習、地域看護学実習を踏まえて4年次前期に位置づけ、助産学を選択しない学生の総合実習の開始と同時に、総合実習期間を含めて8週間の助産学を設定している。助産学実習では、人間尊重の基本理念に基づき、妊娠中から産後までの家族を含めた継続的なきめ細やかな援助を行いうる素地を養い、出産の場においては、本来備わっている出産の自然のメカニズムを最大限に発揮できるように産婦の意思力を引き出し、正常からの逸脱を予防し、安全で安楽なお産ができる助産能力を身につけ、助産師の専門性を高めうる実践力を探究することをねらいとして行った。

本年度の学生は10名である。実習施設の分娩状況からみて以下の4施設で学生、担当教員、専任教員の組み合わせで行った。

< 実習施設と学生数 >

- 1)大分県立病院4階東病棟(1学生母体搬送・帝王切開受け持ち1例含む)、産科外来で1学生
8日間 のべ2週間:学生数10名
- 2)堀永産婦人科医院(6週間 - 1学生分娩介助10例・家庭訪問含む):学生数8名
- 3)大川産婦人科医院(6週間 - 1学生分娩介助10例・家庭訪問含む):学生数2名
- 4)生野助産院(1学生2日間 のべ2週間):学生数10名

3 - 8 大 学 院

1) 看護アセスメント学特論 前期(07/31/02～08/04/02) 2単位

担当： 内布 敦子、藤内 美保

対象の生活を踏まえた健康上の問題を明らかにし、適切な看護介入を決定するための基礎的データを判断する看護ヘルスアセスメントについて、その概念および具体的方法論を教授した。5日間連続の集中的な授業を展開し、講義および具体的なヘルスアセスメント技術のエグザミネーション、またヘルスアセスメントツールの開発を目的にした演習およびプレゼンテーションを行った。

2) 看護管理学特論 前期(04/18/02～06/06/02, 06/18/02～09/17/02) 2単位

担当： 栗屋 典子、平野 互

看護に関連した現行の法制度、施設における看護管理の基本的理論、看護に関連した諸問題の解決に必要な基本的事項などを教授した。主な講義内容は、保健・医療と福祉の接点、看護・医療システムならびに看護組織と人的資源の管理、能力開発、看護の倫理、看護の質保証と改善である。

昼間の院生には前期前半に、夜間の院生には前期後半に実施した。

3) 精神保健学特論 前期 (04/01/02~09/30/02) 夜間2単位
後期 (10/01/02~03//31/02) 昼間2単位

担当: 河島 美枝子、影山 隆之

様々な環境で生活している人間に生じる精神健康上の問題および対応などについて、学生との対話を行ないながら以下の講義をした。精神保健の諸モデル、自殺予防学、災害と精神保健看護、睡眠学と精神保健看護、精神保健看護の研究手法、勤労者の精神的健康の実態、職業性ストレスと健康、職場のストレス対策、職場の精神障害(職場不適応、うつ病など)、職場の精神保健活動と法・施策(心の健康づくり指針)、看護職の行なう精神保健活動と必要な技法。

4) 成人・老人看護学特論 前期 (6/24/02~9/30/02) 2単位

担当: 佐藤 和子、内田 雅子

成人期の慢性疾患をもつ患者および危機的状況にある患者の理解と看護に役立つ 理論的枠組みについて教授した。主に、病の存在論、ストレス・コーピング理論、病みの軌跡理論、危機理論を学び、適切な看護介入について考察した。また、更年期女性の健康問題、生殖医療、子宮摘出患者の身体的、精神的、社会的、倫理的問題に関する現代医療の課題と研究の動向についても検討した。

5) 生殖看護学特論 後期前半 (10/01/02~11/29/02) 2単位

担当: 宮崎文子、吉留厚子、林 猪都子、賀久はつ

本特論は、性と生殖の側面から女性とその家族の健康維持・増進、健康逸脱時の援助のための対象のとらえ方を理論的に探究するとともに、各ライフステージにおける女性の身体的、精神的、社会的特徴とウェルネスを考察し、その看護援助の方法及びセルフケアのための教育のあり方について教授した。さらに、周産期における女性とその家族が体験する身体的、精神的、社会・文化的特徴および健康逸脱について考察し、その背景について理論的に探究するとともに、周産期にある女性の家族の親役割獲得、愛着の形成および生殖機能の正常維持のためのリスク回避に関する看護援助活動について教授した。

すすめ方は、講義および2冊の本を分担して抄読し、ディスカッションにより内容を深めた。テキスト: 藤原ゆき著「性の歴史学」、我妻堯著「リプロダクティブ・ヘルス」、プリント

6) 地域看護学特論 前期 (6/13/02~9/19/02) 2単位

担当: 木下由美子、工藤節美

地域で生活する療養者と家族の意思を尊重し、自立とQOLを目指した在宅ケアシステムの構築について考察する。さらに、コミュニティエンパワメントの支援を行う行政システムの看護を探求するために、次の講義を行った。地域看護におけるアセスメント、ケアマネジメント、家族看護を理解するための諸理論、地域看護診断、行政システムの看護活動、ヘルスプロモーションとコミュニティエンパワメント、そして最後に、地域看護に関する課題の発表を行った。

7) 国際看護学特論 後期・前半昼間(10/03/02~11/28/02) 2単位
後期・後半夜間(12/04/02~02/27/03)

担当: 洪 麗信、桜井 礼子、柳澤 理子

国際看護とはどのようなものであるのか、その定義と範囲を明らかにし、社会、文化、健康、医療との関連について、ディスカッションした。また、国際看護の機能や分野を発展させていくための研究に取り組むために必要な、様々な研究手法について教授し、国際看護および関連する分野の文献検討を行った。また、海外での具体的な地域調査や看護活動の実際についてもふれた。

洪麗信 国際看護: 定義と範囲

社会、文化、健康、医療の関連

医療人類学的アプローチの理解

社会生態学的アプローチの理解

国際看護領域での研究の実際

国際看護の課題

桜井礼子 国際看護における疫学的アプローチ

柳澤理子 海外での地域調査及び看護活動の実際

- 8)放射線保健学特論 昼間：前期後半 (02/6/13～02/9/26) 2単位
夜間：後期後半 (02/12/6～03/2/14) 2単位

担当：草間朋子、甲斐倫明、伴 信彦

放射線に関する基礎的事項から、最新の情報にいたる内容について教授した。講義内容は次の通りである。
(1)放射線の物理と利用、(2)放射線の健康影響、(3)放射線従事者の健康診断、(4)緊急医療と防災、(5)妊娠と放射線、(6)労災補償、(7)医療放射線のリスクとベネフィット、(8)放射線測定に関する簡単な実験

- 9)生体機能学特論 後期・前半 昼間06/11/02?11/29/02 2単位

担当：高橋 敬、安部 眞佐子、鈴木 友和

遺伝子操作と遺伝子を目で見るために、ある特定の遺伝子の増幅をPCRで行ない、どのようにしてDNAを解析するかをデモンストレーションした。また、生体機能特論の講義は重要的にパソコンのスライド(パワーポイント)で行なった。内容はプリントアウトし手渡した。シートから出来上がる身体構造とそのシート上で遺伝子が発現され、生体の形(構造)が形成され次々にそれが機能する過程の重要性を強調した。すなわちシートの裏表の区別が大事で、表と表、裏と裏が接し、互いに融合したり、穴があいたりする原理に基づいて身体が出来上がり機能するという新しい考え方を披露した。メビウスの輪(紙と鉄みを用意して、輪にしてそれを縦に切った場合と、一度ネジリをいれた輪を作ってそれを切った場合を比較)と秋吉台の地層の逆転を例えにして、表と裏の概念がいかに大事であるかを体験させた。

- 10)病態機能学特論 前期・前半(4/15/02～6/10/02) 昼間 2単位
前期・後半(6/17/02～9/30/02) 夜間

担当：市瀬 孝道、鈴木 真也

生体防御の一つの反応としての炎症とこれに関わる炎症性サイトカン・ケモカインネットワークについて講義し、さらに生体の免疫機構について説明し、これらと種々の疾患の病態との関わりについて講義した。

- 11)健康増進科学特論 前期・後期(04/16/02～11/26/02) 1単位

担当：稲垣 敦

健康増進科学を進める上で基本的な指標の解説と測定実習をおこない、レポートを作成した。実習内容は、科学とは?、形態、体格指数、皮下脂肪厚、体脂肪率、高齢者体力、疲労、身体活動量、運動強度、エネルギー消費量、運動量、体表面温度など。

- 12)人間関係学特論 前期・前半(04/16/02～06/04/02) 夜間 2単位
前期・後半(06/13/02～09/26/02) 昼間

担当：齋藤高雅、関根 剛

患者理解のための精神・身体症状の心理アセスメント法、及び効果的な心理的援助方法を教授した。また、看護実践の場において身体的、精神的な問題を持つ人々に対する臨床心理学的査定、援助に関する邦文、英文の文献講読を行った。

- 13)保健情報学特論 前期・後半(04/12/02～06/07/02) 夜間 2単位
後期・後半(12/03/02～02/18/03) 昼間

担当：佐伯圭一郎、松井茂之

看護実践のために必要とされる情報入手・情報処理・情報管理の基盤となる理論と技術について教授した。

<オムニバス形式>

[佐伯圭一郎] 地域における集団の身体、生活習慣の情報を収集するための理論と技法、およびコンピュータ

による情報処理技術

〔松井茂之〕保健情報の高度な分析、表現、解釈の理論と実践技術講義について

1) 特別研究

12 単位

3 - 7 ボランティア活動

1 糖尿病サマーキャンプ

参加者：高野政子・目原陽子・森山敬子（4年）・是枝寿美（3年）・溝口恵巳香（3年）・東由佳（2年）・増野陽子（2年）

大分では大分県糖尿病協会や大分県医師会、大分県薬業関係、国見町などの後援で例年行われてきた。サマーキャンプは大分医科大学の桶田俊光先生ほか第一内科・小児科の医師が世話役となり、大分医大・大分大学・大分県立看護大・別府女子短大等の学生ボランティアが企画から運営まで行っている。今年の第17回サマーキャンプは東国東郡東国見町の国東半島国見ユースホステルにて8月7日～12日までの5泊6日で行なわれた。学生は5月から2回のミーティングに参加し、各役割分担され各自の役目を果たした。小児の糖尿病について学習する機会とするばかりでなく、キャンパー、ヘルパー（学生）、スタッフ（Dr・Ns・薬業関係）、栄養士（卵さん）たちと交流し、キャンプの成功に一役果たすことができた。

2 「子どもの健康週間」

参加者：高野政子・東納美奈（4年）・山後綾（2年）・増野陽子（2年）・酒見博之（2年）・陣内由香（1年）・山崎早織（1年）・山本梓里（1年）

大分県小児保健協会と大分県小児科医師会の共催で第4回の「子どもの健康週間」が大分市高尾山で10月14日（日）に行われました。例年子どもと一緒にゲームを楽しんで遊んだり、慢性疾患をもつ親の会（てんかん・川崎病・心臓病ほか）も意見表明する企画があり、体育に日に合わせて、戸外で小児保健に関する医療者スタッフと交流するものです。学生ボランティアは主に当日参加した子ども達のゲームの相手となり、晴天の秋の一日一緒に遊びました。後かたづけなどにも積極的に参加し、社会的な活動ができました。

3 日本ALS協会大分県支部のボランティア

神経難病研究会：顧問伊東朋子

本年に行った日程と内容は

平成14年5月26日（日）に日本ALS協会大分県支部総会のお手伝い

平成14年11月9日（日）の若葉祭で日本ALS協会大分県支部メンバー作成の物品販売

平成14年11月に街頭キャンペーン（びら配布）と募金活動

4 学内セミナー

4 - 1 オープン・ハウス

この企画は、平成10年から本学の教職員の研鑽を目的として始めたものである。言語学研究室のシャーリー講師が中心となって毎週行っている。テーマはその時々話題を中心に進めている。大切なのは日本語を一切使用せず、英語を聴いて話し、みんなで英語のおしゃべりを楽しむことである。英語の得意、不得意に関係なく、誰でも気軽に参加できるような会になるよう心がけている。

5 学内プロジェクト研究

5 - 1 野津原プロジェクト

研究者：草間 朋子（代表）、洪 麗信、平野 亙、稲垣 敦、桜井 礼子、高波 利恵、望月 京子、八代 利香、吉武 康栄、品川 佳満、中山 晃志

平成 14 年度の共同研究の進捗状況とその成果の概略は以下のとおりである。
高齢者の QOL を高めるための運動習慣の確立および生活習慣の改善に関する検討

1) 平成 14 年度の研究について

高齢者が活動的な日常生活をおくるためには、身体活動機能を含めた健康度を維持することが重要であり、個人に適した健康づくりが必要となる。また体力の保持・増進のための運動習慣を獲得するには、対象者が自発的にかつ日常的に運動を実践するという行動変容と習慣化が重要である。

本年度は、3ヶ年計画の初年度として、在宅高齢者を対象に、個別メニューによる運動指導を中心とする健康教室（「わかたか教室」と呼称）を開催し、運動指導の効果を評価するとともに、運動を継続し習慣化するための効果的な支援方法について検討を行った。

モデル地区を2つ選定し、介入群及び対照群として、当該地区に在住する在宅高齢者（おおむね 60 歳以上の住民）計約 100 人を対象に、下記の手順で健康教室を実施した。

(1) 問診（質問紙による生活習慣等の聞き取り調査）・体力測定（10 月）

体力測定項目：体脂肪率（身体組成）、握力（筋力）、長座体前屈（柔軟性）、全身反応時間（敏捷性）、開眼片足立ち（平衡性）、3分間足踏み（全身持久力）および心拍動リズム（自律神経機能）

(2) 問診結果に基づき個人毎に適した運動処方を個別に作成

(3) 介入群に対して運動指導のための健康教室の開催（11、12 月）および1ヶ月後の評価のための体力測定（12 月）

3ヶ月後の平成 15 年 1 月に体力測定および問診を再度実施し、効果判定を行った。さらに、6ヶ月後の平成 15 年 4 月に、町の実施する基本健康診査時に追跡調査を実施する。

効果判定は、体力測定値の改善（あるいは維持）、主観的健康度の向上、生活習慣の改善等および基本健康診査の血液生化学データにより、検討を行うことにしている。

研究参加者は、町の保健師から老人クラブに働きかけて募集した。初回の問診に参加した対象者に対して、まず調査計画の概要（目的とスケジュール）とデータの用途（学術研究として公表予定であることも含む）および秘密保持の方法を説明した後、問診時に体力測定への参加意志を確認し、健診データの使用許可を文書で得た。初回の問診及び体力測定への参加をもって研究への参加に同意したのは、50代から90代までの男女、計 103 名であった。

このうち、運動メニューの説明会に参加したのは、介入群 37 名、対照群 40 名であり、その後介入群に実施した健康教室への参加率は 60%～68%であった。

2) 平成 14 年における成果発表

- ・生活習慣病などの健康問題に関連づけた BMI の評価基準。第 61 回日本公衆衛生学会総会。さいたま市

付記

共同研究に基づく論文「高齢者の生活活動度を評価するための体力測定のあり方およびやり方」（「厚生指針」Vol.48, No.4, 2001 年 4 月）が、第 4 回川井記念賞を受賞した。

5 - 2 高齢者施設入所者への夜間排尿援助に関する研究

尿失禁モニタを用いての夜間排尿パターン・排尿援助時刻・睡眠の相互関連の検討

研究者：佐藤 和子（代表）、影山 隆之

1) 平成 14 年度の研究について

高齢者では種々の理由により排尿の自立に困難をきたす人が多く、高齢者施設では特に要援助入所者が多い。夜間の尿失禁は不快であるだけでなく皮膚炎症等の原因にもなるので、高齢者施設では就寝前に排尿を促したり、夜間定時に起こしてトイレに行かせたりという援助を行っている。しかし、対象者の夜間排尿パターンには個人差が大きいにもかかわらず、これを把握する確かな方法が従来なかったため、夜間の排尿援助は一律に行わざるを得なかった。かりに不必要な時に起こして排尿させていたとすれば、対象者の睡眠をあえて妨げていたことにもなる。

一方、排尿パターンの測定方法として近年新しく、ガスセンサを用いた尿失禁モニタ装置が開発され、排尿パターンを経時的に記録することが可能になりつつあるが、これを実際に使用した研究はまだほとんどない。

そこで本研究では、同装置を高齢者施設入所者に適用するパイロットスタディとして、a) 夜間排尿パターンの日間（個人内）変動の検討、b) 従来の夜間排尿援助時刻と入所者の実際の排尿パターンとのズレの評価、c) アクチグラフィで経時的に推定した中途覚醒パターンと排尿パターンとの関連の検討、の三点を目標とした。平成 14 年度は、研究代表者らが従来も協力関係を持ってきた高齢者施設である総合ケアセンター泰生の里（別府市）において、研究協力で同意を得た入所者（アルツハイマー性痴呆を有する）を対象として以下の研究を行った。

1) 入所者 5 名について各 7 日間、尿失禁モニタリング、睡眠モニタリング、および水分摂取量や排尿援助などに関する情報収集を行い、夜間排尿時刻とルーチン排尿援助時刻との異同、尿失禁時の睡眠への影響、排尿援助後の再入眠がスムーズにできているか、等を検討した。2) 入所者 24 名について各 6 日間（月曜～土曜）、日中（9:00～17:00）の残尿量を 1 時間毎に測定し、これと活動レベル、水分摂取量、BMI、徘徊の有無、痴呆レベルなどとの関連を検討した。3) 同じ 24 名について、6 日間のうち前半の 3 日間は自発排尿をしてもらい（対照期間）、残りの 3 日間は排尿後さらに腹部を圧迫し、対照期間との残尿量・排尿回数・失禁回数の差を検討した。

以上の結果、失禁に先行しておそらく尿意のために中途覚醒を繰り返す症例が観察され、夜間に排尿援助のため覚醒させた後の再入眠潜時は短いことが確認された。さらに前記 a)～c) の目的で尿失禁モニタを用いることの有効性が支持された。今後たとえば、夜間排尿パターンと運動能力や日中活動量との関連の検討、夜間睡眠をなるべく妨げず援助者にも負担の少ない排尿援助方法の検討、適切な排尿援助による睡眠障害改善の試みなどに応用することで、施設/在宅での看護・福祉実践に有益な成果を得られることが期待された。

平成 14 年度の成果は、日本老年社会科学学会、日本睡眠学会等に発表準備中である。

2) 平成 15 年度の計画の概要

本年度の結果に基づき、1) 個人の夜間排尿パターンに応じた排尿援助計画の試行、2) その際に測定した排尿量と水分摂取量・日中の活動等との関連の検討、3) 残尿量を減らすための運動プログラム試行等の介入による効果の評価、などを行う予定である。

5 - 3 「保健師の技術」に焦点を当てた教育内容の検討

研究者：工藤 節美（代表）、桜井 礼子、加藤 さゆり、八代 利香、宇都宮 仁美、高波 利恵、望月 京子

1) 平成 14 年度の研究について

平成 13 年、「看護学教育の在り方に関する検討会」において、看護師教育におけるコアカリキュラムが提示された。一方、保健師教育のコアカリキュラムについては、十分な検討がなされていないのが現状である。

そこで、今年度は、大学教育の中で「保健師の技術」に焦点を絞り、地域看護学4領域において検討を進め、なかでも「行政保健師の技術」について深めていった。

その結果を踏まえて、行政分野に働く保健師が期待する保健師の技術について、臨地実習において学生指導を担当する保健師に面接調査を実施した。更に、今年度得られた本研究結果を、学内における講義・演習に反映させ、学習効果を高めるための教授方法について検討した。

5 - 4 高速ネットワークを利用した住民の健康増進サポートシステムの構築

研究者：伊東 朋子（代表）、甲斐 倫明、桜井 礼子、工藤 節美、宇都宮 仁美、稲垣 敦、関根 剛、玉井 保子、品川 佳満、藤内 美保、神田 貴絵、安部 恭子

1) 平成 14 年度の研究について

情報ネットワーク委員会の豊の国ネット情報WGが検討するアイデアを実現するために、野津原町を主な対象として、ITを利用した地域の健康づくりに貢献できるシステムを構築することを本研究の目的としている。地域住民が高速ネットワークを活用し、健康を増進させることのできるような情報を発信して行くことがねらいである。研究期間は2年間を予定しているが、本年度の具体的目標は高齢者を主たる対象者とした健康体操および子どもを対象者とした身近にできる救急処置(骨折、けが等)に関する映像をネットで配信することである。その為のビデオ製作と配信するための加工を本年度内に実施予定である。

2) 平成 15 年度の計画の概要

次年度はその配信した情報の検討を行う予定である。現在、野津原プロジェクトで実施されている高齢者の体力増進のための健康体操を創作し、ビデオ映像として撮影している。また、子どもを対象とした救急処置(骨折、けが等)についてのビデオ映像を撮影し、双方向が可能ないように加工している。これらの映像は、豊の国ネットワークのVLAN4を利用して野津原町の住民が豊の国ネットワーク端末(役場、多世代交流プラザ、中央公民館、今市支所、ミモザの館、和泉荘)から自由にアクセスできるように配信されている。

5 - 5 ヒ素による発がん・転移のメカニズムの解明とその過程における p53 の役割に関する共同研究

研究者：高橋 敬（代表）、市瀬 孝道、吉田 成一、定金 香里、安部 眞佐子、石塚 香子

1) 平成 14 年度の研究について

(1) 平成 14 年度の計画の概要

ヒ素による発がんのメカニズムは8-OHdGが産生され、それがDNAに蓄積されることによって起こることが考えられている。したがってp53欠損マウスはアポトーシスが抑制されるために、ヒ素を投与すれば8-OHdGがDNAに蓄積しやすくなることが予測される。このときのp53遺伝子の役割を検討するためにp53遺伝子欠損マウスの8-OHdG産生量とmRNA量の変動を検査することが本研究の目的である。

(2) 平成 14 年度の経過

p53欠損マウスの管理、すなわち維持、飼育、増殖するシステムを確立することが出来た。またp53遺伝子欠損マウスの個体識別が可能になった。その検出方法は、抽出したDNAに対して異なった3つのプライマーをもちいてPCRを行い、電気泳動ゲルを解析することにより各種遺伝子タイプ(+/, +/, -/)を同定することができた。現時点では(+/-) どちらの一回の交配で約十匹弱のノックアウト(-/-) マウスが得られるようになった。

以後このマウスと、この交配で得られた (+/) をコントロールにして検索する予定である。

5 - 6 健康運動としての軽登山の検討

研究者：稲垣 敦 (代表)、大賀 淳子

1) 平成 14 年度の研究について

これまでの登山の研究は高山病など疾病に関する医学的研究が中心で、中高齢者が趣味として登るような低い山を対象とした研究は少なく、軽登山を健康運動として評価した研究は極めて少ない。本研究では、多面的かつ客観的に軽登山を評価し、中高齢者の健康運動としての軽登山の有効性、問題点、注意点を明らかにする。また、個々の山やルートの特性を明らかにして、登山者に情報を提供することも目指している。

本年度は研究計画にあるように測定における問題点を洗い出すため、22 歳、23 歳、49 歳の健康な女性 3 名を被験者とし、久住山 (1787m) と由布岳 (1583m) で計 4 回パイロットスタディを実施した。まず、登山口で、身長、体重、体脂肪率、血圧、血中乳酸濃度を測定してから、テレメトリー式呼気代謝計測システム K4b2 (COSMED 社製) を装着し、心拍数、換気量、酸素摂取量、二酸化炭素排出量の安静時測定をした。次に、ストレッチングなどのウォーミングアップを行ってから、登山を開始した。心拍数、換気量、酸素摂取量、二酸化炭素排出量、消費エネルギー量、炭水化物・脂質・蛋白質動員率は連続的に測定し、血圧と血中乳酸濃度は休憩時に測定した。

この結果、以下の点が今後の検討課題として上げられた：1) 被験者の緊張と練習、2) ウォーミングアップの強度と時間、3) 歩行速度、4) 休憩の頻度と時間、5) ザック重量、6) K4b2 のキャリブレーション及びメモリ容量など。

6 奨励研究

6 - 1 母親の人格特性と被養育体験、現在の育児上の問題との関連

研究者：神崎 光子（代表）、宮崎 文子、学外共同研究者：三角 順一（大分医科大学）

1) 平成 14 年度の研究について

- (1) 目的・意義：育児期における母親の育児適応をスムーズにする個別的で効果的な援助を検討するために、母親の人格的な行動特性と育てられ体験、現在の育児上の問題との関連を明らかにする
- (2) 対象者：3 歳以下の子どもを養育している母親 600 名程度
- (3) 調査場所：大分県内の保育所および附属の児童館、保健所の幼児健診会場
- (4) 調査方法：自記式質問紙調査票による留置（一部郵送）調査
- (5) 調査内容：育児上の問題；育児ストレイン尺度（坂間 1999）28 項目、②被養育体験；Parker(1979) が開発した PBI（Parental Bonding Instrument）の日本語版（北村ら、1993）父母についての各 25 項目、③属性（年齢、出生順位、就業の有無、家族形態、子どもの年齢および数、性別 父母の年齢）7 項目、④TEG（東大式エゴグラム新版）55 項目
- (6) 調査期間：平成 15 年 4 月中旬～5 月末（予定）

6 - 2 育児期の女性に居住環境が与える心身への影響に関する研究

研究者：後藤 由美（代表）、学外共同研究者：鈴木 義弘（大分大学工学部福祉環境工学科）

1) 平成 14 年度の研究について

妊娠から育児期の女性は、大変ストレスフルな状態であり身体的・精神的にトラブルを多く抱えている。生活全般に関わる居住環境が影響を与えていることがこれまでの研究で示唆されており、妊娠中から育児期の女性の身体的・精神的健康状態に居住環境が与える影響について明らかにすることを目的に調査を実施した。調査内容は GHQ28・国民生活基礎調査（健康票）・妊婦の健康調査票を用いて心身の健康状態を経時的に把握すると同時に、対象者の住居環境や住まい方の調査を行う事で、心身の健康状態と居住環境との関連性を明らかにする。調査は大分と埼玉の 2 施設で褥婦を対象に平成 14 年 9 月より開始し 300 名からの回答を目標に現在も継続中である。

2) 平成 15 年度の計画の概要

追跡調査を初回調査より 6 ヶ月後と 1 年後に実施する。

6 - 3 顕微鏡所見からみる母乳の意義

研究者：安部 恭子（代表）、学外共同研究者：島田 達生、安田 愛子（大分医科大学）

1) 平成 14 年度の研究について

母乳の利点はさまざまな観点から研究され、多くの知見を得ている。しかし、形態学的報告および個人の母乳に焦点をあてたものは少ない。そこで、今回はヒト母乳のうち、特に初乳に焦点をあて顕微鏡で検索した形

態学的特徴から母乳の主たる利点とされる栄養や免疫について明らかにすることを目的とした。

今年度の研究方法は次に示す通りである。研究目的に同意し、成熟児を出産した産褥婦から採取した母乳を用いた。同時に食事内容等の情報収集を行う。採取された母乳において脂肪、糖質、ビタミンと特異的に反応する化学試薬を用いて、その染色性における特徴を光学顕微鏡下で観察した。また透過、走査電子顕微鏡下で観察を実施した。その結果、母乳における光学顕微鏡観察では、構成主成分である脂質滴が明瞭に確認された。また、走査および透過電子顕微鏡観察により個々の脂肪滴は膜に包まれており、融合することなく球形であることを示した。栄養、免疫については共同研究者と分析中である。

6 - 4 大腿骨頸部骨折を起こした高齢者とその家族の退院後の生活に関する意思決定プロセス

研究者：小野 美喜（代表）、大津 佐知江、福田 広美、内田 雅子、檜原 登志子、粟屋 典子

1) 平成 14 年度の研究について

大腿骨頸部骨折を起こした高齢者は、長期入院や施設入所となるケースも多く、これまでの生活スタイルを変更する必要性が生じてくる。しかし、その渦中の高齢者が今後の自分の生活についてどのように意思決定をおこなっているのか、満足感をもって退院後の生活がおこなわれているかについての実態は明らかではない。本研究では、看護師が高齢者の退院への援助を効果的に行うために、意思決定の実態の把握を目的としている。

本年度は、大分県内 6 施設の総合病院および単科の整形外科病院に入院中の大腿骨頸部骨折をおこした高齢者 10 名（対象数は現在も追加中）について調査を行った。調査は、半構成的面接によるインタビューとし、面接時期はリハビリ開始時、退院時、退院後 1 ヶ月に実施した。

現在、グランデッド・セオリー法を用いて面接内容や ADL の変化から意思決定のプロセスについて分析中である。また今後も退院後 6 ヶ月、1 年と継続した面接を行い、長期の高齢者の生活に関する意思決定を分析する計画である。

6 - 5 大分県の気管支喘息患児の背景にある住環境因子の検討

研究者：高野 政子（代表）、目原 陽子

1) 平成 14 年度の研究について

文部科学省の学校保健統計調査報告書によると、近年小児の喘息は増加傾向にあるとされている。従来は小学校卒業時までは治癒することが多いとされていた小児喘息だが、最近は治りにくくなり学童期に入ってから発病も増えたと言われている。喘息の発症は、遺伝・感染・環境といった要因が相互に絡み合って引き起こされるとされているが、最近の大分県内の喘息学童における実態調査は報告されていない。小児喘息の実態を把握することは、小児保健のヘルス・プロモーションを推進する立場からすると重要なことである。

今回大分県内の小児を対象とした実態調査を行う予定である。まず、最初は住環境・家庭における予防行動などを明らかにする目的で調査する準備を進めている。現在先行文献の後で調査内容・対象者・協力者の絞り込みを行い研究デザインを検討中である。

6 - 6 アオコの肝炎発生機序の解明

研究者：定金 香里

1) 平成 14 年度の研究について

アオコは藍藻類の異常繁殖による水質汚染の一つで、汚染された水を摂取した人畜の死亡、神経障害、肝障害が報告されている。我々は、肝毒素として同定されているミクロシスチン(Mic LR)と新たに発見された同位体、Dhb-Mic LR をそれぞれマウスに投与し、肝への影響と病態発生のメカニズムについて調べた。マウス腹腔内に週に 1 回、14 ヶ月間投与した結果、Mic LR、Dhb-Mic LR 投与マウスでともに肝腫瘍を生じていた。また肝臓に著しい線維化が見られた。Mic LR と Dhb-Mic LR の作用機序を明らかにするためには、これら炎症症状が発生する初期におけるサイトカイン産生について調べる必要がある。そこで Mic LR と Dhb-Mic LR を 2 ヶ月間マウスに同様に投与し、肝組織を得た。現在、肝組織中サイトカインを解析中である。

6 - 7 タンパク質性食品が糖質性食品のグリセミックインデックスに及ぼす影響について

研究者：安部 眞佐子

1) 平成 14 年度の研究について

グリセミックインデックス(GI)は糖質性食品による食後血糖上昇の目安となるものである。糖尿病未発症者でも、急激な食後血糖を抑えることは重要である。実際の食事では、脂肪、タンパク質などを多く含む食品と糖質性食品とを組み合わせる食事をとることがほとんどであり、栄養指導の場で GI を実用化するためにはより実際に近い食事形態で根拠を得ることが必要である。アミノ酸や脂肪酸の同時摂取によりインスリンの分泌が促進されるとの報告があるので、本研究では、タンパク質性食品が GI に与える影響をみた。研究参加へのインフォームド・コンセントの得られた被験者に早朝空腹時に、検査食を摂取させ、血糖値を測定し、GI を算出した。その結果、豆乳、牛乳は、約 8 割程度に GI を低下させたが、肉、魚、鳥肉では同時摂取の影響はほとんどなく、これらの固形物では消化吸収に時間がかかるために、血糖上昇を抑える効果がみられないようであった。

6 - 8 統合失調症患者の精神的健康関連体力及びそのテストの交差妥当性の検討

研究者：稲垣 敦

1) 平成 14 年度の研究について

一昨年、統合失調症の社会復帰の判断の一指標として、「統合失調症患者の精神的健康関連体力 (mental-health-related physical fitness)」という概念を提案し、そのための簡易体力テストを構成した。そこで、本研究ではこの概念及び簡易テストの交差妥当性を検討することを目的とした。対象者は、デイケア施設に通所し、研究への協力に同意した統合失調症患者男性 30 名、女性 13 名であった。体力テスト項目は、握力、背筋力、長座体前屈、最大酸素摂取量、閉眼重心動揺外周面積、ステッピング、全身反応時間の 7 項目である。生活障害は、精神障害者社会生活評価尺度 (Life Assessment Scale for the Mentally Ill, LASMI) を

用いて、医師らが5段階評価した。分析中では、年齢および抗精神病薬内服量の影響を考慮し、性別に体力と生活障害の(偏)相関係数を算出し、(偏)正準相関分析、(変形)主成分分析を適用し、基準関連妥当性や構成概念妥当性の点から精神的健康関連体力を同定し、昨年の研究結果と比較して交差妥当性を検討する予定である。

6 - 9 筋音図解析による新しい力調節安定性評価法の開発

研究者：吉武 康栄

1) 平成 14 年度の研究について

張力を目標値に精確に調節する課題動作中における協働筋の役割について、下腿3頭筋を対象に筋音図を用いて明らかにすることを目的とした。被検者は健常若年成人男性8名とし、等尺性筋収縮を最大筋力の10%に完全に一致するよう約30秒間最大限努力させた。その際、発揮張力、筋音図および筋電図を腓腹筋内側頭および外側頭、ヒラメ筋から導出した。張力は1階微分を行ない、筋音図および筋電図は全波整流を施した。張力波形と各信号の類似性を調べるために相互相関関数を算出したところ、筋音図および筋電図とも腓腹筋内側頭から導出された波形との相関係数が有意に高かった。結果より、等尺性の足関節底屈動作においては内側腓腹筋が張力を調節する主たる貢献を果たしていることが示された。また、張力の発生機序も考慮すると、筋の機械的活動を表す筋音図の方が筋電図による評価よりも、力調節に対する各々の筋の貢献度を詳細に評価できることが示唆される。

7 インターネットジャーナル「大分看護科学研究」

平成 11 年 12 月に創刊後、投稿原稿の募集、査読依頼、編集作業などを継続し、平成 14 年 6 月に第 3 巻第 2 号を発行した。ジャーナルは本学ホームページ (<http://www.oita-nhs.ac.jp/journal>) に公開されており、ダウンロードすることができる。

第 3 巻第 2 号 目次

短報

Changes in the sleep during prolonged bed rest in healthy young men

Reiko Sato, Jukai Maeda

資料

在宅精神障害者の日常生活における困りごと・苦手なこと—当事者と
家族との意識のずれ—

影山 隆之、大賀 淳子、河島 美枝子、舞 治代、
佐田 美貴恵、渡辺 英宣、東保 みづ枝

トピックス

大分県立看護科学大学 平成 13 年度公開講座

21 世紀の看護—いま、看護職に求められているもの	高橋久夫
21 世紀における看護の継続教育：諸外国の例	洪 麗 信
コミュニケーション・スキルをどう育てるか	関根 剛
看護診断、今求められるもの	藤内美保
家族を看護する	木下由美子
看護の倫理と Professionalism	平野 亙

8 業績

8 - 1 著書

1. 分担共著

杉山 みち子, 安部 眞佐子, 有澤 正子, 三橋 扶佐子: 消化・吸収-基礎と臨床-, 細谷憲政編, 第一出版, 東京, 2002

中村 豊, 泉 孝吉, 幾瀬 純一, 山村 浩太郎, 塚田 勝, 成田 浩人, 赤羽 恵一, ほか: 放射線安全管理の手引き「放射線関連機器管理責任者」「放射線管理士」認定講習統一テキスト, 日本放射線技師会編, 医療科学社, 東京都, 2002

津田 彰, 山田 富美雄, 山内 桂子, 山内 隆久, 平野 瓦, 他 138 名: シリーズ医療の行動科学 ?医療行動科学のためのカレント・トピックス, 山田 富美雄監修, 北大路書房, 京都, 2002

朝見 行弘, 池永 満, 内田 博文, 大林 雅之, 久保井 撰, 小林 洋二, 平野 瓦, 武藤 糾明, 他: Q & A 医療・福祉と患者の権利, 大林 雅之, 平野 瓦, 朝見 行弘, 池永 満他編, 明石書店, 東京, 2002

稲垣 敦: 多変量解析実例ハンドブック, 柳井 晴夫, 岡太 彬訓, 繁榊 算男, 高木 廣文ほか, 朝倉書店, 東京, 2002

影山隆之: 精神障害の予防をめぐる最近の進歩, 小椋 力編, 星和書店, 東京, 2002

辻本 忠, 占部 逸正, 小田 啓二, 甲斐 倫明, 草間 朋子: 放射線取扱者のための法令の話 (改訂版), 日本アイソトープ協会, 東京, 2002

鑓 幹八郎, 上地 裕一郎, 中村 博文, 珠美, 神崎 光子, 佐藤 みつよほか: アイデンティティ研究の展望VI, 鑓 幹八郎, 宮下 一博, 岡本 祐子編, ナカニシヤ出版, 京都市, 2002

木下 由美子: 看護大事典, 和田 攻, 南 裕子, 小峰 光博編, 医学書院, 東京, 2002

阿南 みと子, 伊東 朋子, 梶原 美佐, 金井 和子, 河島 美枝子, 木下 由美子, 栗栖 瑛子, 齋藤 高雅, 桜井 礼子, 佐藤 和子, 志賀 たずよ, 藤内 美保, 日高 貢一郎, 溝口 全子, 三苫 里香, 宮崎 文子, 森 まさ子, 八代 利香, 山内 豊明, 山口 真由美, 吉留 厚子: 大分保健医療方言集, 大分県立看護科学大学・大分保健医療方言研究会, 大分県野津原町, 2002

柳井 晴夫, 高木 廣文, 佐伯 圭一郎, 金子 俊, 岩崎 学ほか98名: 多変量解析実例ハンドブック, 柳井 晴夫, 岡 太彬訓, 繁榊 算男, 高木 廣文, 岩崎 学編, 朝倉書店, 東京, 2002

齋藤 高雅: 精神保健とは何か, 62-69, 心理検査で何をみるか, 159-165, 精神疾患、看護のための最新医学講座第12巻, 加藤 進昌, 編, 中山書店, 東京, 2002

齋藤 高雅: 心理検査, 評価尺度, 78-94, 精神保健, 131-141, TEXT 精神医学 第2版, 松下 正明, 広瀬 徹也, 編, 南山堂, 東京, 2002

高橋 敬: ゲノムからみた生物の多様性と進化, 五條堀 孝編, シュプリンガー・フェアラーク, 東京, 2003

高橋 敬：血液の事典，平井 久丸，押味 和夫，坂田 洋一編，朝倉書店，東京，2003

吉武 康栄，篠原 稔：筋の科学事典，福永 哲夫編，朝倉書店，東京，2002

2. 翻訳

宮崎 文子訳：Sue Cox 著，これならだいじょうぶ 私の赤ちゃん おっぱいノート，MCメデिका出版，大阪府，2002

阿南 みと子，安部 真佐子，大賀 淳子，影山 隆之，神崎 光子，齋藤 高雅，佐藤 和子，藤内 美保，三笥 里香，山内 豊明，山口 真由美ほか訳：マーガレット・ローイド／ロバート・ポア著，事例で学ぶ医療コミュニケーション・スキル—患者とのよりよい関係のために，山内豊明編，西村書店，新潟，2002

草間 朋子，甲斐 倫明，伴 信彦，赤羽 恵一訳：ICRP Publication 84 妊娠と医療放射線，ICRP 勧告翻訳検討委員会，日本アイソトープ協会・丸善，東京，2002

8 - 2 原著・総説・プロシーディングス

安部 恭子，島田 達生，安田 愛子：マウスの骨格筋における脂肪滴の分布像を用いた小児肥満の健康教育，China-Japan Medical Conference 2002 and the 8th China-Japan Nursing conference Book, 210-212, 2002

安部 真佐子、草間 朋子：地域中高年齢者の身体計測値と握力について，Health Sciences, 17(3), 217-223, 2002

上泉 和子，内布 敦子，栗屋 典子：看護ケアの質評価・改善の管理体制づくりに関する研究，平成13年度厚生科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）研究報告書，1-11, 2002

阿部 俊枝，上泉 和子，栗屋 典子，内布 敦子，葛西 淑子，板橋 玲子，藤林 文子，八木橋 昌子，大平 和子，板野 優子：看護ケアの質過程自己評価の開発と妥当性の検証，日本看護管理学会誌，5(2)，19-28，2002

Ban, N., Hiraoka, T., Fujiwara, N., Ueno, S., Kusama, T. : Measurement of the Hand Doses of Radiologists during Interventional Radiology with CT Fluoroscopy, Proceedings of The First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection (AOCR-1), 2002

Ban, N., Yoshida, K., Aizawa, S., Wada, S., Kai, M. : Cytogenetic analysis of radiation-induced leukemia in Trp53-deficient C3H/He mice, Radiation Research, 158(1), 69-77, 2002

後藤 由美，吉留 厚子，宮崎 文子：日本における会陰切開の現状，China-Japan Medical Conference 2002 and the 8th China-Japan Nursing conference Book, 109-111, 2002

林 猪都子，瀬尾 奈緒子：妊婦の分娩時処置浣腸に対する認識，China-Japan Medical Conference 2002 and

the 8th China-Japan Nursing conference Book, 106-108, 2002

Ichinose, T., Takano, H., Miyabara, Y., **Sadakane, k.**, Sagai, M., Shibamoto, T.: Enhancement of antigen-induced eosinophilic inflammation in the airway of mast-cell deficient mice by diesels exhaust particles., *Toxicology*, 180(3), 293-301, 2002

Takano, H., Yanagisawa, R., **Ichinose, T.**, **Sadakane, K.**, Yoshino, S., Yoshikawa, T., Morita, M. :Diesel exhaust particles enhance lung injury related to bacterial endotoxin through expression of proinflammatory cytokines, chemokines, and ICAM-1., *American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine*, 165(9), 1329-1335, 2002

Takano, H., Yanagisawa, R., **Ichinose, T.**, **Sadakane, K.**, Inoue, K., Yoshida, S., Takeda, K., Yoshino, S., Yoshikawa, T., Morita, M. :Lung expression of cytochrome P450 1A1 as a possible biomarker of exposure to diesel exhaust particles., *Archives of Toxicology*, 76(3), 146-151, 2002

稲垣 敦 : 質的データのファジィ時系列分析, *日本ファジィ学会誌*, 14(6), 104-111, 2002

Ishizuka-Iwasaki, Y., Yamato, H., Murayama, H., Takahashi, T., Ezawa, I., Kurokawa, K., Fukagawa, M. : Menatetrenone prevents osteoblast dysfunction in unilateral sciatic neurectomized rats., *Jpn J Pharmacol.*, 90(1), 88-93, 2002

Kazama, J.J., Kato, H., Sato, T., Shigematsu, T., Fukagawa, M., **Ishizuka-Iwasaki, Y.**, Gejyo, F. : Circulating osteoprotegerin is not removed through haemodialysis membrane., *Nephrol Dial Transplant.*, 17(10), 1860-1861, 2002

山口 真由美, 稲垣 敦, 井上 好, 伊東 朋子, 金井 和子, 森 ひとみ : 乳がん手術後の肩関節機能の回復進度と疼痛及びリハビリテーションとの関係, 第 32 回日本看護学会論文集—成人看護, 121-123, 2002

松成 裕子, 藤井 宝恵, 宮腰 由紀子, 前島 洋, 吉村 理, 米原 奈穂子, **伊東 朋子** : ベッドサイド補助具使用による寝床の環境条件への心理的反応, Semantic Differential method を用いた使用評価比較, *日本民族衛生学会誌*, 68(5), 167-175, 2002

松成 裕子, 藤井 宝恵, 宮腰 由紀子, 前島 洋, 吉村 理, **伊東 朋子** : ベッドサイド補助具使用による寝床環境がもたらす身体的反応, BIS を用いた比較, *日本民族衛生学会誌*, 68(6), 216-227, 2002

影山 隆之, 大賀 淳子, 河島 美枝子, 舞 治代, 佐田 美貴恵, 渡辺 英宣, 東保 みづ枝 : 在宅精神障害者の日常生活における困りごと・苦手なこと—当事者と家族との意識のずれ—, *大分看護科学研究*, 3(2), 33-39, 2002

影山 隆之, 錦戸 典子, 小林 敏生, 大賀 淳子, 河島 美枝子 : 不規則交替勤務に従事する病院看護婦の職業性ストレスと不眠症との関連, *こころの健康*, 17(2), 50-57, 2002

稲本 絵里, 安藤 久美子, **影山 隆之**, 岡田 幸之, 石井 朝子, 飛鳥井 望, 笹川 真紀子, 小西 聖子 : 被害体験と「回避」の機制—性暴力被害の住民研究から—, *精神保健研究*, 15, 35-41, 2002

影山 隆之 : 衛生看護科女子高校生のボディイメージとセルフエスティーム, *学校メンタルヘルス*, 5, 51-57, 2002

小林 敏生, 影山 隆之, 金子 信也, 田中 正敏: 夜勤交代制勤務職場における勤務形態別の睡眠障害と抑うつに関する検討, 山口県立大学看護学部紀要, 6, 21-27, 2002

石井 朝子, 飛鳥井 望, 小西 聖子, 稲本 絵里, 影山 隆之: わが国における児童期の性的被害の実態とその影響, 精神保健研究, 15, 23-28, 2002

房常 朋視, 藤原 伸行, 甲斐 倫明, 草間 朋子: 大分県におけるスクリーニングマンモグラフィの実態調査に基づいた線量と画質との関係に関する検討, 日本乳癌検診学会誌, 11 (3), 270-280, 2002

Takahashi, T., **Kai, M.**, Yamazaki, K., Gomi, K., Nakazato, K., Iida, T.: A proposal for prevention of acute radiation hazard and social panic regarding orphan sources in Japan, Proceedings of the First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection, 2002

Kai, M., **Ban, N.**: A mathematical model for leukemogenesis of radiation-induced acute myeloid leukemia in C3H/He mice, Proceedings of the First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection, 2002

Ono, K., Takano, Y., Hada, M., **Akahane, K.**, **Kai, M.**, **Kusama, T.**: Comparison of doses and image quality among various chest X-ray systems using a phantom for adenocarcinoma based on Noguchi's type B classification, Proceedings of the First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection, 2002

伴 信彦, 赤羽 恵一, 甲斐 倫明: NCRP Report No. 136 「電離放射線に対する直線閾値なし線量反応モデルの評価」の解説, 保健物理, 36 (4), 353-358, 2001

草間 朋子: 「あの日、東海村でなにが起こったか」, 看護, 3, 10-10, 2002

草間 朋子: 生殖年齢にある女性へのX線検査, 日本医事新報, 4059, 112-113, 2002

草間朋子: 放射線との出会いと今, NL だより 1, 293, 1-1, 2002

草間 朋子: 原子力公開資料センターを訪ねて, 原子力公開資料広報, 7, 1-2, 2002

Kusama, T., Ota, K.: Radiation pProtection for diagnostic examination of pregnant women, Congenital Anomalies, 42 (1), 10-14, 2002

宮崎 文子: ICM トピックス: 日本看護協会助産師職能が「男性助産師と助産実践」をテーマに講演会を開催, 助産婦雑誌, 56 (8), 86-87, 2002

Miyazaki, F.: Male Midwives and Midwifery Practice -Trend and Issues in Japan, The 26th ICM Congress Proceedings CD-ROM: midwives and women together for the family of the world vienna 2002, 1 (6), 2002

宮崎 文子: 損益分岐点分析による助産院経営の実態分析, 日本助産学会誌, 16 (2), 35-47, 2002

宮崎 文子: 韓国における助産院経営の現状, ペリネイタルケア, 21 (9), 80-86, 2002

Sadakane, K., Takano, H., **Ichinose, T.**, Yanagisawa, R., Shibamoto, T: Formaldehyde enhances mite allergen-induced eosinophilic inflammation in the murine airway., Journal of Environmental Pathology, Toxicology and Oncology, 21 (3), 267-276, 2002

Sadakane, K., Ichinose, T., Takano, H., Yanagisawa, R., Sagai, M., Yoshikawa, T., Shibamoto, T.: Murine strain differences in airway inflammation induced by Diesel exhaust particles and house dust mite allergen., *International Archives of Allergy and Immunology*, 128(3), 220-228, 2002

関根 剛: コミュニケーション・スキルをどう育てるか, *大分看護科学研究*, 3(2), 48-50, 2002

寺崎 明美, 辻 慶子, 鷹井 樹八子, 間瀬 由記, 関根 剛: 喉頭摘出者の日常生活負担感とセルフヘルプ・グループから得ている支援との関連, *長崎大学医学部保健学科紀要*, 15(2), 33-40, 2002

Ohta, S., Nakamoto, H., **Shinagawa, Y.**, Tanikawa, T.: A health monitoring system for elderly people living alone, *Journal of Telemedicine and Telecare*, 8, 151-156, 2002

Ohta, S., **Shinagawa, Y.**, Tanikawa, T., Nakamoto, H.: Remote Health Monitoring System for the Elderly Living Alone, *Biocybernetics and BioMedical Engineering*, 22, 123-134, 2002

高野 政子, 山崎 清男: 病弱児に対する教育の現状と関係者の意識, *保健の科学*, 44(4), 305-311, 2002

藤内 美保: 看護診断、今求められるもの, *大分看護科学研究*, 3(2), 51-54, 2002

藤内 美保, 小野 美喜, 加藤 さゆり, 加藤 嘉子, 高屋 弘美: 中山間地域における家族介護者の病気対処行動, 第32回日本看護学会(老人看護), 128-130, 2002

藤内 美保, 村上 義孝, 藤内 修二: 在宅介護状況の視覚的表現を目的とした介護アセスメントモデルの開発の試み, *日本地域看護学会誌*, 5(1), 36-42, 2002

藤内 美保, 吉留 厚子: 連続的同一夜勤勤務における看護師の生活時間構造, 第33回日本看護学会論文集(看護総合), 33-35, 2002

内田 雅子: 透析をしながら働く中年期男性における生きがいと生活史的仕事の関係, *看護研究*, 35(5), 47-61, 2002

中原 宣子, 森田 夏実, 内田 雅子: 透析看護の確立に向けての基礎調査?透析室に従事する看護師の現況, *大阪透析研究会会誌*, 20(2), 159-165, 2002

洪 麗信, 八代 利香, 草間 朋子, 桜井 礼子, 宮崎 文子: 日本と日米韓との助産業務比較実態調査, *助産婦雑誌*, 56(5), 61-68, 2002

八代 利香: アメリカにおける看護記録の実際, *Quality Nursing*, 8(8), 41-46, 2002

Uchida, T., **Yoshida, S.**, Inui, Y., Takeda, K.: Effect of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin on testosterone production in isolated murine testicular cells., *Journal of Health Science*, 48(3), 292-295, 2002

Yoshida, M., **Yoshida, S.**, Sugawara, I., Takeda, K.: Maternal exposure to diesel exhaust decreases expression of steroidogenic factor 1 (Ad4BP/SF-1) and Mullerian inhibiting substance (MIS) in the murine fetus., *Journal of Health Science*, 48(4), 317-324, 2002

吉田 成一, 武田 健: 環境汚染物質による生体恒常性の攪乱「生殖系に影響を及ぼす化学物質」, *水環境学*

会誌, 257-2, 68-72, 2002

吉留 厚子, 林 猪都子, 渡辺 しおり : 褥婦の乳房清拭前・後の乳輪部細菌の比較—清拭に用いる物品別検討—, ペリネイタルケア, 260, 82-86, 2002

吉留 厚子, 林 猪都子, 後藤 由美, 渡辺 しおり : 清拭物品別乳房清拭前・後の乳輪部細菌の比較—分娩後1ヶ月の母乳哺育中の母親に対して—, 熊本県母性衛生学会雑誌, 5, 3-10, 2002

吉留 厚子, 林 猪都子, 後藤 由美, 渡辺 しおり : 母乳哺育中における乳房清拭の必要性の検討—産褥1ヶ月時の母乳パット・肌着からの細菌検出—, 第32回日本看護学会論文集—母性看護—, 117-119, 2002

吉留 厚子, 後藤 由美, 江月 優子 : 日本の一般女性がもつ更年期についての知識と更年期の対処方法および看護職の役割 : China-Japan Medical Conference 2002 and the 8th China-Japan Nursing conference Book, 119-121, 2002

Yoshitake, Y., Kawakami, Y., Kanehisa, H., Fukunaga, T. : Behaviours of muscle-tendon complex during electrical stimulation with trains of linearly varying frequency in humans., Proceedings of World Congress of Biomechanics, 1247, 2002

Yoshitake, Y., Shinohara, M., Ue, H., Moritani, T. : Characteristics of surface mechanomyogram are dependent on development of fusion of motor units in humans. , Journal of Applied Physiology, 93-5, 1744-1752, 2002

8 - 3 研究報告書その他の刊行物

1 . 研究報告書

稲垣 敦, ジュニア期の効果的スポーツ指導法の研究に関する基礎的研究, 平成 13 年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告(第2報), 日本体育協会, 2002

齋藤 高雅 : サリドマイド胎芽病者の精神健康に関する追跡研究, 平成 11-13 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書, 大分市, 2002

齋藤 高雅 : 駿河台大学健康相談室活動報告書第4号, 駿河台大学, 埼玉県飯能市, 2002

吉武 康栄, 篠原 稔, 神崎 素樹, Enoka, RM., 福永 哲夫 : 筋音図法を用いた力調節機能(steadiness)評価システムの開発, デサントスポーツ科学(デサントスポーツ科学振興財団 研究助成報告), 23, 70-77, 2002

篠原 稔, 吉武 康栄, 神崎 素樹, Enoka, RM. : 短期間の筋力トレーニングや寝たきり生活による力調節安定性(steadiness)の適応, デサントスポーツ科学(デサントスポーツ科学振興財団 研究助成報告), 23, 35-41, 2002

8 - 4 学会発表

安部 恭子, 島田 達生, 安田 愛子 : マウスの骨格筋における脂肪滴の分布像を用いた小児肥満の健康教育, China-Japan Medical Conference 2002 and the 8th China-Japan Nursing conference, 2002, 11, 北京

安部 眞佐子, 稲垣 敦, 草間 朋子 : 地域中高年齢者の上腕筋面積と握力、血清タンパク質値の関連性について, 第25回日本栄養アセスメント研究会, 2002, 5, 福岡市

赤羽 恵一, 橋本 恵美, 甲斐 倫明, 草間 朋子, 羽田 道彦, 高野 嘉久, 小野 孝二 : 新生児の CT 撮影における放射線被ばく線量評価, 日本保健物理学会第36回研究発表会, 2002, 6, 金沢市

久保 剛, 赤羽 恵一, 甲斐 倫明 : 金属スクラップ中から発見された身元不明線源の γ 線スペクトル分析による線源の同定と定量, 日本保健物理学会第36回研究発表会, 2002, 6, 金沢市

小野 孝二, 青田 知子, 赤羽 恵一, 甲斐 倫明, 草間 朋子, 羽田 道彦, 高野 嘉久 : NICUにおける新生児のX線検査による被ばく線量評価, 日本保健物理学会第36回研究発表会, 2002, 6, 金沢市

Akahane, K., Kai, M., Kusama, T., : Dose Estimation of Patients in CT Examinations using EGS4 Monte-Carlo Simulation of Voxel Phantom, The First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection (AOCRP-1), 2002, 10, Seoul, Korea

Ono, K., Takano, Y., Hada, M., Akahane, K., Kai, M., Kusama, T., : Comparison of Doses and Image Quality among Various Chest X-ray Systems Using a Phantom for Adenocarcinoma Based on Noguchi's Type B Classification, The First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection (AOCRP-1), 2002, 10, Seoul, Korea

後藤 由美, 吉留 厚子, 宮崎 文子 : 分娩時の医療行為の現状について-その1 会陰切開・剃毛・浣腸の実施と女性の肯定的気持ちについて, 第4回日本母性看護学会学術集会 抄録集, 2, 6, 群馬県

伴 信彦, 草間 朋子, 平岡 徹, 藤原 伸行, 上野 真一郎 : CT透視下の医療行為における術者の手部被ばく線量の測定 (II), 日本保健物理学会第36回研究発表会, 2002, 6, 金沢市

伴 信彦, 甲斐 倫明 : マウス造血細胞のトランスフォーメーション過程における白血病特異的染色体異常の解析, 日本放射線影響学会第45回大会, 2002, 9, 仙台市

Ban, N., Hiraoka, T., Fujiwara, N., Ueno, S., Kusama, T. : Measurement of the Hand Doses of Radiologists during Interventional Radiology with CT Fluoroscopy, The First Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection (AOCRP-1), 2002, 10, Seoul, Korea

後藤 由美, 吉留 厚子, 宮崎 文子 : 分娩時の医療行為の現状について —その2 会陰切開の現状と事前説明・自己選択の希望について, 第4回日本母性看護学会学術集会, 2, 6, 群馬県

後藤 由美, 吉留 厚子, 宮崎 文子 : 日本における会陰切開の現状, China-Japan Medical Conference 2002 and the 8th China-Japan Nursing conference, 2, 11, 北京

林 猪都子, 瀬尾 奈緒子 : 妊婦の分娩時処置浣腸に対する認識, China-Japan Medical Conference 2002 and

the 8th China-Japan Nursing conference, 2002, 11, 北京

林 猪都子, 瀬尾 奈緒子 : 妊婦の自己決定を促す情報提供の在り方—分娩時処置とその情報提供に対する意識調査, 第 43 回日本母性衛生学会, 2002, 9, 旭川市

松原 登志子, 川崎 裕美 : 「看護基礎教育課程における継続看護の学習方法の評価—卒業後の継続看護に関する意識調査からの考察 (第 4 報) , 日本看護学教育学会 第 12 回学術集会, 2002, 7, 札幌市

市瀬孝道, 定金香里, 高野裕久, 柳澤利枝, 鈴木明, 嵯峨井勝: ダニ抗原とディーゼル排気暴露による気道炎症に対するマウス系統差, 第 43 回大気環境学会, 2002, 9, 府中市

Ichinose, T., Sano, T., Sadakane, K., Kawazato, H., Kaya, K. : Promoting and progressive effect of [D-Asp3, (E)-Dhb7] microcystin-LR and on the development of spontaneous liver tumor in C3H/HeN mice., Xth International Conference on Harmful Algae, 2002, 10, St. Pete Beach, Florida

高野裕久, 市瀬孝道, 吉川敏一: シンポジウム「環境ホルモンとアレルギー」化学物質によるアレルギーの修飾, 第 15 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2003, 5, 横浜市

井上健一郎, 高野裕久, 柳澤利枝, 市瀬孝道, 定金香里, 森田昌敏, 内山和彦, 吉川敏一: エンドトキシンによる急性肺傷害に対する 15d-PGJ2 の効果, 第 15 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2003, 5, 横浜市

稲垣 敦, 大賀 淳子, 平井 仁, 影山 隆之, 河島 美枝子, 帆秋 善雄 : 精神分裂病患者の精神的健康関連体力テスト, 第 22 回日本社会精神医学会, 2002, 3, 千葉市

稲垣 敦, 大賀 淳子, 河島 美枝子 : 統合失調症患者の精神的健康関連体力とそのテスト, 日本体育学会第 53 回大会, 2002, 10, さいたま市

稲垣 敦, 桜井 礼子, 八代 利香, 高波 利恵, 吉武 康栄, 平野 互, 洪 麗信, 草間 朋子 : 生活習慣病などの健康問題に関連づけた BMI の評価基準, 第 61 回日本公衆衛生学会総会, 2002, 10, さいたま市

稲垣 敦 : 生活習慣病などの健康問題に関連づけた体脂肪率の評価, 第 57 回日本体力医学会大会, 2002, 9, 高知市

平井 仁, 稲垣 敦, 小野妙子, 大隈鉦子 : 精神科デイケア通所者のバランス能力についての考察, 第 22 回日本社会精神医学会, 2002, 3, 千葉市

石塚 (岩崎) 香子, 大和 英之, 黒川 清, 深川 雅史 : 加齢のみならず腎機能低下が低代謝回転骨を惹起する, 第 4 回日本骨粗鬆症学会, 2002, 11, 東京

山口 真由美, 伊東 朋子 : 乳がん術後の肩関節機能回復における術前ダンベル体操の有効性, 第 22 回日本看護科学学会, 2002, 12, 東京

影山 隆之, 大賀 淳子, 河島 美枝子 : 老人保健施設入所者の経験している「楽しみ」, 第 18 回日本精神衛生学会, 2002, 11, 東京

小林 敏生, 影山 隆之, 金子 信也, 田中 正敏 : 夜勤交代制勤務職場における勤務形態別の睡眠障害と抑うつに関する検討, 第 75 回日本産業衛生学会, 2002, 4, 神戸

影山 隆之, 河島 美枝子: ストレス対処特性評価のための新しい簡易質問紙の開発: 職業性ストレスおよび抑うつ症状との関連, 第75回日本産業衛生学会, 2002, 4, 神戸

影山 隆之: 衛生看護科女子高校生のボディイメージとセルフエスティーム, 日本学校保健学会第49回学術集会, 2002, 9, 札幌

甲斐 倫明: 多段階発がんモデルにおける突然変異率とステージ数の関係, 日本リスク研究学会第15回研究発表会, 2002, 11, 京都

甲斐 倫明: 利用者の立場から、アーカイブス構築への期待, 日本放射線影響学会第45回大会, 2002, 9, 仙台

高橋 知之, 甲斐 倫明, 山崎 和也, 五味 邦博, 中里 一久, 飯田 孝夫: スクラップに混入した線源からの漏洩線量に関する実験および解析的検討, 日本保健物理学会第36回研究発表会, 2002, 6, 金沢

甲斐 倫明, 高橋 知之, 中里 一久, 山崎 和也, 五味 邦博, 飯田 孝夫: 急性放射線障害と社会的混乱の回避を目的とした身元不明線源の分類, 日本保健物理学会第36回研究発表会, 2002, 6, 金沢

神田 貴絵, 指山 浩志, Sarder Abdur Nayeem, Sarder Abdur Razzak, 菅波 茂: バングラデシュ人民共和国の貧困農村地域における母子保健衛生調査報告, 第17回日本国際保健医療学会, 2002, 8, 神戸市

石川 幸, 溝口 全子, 神崎 光子, 宮崎 文子: 分娩第一期における産婦の不安・苦痛・不快の軽減に有効な看護師のサポートに関する研究, 第43回日本母性衛生学会, 2002, 9, 旭川

木下 由美子: 熟練訪問看護師による訪問看護の専門性, 日本地域看護学会第5回学術集会, 2002, 6, 高知市

木下 由美子, 金井 和子: 在宅看護学における教育目標と教育内容の検討, 日本看護科学学会第22回学術集会, 2002, 12, 東京

田副 真由美, 木崎 美穂, 真名井 一代, 匹田 美智代, 外池 美津子, 宮川 ミカ, 工藤 節美: 外来透析患者のシャント歴からみたシャント自己管理状況, 第33回日本看護学会, 成人看護, 2002, 8, 松山市

船田 治子, 宮崎 文子: 中高年女性の更年期症状を中心とした健康実態調査一野末のSMIによる生活習慣の分析, 日本母性看護学会, 2002, 6, 前橋市

中山 晃志, 加藤 正平: 放射線リスク推定値の統計的有意性と将来予測, 日本保健物理学会第36回研究発表会, 2002, 6, 金沢市

大瀧 慈, 川崎 裕美, 佐藤 健一, 中山 晃志, 柳原 宏和, 山口 直人: 時空間平滑化とポアソン-ガンマモデルに基づく市区町村単位疾病地図の作製, 2002年度統計関連学会連合大会, 2002, 9, 日野市

大賀 淳子, 稲垣 敦, 影山 隆之, 河島 美枝子, 平井 仁, 帆秋 善生: デイケアにおける定期的な体力テスト実施の試み, 第22回日本社会精神医学会, 2002, 3, 千葉市

大賀 淳子, 河島 美枝子, 影山 隆之: 地域で暮らす精神障害者への理解を深めるための精神看護学実習のありかた, 第61回日本公衆衛生学会, 2002, 10, さいたま市

大津 佐知江: 患者評価と看護師評価の比較, 第33回日本看護学会, 看護管理, 2002, 11, 山梨県

柳澤利枝, 高野裕久, **定金香里**, **市瀬孝道**, 井上健一郎, 小林隆弘:PM2.5, DEP の構成成分による傷害性の相違について, 第43回大気環境学会, 2002, 9, 府中市

定金香里, **市瀬孝道**, 高野裕久, 柳澤利枝, 川里浩明, 安田愛子:ダニ抗原及びディーゼル排気曝露による肺組織中サイトカイン産生のマウス系統差, 第52回日本アレルギー学会, 2002, 11, 横浜市

佐々直子, 福田久美子, 三本木千秋, 柳澤利枝, 高野裕久, **定金香里**, **市瀬孝道**, 吉川敏一:OVA感作マウスを用いたフラクトオリゴ糖の抗アレルギー効果の検討, 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2003, 5, 横浜市

三本木千秋, 佐々直子, 柳澤利枝, 井上健一郎, **定金香里**, **市瀬孝道**, 高野裕久, 吉川敏一:ダニ抗原誘発気道炎症モデルマウスを用いたフラクトオリゴ糖の抗アレルギー効果の検討, 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2003, 5, 横浜市

倉林 るみい, **齋藤 高雅**, 鈴木 満:デュッセルドルフにおける日本人駐在員のメンタルヘルス—日本語メンタルヘルス相談機関の需要に関する検討, 第75回産業衛生学会大会, 2002, 4, 神戸

Saito, T., **Sekine, T.**, Aso, M. : A 10-Year Follow-up Study of Mental Health in Patients with Thalidomide Embryopathy, the XII th World Congress of Psychiatry, 2002, 8, Yokohama

Kurabayashi, L., **Saito, T.**, Suzuki, M : Stress Factors Among Japanese Expatriates in Duesseldorf, the XII th World Congress of Psychiatry, 2002, 8, Yokohama

Suzuki, M., Kurabayashi, L., **Saito, T** : A Mental Health Survey of Japanese Overseas Employees in Ho Chi Minh, the XII th World Congress of Psychiatry, 2002, 8, Yokohama

齋藤 高雅, **関根 剛**, 阿蘇 道子:サリドマイド胎芽病者の10年間の追跡調査, 第61回日本公衆衛生学会総会, 2002, 10, 埼玉

齋藤 高雅, **関根 剛**:サリドマイド胎芽病者の心理テスト, その3-ロールシャッハ・テストとHTPテストとの関連について, 第18回日本精神衛生学会大会, 2002, 11, 東京

関根 剛, 金子 進之助:受刑者がもつ自己の被害者に対する意識, 第40回日本犯罪心理学会, 2002, 11, 八王子市

関根 剛, **齋藤 高雅**, 坂本 洋子, 藤野 ユリ子:電話相談ボランティアの経験値数と共感性の関連, 第18回日本精神衛生学会大会, 2002, 11, 東京

品川 佳満, 岸本 俊夫, 太田 茂:赤外線センサを利用した独居高齢者のための自動緊急通報システムの開発, 第22回医療情報学連合大会(第3回日本医療情報学会学術大会), 2002, 11, 福岡市

高橋 敬, 新井 盛夫, 今井 正, 中村 伸:線溶系クリングルと凝固因子VIIaとの相互作用, 日本血栓止血学会, 2002, 11, 神戸

目原 陽子, **高野 政子**:学生の学びからみた小児看護学実習における保育所の意義, 第8回大分県小児保健学会, 2002, 11, 大分市

高野 政子, **目原 陽子**:家族機能調査からみた子育て中の親の困難と支え, 第8回大分県小児保健学会, 2002, 12, 大分市

森山 敬子, 高野 政子 : 虚偽の申告を繰り返す思春期 I 型糖尿児の受容を阻害する要因, 第 8 回大分県小児保健学会, 2002, 11, 大分市

玉井 保子, 吉良 紀美 : NICU における面会状況と家族の面会ニーズの特性, 第 33 回日本看護学会—小児看護, 2002, 9, 富山

藤内 美保, 吉留 厚子 : 連続的同一夜勤勤務における看護師の生活時間構造, 第 33 回日本看護学会 (看護総合), 2002, 7, 広島

藤内 美保, 阿部 誠 : 三交替制勤務の看護師の生活時間と疲労 -日勤—深夜勤務パターン—の分析-, 第 60 回日本公衆衛生学会, 2002, 10, 埼玉

吉田 成一, 平野 佐世子, 高野 裕久, 早川 和一, 木津 良一, 武田 健 : ディーゼル排気微粒子及び構成成分によるエストロゲンレセプター mRNA 発現の抑制, 環境ホルモン学会第 5 回研究発表会, 2002, 11, 広島市

小野 なお香, 吉田 成一, 机 直美, 押尾 茂, 梅田 隆, 菅原 勇, 高野 裕久, 武田 健 : 胎仔期ディーゼル排ガス暴露のマウス雄性生殖器系に及ぼす影響, 環境ホルモン学会第 5 回研究発表会, 2002, 11, 広島市

机 直美, 吉田 成一, 菅原 勇, 武田 健 : ディーゼル排ガスの胎仔期曝露による雌性生殖腺分化に関する発現遺伝子の解析, 環境ホルモン学会第 5 回研究発表会, 2002, 11, 広島市

吉田 成一, 武田 健 : ディーゼル排ガスのマウス雄性生殖系への影響?分子レベルでの解析, 第 25 回日本分子生物学会年会, 2002, 12, 横浜市

吉武 康栄, 川上 泰雄, 栗原 俊之, 金久 博昭, 福永 哲夫 : 電気刺激誘発の筋収縮における刺激パターンと張力および筋腱複合体の関係, 第 52 回日本体力医学会, 2002, 9, 高知

Moritani, T., Nakamura, H., Hamada, T., Kimura, T., Yoshitake, Y. : Motor unit properties revealed by mechanomyogram (MMG) amplitude and frequency analyses., XIVth Congress of the International Society of Electromyography and Kinesiology, 2002, 6, Vienna, Austria

高瀬 恵子, 吉留 厚子, 鈴木 真也 : 家庭における哺乳瓶消毒の実態および消毒方法と児の疾患の関係, 第 43 回日本母性衛生学会, 2002, 9, 旭川市

江月 優子, 吉留 厚子, 後藤 由美 : 一般女性の更年期についての知識や情報と自覚からみたとらえ方, 第 43 回日本母性衛生学会, 2002, 9, 旭川市

高瀬 恵子, 吉留 厚子, 鈴木 真也 : 簡便な哺乳瓶洗浄・消毒方法の検討, 第 43 回日本母性衛生学会, 2002, 9, 旭川市

吉留 厚子, 後藤 由美, 江月 優子 : 日本の一般女性がもつ更年期についての知識と更年期の対処方法および看護職の役割, China-Japan Medical Conference 2002 and the 8th China-Japan Nursing Conference, 2002, 11, 北京

8 - 5 学術講演

赤羽 恵一：医療施設等における人に関する放射線安全管理 (1) (2) (3), 日本放射線技師会放射線管理士認定講習会, 2002, 7, 東京都

赤羽 恵一：医療施設等における人に関する放射線安全管理 (1) (2) (3), 日本放射線技師会放射線管理士認定講習会, 2002, 7, 福岡市

赤羽 恵一：医療被ばくの低減 (1), 日本放射線技師会放射線管理士認定講習会, 2002, 7, 福岡市

赤羽 恵一：防護 1, 2, 日本医学物理学会医学物理サマーセミナー2002, 2002, 8, 長野市

赤羽 恵一：医療と放射線防護, 日本赤十字放射線技師会九州ブロック研修会, 2002, 9, 熊本県阿蘇郡長陽村

赤羽 恵一：医療施設における放射線防護, 大分赤十字病院研修会, 2002, 11, 大分市

赤羽 恵一：医療施設における人に関する放射線安全管理 (1) (2) (3) (4) (5), 日本放射線技師会放射線管理士認定講習会, 2002, 12, 金沢市

栗屋 典子：看護教育の課題, 第41回全国自治体病院学会、総会シンポジウム, 2002, 1, 静岡市

栗屋 典子：看護ケアの質評価, 大分県看護教会、認定看護管理者ファーストレベル, 2002, 1, 大分市

栗屋 典子：看護管理者の人材育成, 九州ブロック赤十字病院看護部長研修会, 2002, 1, 大分市

栗屋 典子：看護の質評価, 山口県看護教会、認定看護管理者セカンドレベル, 2002, 7, 宇部市

栗屋 典子：看護管理概説, 大分県看護教会、認定看護管理者ファーストレベル, 2002, 5, 大分市

栗屋 典子：看護の質評価, 山口県看護教会、認定看護管理者セカンドレベル, 2002, 7, 宇部市

栗屋 典子：看護の質保証, 国立大学病院看護部長研修, 2002, 8, 東京都

栗屋 典子：看護管理者の人材育成, 九州ブロック赤十字病院看護部長研修会, 2002, 1, 大分市

栗屋 典子：看護ケアの質評価, 大分県看護教会、認定看護管理者ファーストレベル, 2002, 1, 大分市

栗屋 典子：看護の質評価と改善, 熊本県看護教会、認定看護管理者セカンドレベル, 2002, 1, 熊本市

伴 信彦：くらしと放射線, 日本消費生活アドバイザー西日本支部講演会, 2002, 11, 松山市

伴 信彦：医療における放射線の利用と防護, 奄美中央病院院内教育, 2002, 5, 名瀬市

平野 亙：健康なまちづくり「生涯健康県おおいた21」, 愛育班学習会, 2002, 2, 直入郡直入町

平野 亙：21世紀の健康づくり「生涯健康県おおいた21」, 東国東地域健康づくり推進協議会設立会議・講演, 2002, 3, 東国東郡国東町

平野 亙：住民とともに取り組む健康づくり「生涯健康県おおいた 21」の実現に向けて、すこやかフォーラム in 南佐, 2002, 3, 佐伯市

平野 亙：健康なまちづくり「生涯健康県おおいた 21」, 西高郡市学校給食研究協議会, 2002, 7, 西国東郡真玉町

平野 亙：保健事業計画における目標(指標)値の設定, 第2回安心院町健康なまちづくり幹事会・講演, 2002, 7, 宇佐郡安心院町

平野 亙：人が人として生きるために—医療と人権について, 別府市・身近な人権講座, 2002, 10, 別府市

平野 亙：医療をめぐる人権問題, 大分県・人権啓発研修講師等フォローアップ研修, 2002, 2, 大分市

平野 亙：社会の協働ですすめる健康づくり「生涯健康県おおいた 21」, みんなですすめる健康づくりをめざそう!「生涯健康県おおいた 21」講演会, 2002, 2, 大分市

平野 亙：ヘルスケア提供システム論, 平成14年度認定看護管理者ファーストレベル教育研修会, 2002, 6, 大分市

平野 亙：これからの健康づくり, (社)大分県栄養士会・平成14年度健康づくり学習会, 2002, 7, 大分市

平野 亙：リスクマネジメント教育, 平成14年度実習指導者講習会, 2002, 7, 大分市

平野 亙：「カルテ開示」時代の診療情報管理, 大分記念病院職員研修会, 2002, 7, 大分市

平野 亙：医療の安全管理—失敗から学ぶ, 大分県立三重病院安全管理研修会, 2002, 9, 大野郡三重町

平野 亙：医療の安全管理—産業界の対策に学ぶ, 大分県看護協会リスクマネジメント指導者講習会, 2002, 9, 大分市

稲垣 敦：ウォーキング講習会, 野津原町生涯教育事業, 2002, 6, 大分郡

稲垣 敦：肥満と運動, 野津原町食生活改善事業, 2002, 7, 大分郡

影山 隆之：社会福祉について, 野津原町立野津原中学校総合的学習の時間, 2002, 1, 野津原

影山 隆之：働く人の心の健康—自己管理, 西高地区県職員「こころの健康講座」, 2002, 1, 豊後高田

影山 隆之：働く人の心の健康—自己管理, 臼杵市職員研修会, 2002, 2, 臼杵

影山 隆之：働く人の心の健康—自己管理, 大分県日田地区安全衛生協議会「平成13年度こころの健康講座?メンタルヘルス研修会」, 2002, 3, 日田

影山 隆之：思春期・青年期相談の進め方—電話相談における頻回通話者への対応, 東京都青少年センター公開講座, 2002, 3, 東京

影山 隆之：看護研究の基礎, 大分県看護協会研修会, 2002, 4, 大分

影山 隆之：メンタルヘルス, 大分県職員研修所平成 14 年度新任係長級研修, 2002, 5, 大分

影山 隆之：対人サービス業務のストレスとマネジメント, 大分地区戸籍住民基本台帳事務協議会研修会, 2002, 5, 庄内

影山 隆之：看護研究の基礎 1, 大分県看護協会研修会, 2002, 6, 大分

影山 隆之：心の病との付き合い方と家族・近隣の応援, 第 3 回蒲江町心の健康教室, 2002, 7, 蒲江

影山 隆之：精神看護学における地域看護と家族ケア, 熊本県看護師等養成所教員研修会, 2002, 8, 熊本

影山 隆之：職員のメンタルヘルスについて, 豊後高田市役所職員衛生管理研修, 2002, 8, 豊後高田

影山 隆之：職場のメンタルヘルス, 大分県土木建築部メンタルヘルス研修会, 2002, 9, 大分

影山 隆之：看護研究とは, 国立別府病院附属大分中央看護学校特別授業, 2002, 9, 別府

影山 隆之：病院職員のメンタルヘルス, 大分県立三重病院職員講習会, 2002, 9, 三重

影山 隆之：初回面接, 大分県精神保健福祉センター・精神保健福祉関係者実践研修, 2002, 10, 大分

影山 隆之：看護研究の基礎 2, 大分県看護協会研修会, 2002, 10, 大分

影山 隆之：養護教諭の職業性ストレス, 大分県教育委員会・大分県学校保健会 保健室相談活動研修会, 2002, 10, 大分

影山 隆之：働く人のストレス, 九州電力新大分発電所職員研修会, 2002, 11, 大分

影山 隆之：働く人のストレス管理, 臼杵市役所職員研修会, 2002, 11, 臼杵

影山 隆之：ストレスと睡眠・休養, 大分県西高地方振興局職員研修, 2002, 11, 豊後高田

影山 隆之：メンタルヘルスの基礎知識, 大分県労働基準協会「メンタルヘルス基礎指針研修」, 2002, 11, 大分

甲斐 倫明：身元不明線源による事故, 保健物理セミナー2002, 2002, 10, 神戸

甲斐 倫明：人を護るためのリスク概念が人を不安にするのはなぜ, 核燃料サイクル機構リスクセミナー, 2002, 11, 東海村

甲斐 倫明：放射線と健康, 熊本県宮原町教育委員会, 2003, 1, 熊本県宮原町

河島 美枝子：管理職研修 メンタルヘルス, 大分市役所, 2002, 1, 野津原町

河島 美枝子：ストレスと健康, 大分県税事務所, 2002, 1, 大分市

河島 美枝子：メンタルヘルス指針基礎研修, 大分県労働基準協会, 2002, 1, 大分市

河島 美枝子：産業医研修 職場のメンタルヘルス, 大分県産業保健推進センター, 2002, 2, 大分市

河島 美枝子：大分市役所次長研修会, 大分市, 2002, 2, 大分市

河島 美枝子：メンタルヘルス雑談, 大分県調停員協会, 2002, 2, 大分市

河島 美枝子：管理職研修 職場のメンタルヘルス, 日鉱金属佐賀製錬所, 2002, 2, 佐賀関町

河島 美枝子：職場のメンタルヘルスについて, 大分県市町村職員研修会一, 2002, 3, 野津原町

河島 美枝子：新任職員研修 心の健康管理, 大分市役所, 2002, 4, 大分市

河島 美枝子：管理職研修 職場のメンタルヘルス, 旭メディカル株式会社, 2002, 6, 大分市

河島 美枝子：公立小中学校・県立学校新任校長研修, 大分県教育委員会, 2002, 6, 別府市

河島 美枝子：公立小中学校・県立学校新任教頭研修, 大分県教育委員会, 2002, 6, 大分市

河島 美枝子：任新管理職職員研修 メンタルヘルス (3回シリーズ), 大分県職員研修所, 2002, 6, 大分市

河島 美枝子：新入社員のための健康づくりセミナー, 日鉱金属佐賀製錬所, 2002, 6, 佐賀関町

河島 美枝子：新任管理職研修 メンタルヘルス, 大分市役所, 2002, 7, 野津原町

河島 美枝子：職場のメンタルヘルス 管理職の活動を中心として, 大分市役所, 2002, 7, 大分市

河島 美枝子：職場のメンタルヘルス, 旭メディカル株式会社, 2002, 7, 大分市

河島 美枝子：新任所属長研修 メンタルヘルス, 大分県職員研修所, 2002, 7, 大分市

河島 美枝子：教職員のメンタルヘルス, 中津市教育委員会, 2002, 8, 中津市

河島 美枝子：事例で考えるメンタルヘルス対策, 大分県産業保健推進センター, 2002, 8, 大分市

河島 美枝子：ストレスの多い職場で働く夫をささえるために, 九州電力株式会社大分支店, 2002, 9, 大分市

河島美枝子：豊の国産業保健フォーラム：事例でみるメンタルヘルス問題, 大分県産業保健推進センター, 2002, 9, 大分市

河島 美枝子：心の健康管理を始めましょう, 九州電力株式会社, 2002, 10, 大分市

河島 美枝子：心の健康管理を始めましょう, 日鉱金属佐賀製錬所, 2002, 10, 佐賀関町

河島 美枝子：産業医研修 職場のメンタルヘルス, 大分県産業保健推進センター, 2002, 10, 大分市

河島 美枝子：職場のメンタルヘルス, 大分労働局, 2002, 9, 大分市

河島 美枝子：メンタルヘルス指針基礎研修, 大分県労働基準協会, 2002, 11, 大分市

河島 美枝子：心の健康管理を始めましょう, 大分市学校栄養職員研修会, 2002, 11, 大分市

河島 美枝子：心の健康管理を始めましょう, 九州電力株式会社, 2002, 11, 大分市

河島 美枝子：心の健康管理をはじめましょう, 門司税関大分税関支所, 2002, 11, 大分市

河島 美枝子：仕事のストレス, 日鉱金属佐賀製錬所, 2002, 11, 佐賀関町

河島 美枝子：心の健康管理, 朝地町役場, 2002, 12, 朝地町

河島 美枝子：トップ管理職研修 メンタルヘルス , 竹田直入地区安全衛生協議会, 2002, 12, 竹田市

木下 由美子：介護保険の問題点について, 植田老人大学, 2002, 1, 大分市

木下 由美子：事例検討, 平成 14 年度第 1 回訪問看護従事者研修会, 2002, 11, 大分市

木下 由美子：訪問看護の特性, 平成 14 年度第 1 回訪問看護職員養成講習会, 2002, 7, 大分市

木下 由美子：健康度評価事業の展開について, 佐賀県平成 13 年度保健所・市町村保健師研修会, 2002, 1, 佐賀市

木下 由美子：訪問看護の特性, 第 14 年度第 2 回訪問看護職員養成講習会, 2002, 11, 大分市

工藤 節美：保健師教育課程, 平成 14 年度実習指導者講習会, 2002, 5, 大分市

工藤 節美：療養者・家族への教育的機能, 平成 14 年度第 1 回訪問看護職員講習会, 2002, 6, 大分市

工藤 節美：療養者・家族への教育的機能, 平成 14 年度第 2 回訪問看護職員講習会, 2002, 10, 大分市

工藤 節美：看護研究のデザイン, 医療法人大分記念病院看護部研修会, 2002, 6, 大分市

草間 朋子：看護の大学教育と自己啓発, 大分県看護協会実習指導者講習会, 2002, 5, 大分市

Kusama Tomoko : Radiation protection in medicine, The First Asian Oceanic Congress for Radiation Protection Symposium, 2002, 10, Seoul

草間 朋子：原爆被爆者医療特別手当認定に必要される放射線および放射線影響の知識, 原爆被爆者指定医療機関等医師研究会特別講演, 2002, 11, 長崎市

草間 朋子：認定に必要とされる放射線および放射線影響の知識, 原爆被爆者指定医療機関等医師研究会, 2002, 2, 広島市

草間 朋子：医療領域における放射線防護のあり方, 第 18 回高知放射線科医学会学術講演会, 2002, 4, 高知市

草間 朋子：医療領域における放射線防護 医療被ばくと職業被ばくの低減, 宮崎県診療放射線技師会平成 14 年度夏期研修会, 2002, 8, 宮崎市

草間 朋子：医療領域における放射線防護—医療被ばくと職業被ばく—, 第4回画像診断センター学術研究発表会, 2002, 8, 久留米市

草間 朋子：診療放射線技師への期待, 平成14年度九州放射線技師学術大会, 2002, 11, 大分市

草間 朋子：防災対策における保健師の役割—原子力災害を通して—, 第24回全国地域保健師学術研究会, 2002, 11, 大分市

宮崎 文子：思春期の性教育, 大分市立高等専修学校, 2002, 2, 大分市

宮崎 文子：思春期の性教育—性の自立に向けて—, 大分県立碩南高等学校, 2002, 2, 大分市

宮崎 文子：更年期女性の健康, 平成13年度庄内町愛育班総会, 2002, 3, 庄内町

宮崎 文子：高齢者の健康と性, 庄内町社会福祉協議会総会, 2002, 3, 庄内町

宮崎 文子：21世紀の助産師の課題, 大分県看護協会, 2002, 3, 大分市

宮崎 文子：更年期の性と健康, 野津原町愛育班総会, 2002, 3, 野津原町

宮崎 文子：知っておきたい女性の体, 野津原町愛育班生き生き女性セミナー, 2002, 5, 野津原町

宮崎 文子：思春期の性教育, 大分県立佐賀関高等学校, 2002, 6, 佐賀関町

宮崎 文子：思春期の性教育—性の自立—, 大分県立鶴崎工業高等学校, 2002, 7, 大分市

宮崎 文子：思春期の性教育, 大分県立碩南高等学校, 2002, 7, 大分市

宮崎 文子：思春期の性教育, 福德学園大分市城南高等学校, 2002, 7, 大分市

宮崎 文子：更年期の健康と性を考える, 野津原町食生活改善推進協議会, 2002, 7, 野津原町

宮崎 文子：高齢者の健康と性, 佐賀関町社会福祉協議会大会, 2002, 7, 佐賀関町

宮崎 文子：小学校の性教育—大切な命の誕生—, 大分市三佐小学校（感動を伴う青少年の健全育成事業）, 2002, 10, 大分市

宮崎 文子：思春期の性—今を大切に生きる—, 大分県立大分商業高等学校, 2002, 10, 大分市

宮崎 文子：思春期の性—今を大切に生きる—, 大分県立大分商業高等学校, 2002, 12, 大分市

宮崎 文子：思春期教育フォーラム—思春期の性教育を考える—, 日本助産師会主催：九州地区思春期教育フォーラム, 2002, 12, 大分市

大賀 淳子：看護の質を高めるための研究への取り組み, 平成14年度日本精神科看護技術協会大分県支部研修会, 2002, 11, 大分市

小野 美喜：訪問看護対象論—利用者と家族の理解—, 訪問看護職員養成講習会, 2002, 5, 大分市

- 小野 美喜：訪問看護対象論—利用者と家族の理解, 訪問看護職員養成講習会, 2002, 10, 大分市
- 小野 美喜：看護力再開発講習会, 対象者の理解, 2002, 9, 大分市
- 齋藤 高雅：「事例指導（投影法技法）」, 大分家庭裁判所調査官（補）研修会講師／スーパービジョン, 2002, 11, 大分市
- 佐藤 和子：看護研究, 国立福岡東病院看護部研修会, 2002, 2, 福岡県古賀市
- 佐藤 和子：看護実践と看護研究, 国立病院九州医療センター附属看護学校, 2002, 3, 福岡市
- 佐藤 和子：看護過程—看護理論と看護診断, 大分県看護協会実習指導者講習会, 2002, 6, 大分市
- 佐藤 和子：看護過程?看護過程の展開方法, 大分県看護協会実習指導者講習会, 2002, 6, 大分市
- 佐藤 和子：一般看護理論, 精神科看護技術協会実習指導者研修会, 2002, 7, 福岡市
- 佐藤 和子：看護研究, 九州大学生体防御医学研究所附属病院看護部研修会, 2002, 10, 別府市
- 関根 剛：コーディネーター, 和歌山県教育庁主催「思春期の子供をもつ親のための子育て講座」, 2002, 1, 和歌山市
- 関根 剛：相談業務における対応の仕方, 大分県教育庁人権・同和教育課スクールセクハラ相談, 2002, 11, 大分市
- 関根 剛：被害者が感じていること（女子収容者対象）, 和歌山刑務所, 2002, 2, 和歌山市
- 関根 剛：犯罪被害者と被害者支援, 中津下毛地区被害者支援協議会総会, 2002, 3, 中津市
- 関根 剛：よい相談者になるために一話の聴き方のコツ, 別府自衛隊病院院内研修会, 2002, 3, 別府市
- 関根 剛：カウンセリングの原理と実際, 大分県看護協会実習指導者講習会, 2002, 6, 大分市
- 関根 剛：電話の受け方・ロールプレイ, 和歌山いのちの電話協会相談員養成講座, 2002, 11, 和歌山市
- 関根 剛：コミュニケーション・スキルについて／患者との信頼関係の作り方, 西別府病院研修会, 2002, 7, 別府市
- 関根 剛：コミュニケーション・スキルをどう育てるか, 大分県看護協会, 2002, 7, 大分市
- 関根 剛：アサーションの考え方, 自衛隊別府病院研修会, 2002, 8, 別府市
- 関根 剛：心理面からみた部下の話の聞き方, 陸上自衛隊湯布院駐屯地部外講話, 2002, 8, 湯布院町
- 関根 剛：児童生徒理解と信頼関係の確立, 公立学校生徒指導担当者研修会, 2002, 10, 大分市
- 関根 剛：児童生徒理解と信頼関係の確立, 公立学校生徒指導担当者研修会, 2002, 10, 中津市

関根 剛：児童生徒理解と信頼関係の確立, 公立学校生徒指導担当者研修会, 2002, 10, 佐伯市

関根 剛：児童生徒理解と信頼関係の確立, 公立学校生徒指導担当者研修会, 2002, 10, 日出町

関根 剛：初心者だけど、統計で見栄をはろう, 西別府病院研修会, 2002, 10, 別府市

関根 剛：学校における危機管理, 大分県スクールカウンセラー連絡協議会（大分県教育センター）, 2002, 10, 大分市

関根 剛：さわやかな自己主張, 大分県看護協会, 2002, 11, 大分市

関根 剛：相談活動に生かすロールプレイング, 大分県教育センター主催第 5 回カウンセリング技術研修上級, 2002, 11, 大分市

高野 政子：指導の実際—小児看護, 大分県看護協会臨床実習指導者講習会, 2002, 7, 大分市

高野 政子：子どもの育つ環境づくり—健やか親子 2 1 がめざすもの, 野津原町 P T A 連合会主催研修会, 2002, 6, 野津原町

高野 政子：乳児保育の意義・乳児の精神生活・家族との連携, 大分県保育所（園）乳児保育担当保育士研修会, 2002, 10, 大分市

玉井 保子：看護職員に必要な検査の知識, 大分県看護協会看護力再開発講習会, 2002, 9, 大分市

藤内 美保：看護過程とアセスメント, 第 1 回訪問看護職員講習会, 2002, 6, 大分市

藤内 美保：フィジカルアセスメント, 第 1 回訪問看護職員講習会, 2002, 6, 大分市

藤内 美保：看護過程と看護記録, 看護力再開発講習会, 2002, 9, 大分市

藤内 美保：看護過程とアセスメント, 第 2 回訪問看護職員講習会, 2002, 10, 大分市

藤内 美保：フィジカルアセスメント, 第 2 回訪問看護職員講習会, 2002, 10, 大分市

藤内 美保：看護診断の実践, 川島整形外科病院院内研修会, 2002, 11, 中津市

Moritani, T., Yoshitake, Y. : Evaluation of Low Back Muscle Fatigue using Electromyogram, Mechanomyogram and Near-infrared Spectroscopy Analyses, XIVth Congress of the International Society of Electromyography and Kinesiology, 2002, 6, Vienna, Austria

9 学会・学外委員等の活動

粟屋 典子

日本看護管理学会 監事 評議員
財団法人日本医療機能評価機構 評価調査者
大分県老人保健福祉計画策定協議会 委員
大分県リハビリテーション協議会 委員

伴 信彦

日本保健物理学会 編集委員
日本放射線影響学会 広報委員

平野 亙

日本公衆衛生学会 評議員
大分県国民健康保険団体連合会介護保険給付費審査委員会 委員
「生涯健康県おおいた 21」推進協議会 幹事

市瀬 孝道

筑波大学大学院 非常勤講師
独立行政法人・国立環境研究所、環境ホルモン・ダイオキシン研究プロジェクト/病態生理研究チーム 客員
研究員
独立行政法人・国立環境研究所 環境研究基盤技術ラボラトリー：客員研究員
大気汚染学会生体影響分科会 委員

影山 隆之

日本精神衛生学会 常任理事・編集委員長
日本学校メンタルヘルス学会 運営委員・評議員・編集委員
大分県介護保険審査会 委員
大分県地域福祉権利擁護事業契約締結審査会 委員

甲斐 倫明

日本保健物理学会 理事
AOARP（アジアオセアニア放射線防護協議会）幹事
日本リスク研究学会 理事
日本リスク研究学会 リスク用語集編集委員会 編集幹事
日本放射線影響学会 常任幹事
J. Radiation Research Associate Editor
日本学術会議核科学総合研究連絡委員会委員
内閣府 原子力安全委員会専門委員
文部科学省 独立行政法人評価委員会 放射線医学総合研究所部会 委員
文部科学省 科学技術政策研究所科学技術動向研究センター 科学技術専門家ネットワーク専門調査委員
放射線医学総合研究所 国連科学委員会国内対応委員会 委員
放射線医学総合研究所 宇宙放射線被ばく防護体系検討委員会 委員

放射線医学総合研究所 重粒子線がん治療装置等共同利用運営委員会課題採択・評価部会 委員
日本原子力研究所 保健物理部放射線リスク研究室第1種客員研究員
日本原子力研究所 安全評価研究委員会 委員
核燃料サイクル機構 リスクコミュニケーションに関するアドバイザー委員会委員
原子力安全研究協会 放射線防護基準検討専門委員会 委員
原子力安全研究協会 地層処分における環境保護に関する検討会 委員
原子力発電技術機構 核燃料施設部会 委員
原子力発電技術機構 核燃料施設の遮へい・被ばく解析分科会 主査

河島 美枝子

産業精神保健学会 評議員
大分県職員メンタルヘルス対策検討委員会 委員
新しい教員の人事管理の在り方検討委員会 委員
大分地方労働審議会 委員
大分家庭裁判所 調停員

神崎 光子

日本衛生学会総会 運営委員

草間 朋子

日本肥満学会 評議委員
疾病・障害認定審査会 委員
核融合科学研究所 評議員
核燃料サイクル開発機構運営審議会 委員
日本原子力研究所評価委員会
日本原子力研究所研究評価委員会 委員

宮崎 文子

日本母性看護学会 理事
日本助産婦会大分県支部 助産院部会長
日本助産婦会大分県支部 子育て・女性健康支援センター 企画推進委員会 委員
日本看護協会助産師職能委員

大賀 淳子

平成14年度大分県心身障害児適性就学指導委員会委員

小野 美喜

大分県看護協会 教育委員

佐伯 圭一郎

日本民族衛生学会 評議員

齋藤 高雅

日本精神衛生学会 理事
こころの健康 編集委員
財団法人いしづえ 健康管理研究班員
駿河台大学健康相談室 顧問

桜井 礼子

大分市建築審査会 委員
大分市開発審査会 委員
大分県社会福祉委員会民生委員審査専門分科会 委員
大分市風俗関連営業建築物審議会 委員

佐藤 和子

産業保健人間工学会 理事
日本看護診断学会 評議員
大分県准看護婦試験委員会 委員

関根 剛

紀の国被害者支援センター 評議員、トレーニングマネージャー
大分被害者支援センター設立準備会事務局長

高野 政子

大分県小児保健協議会 理事
九州小児看護研究会 理事
大分県看護協会 教育委員長 (1月～6月まで)

藤内 美保

大分県看護協会 実習指導者講習会 運営委員長
大分市男女共同参画社会推進懇話会 委員

吉留 厚子

大分県ナースセンター事業運営委員

高波 利恵

大分県看護協会 インターネット委員会 委員長

八代 利香

NPO 大分あんしんねっと 成人後見・権利擁護大分ネット委員会 理事

吉田 成一

東京理科大学 客員研究員 薬学部勤務
財団法人 日本自動車研究所 環境ホルモン研究会 委員

10 海外研究派遣

稲垣 敦

研究実施国: アメリカ合衆国

研究期間: 2003年2月14日～3月11日

研究内容: 共分散構造分析(Covariance Structure Analysis, CSA)の権威であり、そのソフトウェアであるEQSの開発者であるPeter M. Bentler教授と、CSAにおけるカテゴリカル・データ及び項目反応理論の扱い、スポーツ得点構造分析の発展について議論し、この分野の将来について検討した。

研究実施機関: Measurement division, Psychology Department, UCLA

研究報告: 2003年4月7日、大分県立看護科学大学にて報告会

伴 信彦

研究実施国: イギリス

研究期間: 2003年1月7日～2月8日

研究内容: 放射線によるマウスの白血病誘発機構研究に関して世界の先端を行くCox博士らの研究グループを訪ね、情報交換を行うとともに、今後の共同研究の計画を策定した。

研究実施機関: Radiation Effects Department, National Radiological Protection Board

研究報告: 未定

定金 香里

研究実施国: アメリカ合衆国

研究期間: 2003年2月17日～3月16日

研究内容: 過酸化油脂摂食によるガン発生のメカニズムに関して、共同研究者である柴本教授とディスカッションを行った。また、発ガンのメカニズムを解くために必要な技法のひとつ、ガスクロマトグラフィー質量分析法について学び、技術習得を兼ねて食品中の発ガン関連物質の分析実験を行った。

研究実施機関: University of California, Davis

研究報告: 2003年4月7日、大分県立看護科学大学にて報告会

1 1 学外研究者の受入

1 1 - 1 共同研究員の受け入れ

- 本学教員 甲斐 倫明
- ・ 受入者 小野 孝二
 - ・ 相手所属 大分県福祉保健部健康対策課
名古屋大学大学院工学系研究課博士課程
 - ・ 研究テーマ 放射線診断における画像撮影の最適化に関する研究
 - ・ 受入期間 平成14年4月1日～平成15年3月31日

1 2 教職員名簿

教職員名簿

1. 専任教員

生体科学	教授	高橋 敬	(H14.4.1採用)
	教授	佐渡 敏彦	(H14.3.31退職)
	助教授	安部 眞佐子	
	助手	石塚 香子	(H14.9.1採用)
生体反応学	助手	吉永 祐子	(H14.6.30退職)
	教授	市瀬 孝道	
	講師	吉田 成一	(H14.11.1採用)
	講師	鈴木 真也	(H14.9.30退職)
健康運動学	助手	定金 香里	
	助教授	稲垣 敦	
	助手	吉武 康栄	(H14.4.1採用)
人間関係学	助手	平井 仁	(H14.3.31退職)
	教授	齋藤 高雅	
	講師	関根 剛	
	助手	佐藤 みつよ	(H14.4.1採用)
環境科学	助手	栗原 万実	(H14.3.31退職)
	教授	甲斐 倫明	
	講師	伴 信彦	
	助手	赤羽 恵一	
健康情報科学	助教授	佐伯 圭一郎	
	講師	松井 茂之	(H14.4.30退職)
	助手	村上 義孝	(H14.4.30退職)
	助手	品川 佳満	(H14.5.1採用)
	助手	中山 晃志	(H14.6.1採用)
言語学	教授	高橋 久夫	
	講師	G. T. Shirley	
	助手	岡崎 寿子	(H14.4.1採用)
	助手	疋田 桃子	(H14.3.31退職)
基礎看護学	教授	金井 和子	(H14.3.31退職)
	講師	伊東 朋子	
	助手	玉井 保子	(H14.4.1転入)
	助手	井上 好	
	助手	千本 美紀	(H14.4.1採用)
	助手	重野 文江	(H14.9.24採用)
	助手	山口 真由美	(H14.3.31転出)
	助手	丹生 紀子	(H14.4.18採用)
	助手	丹生 紀子	(H14.9.20退職)
	助教授	山内 豊明	(H14.3.31退職)
看護アセスメント学	講師	藤内 美保	
	助手	安部 恭子	(H14.4.1採用)
	助手	神田 貴絵	(H14.5.1採用)

看護情報学 成人・老人看護学	助手	三苫 里香	(H14.3.31退職)	
	教授	佐藤 和子		
	教授	栗屋 典子		
	助教授	佐藤 鈴子	(H14.3.31退職)	
	講師	檜原 登志子	(H14.4.1採用)	
	講師	内田 雅子		
	助手	小野 美喜		
	助手	大津 佐知江	(H14.4.1転入)	
	助手	福田 広美	(H14.4.1採用)	
	助手	阿南 みと子	(H14.3.31転出)	
小児看護学	教授	森 まさ子	(H14.3.31退職)	
	助教授	石橋 朝紀子	(H14.3.31退職)	
	講師	高野 政子		
	助手	目原 陽子		
	助手	吉田 紀子	(H14.9.2採用)	
	助手	衛藤 展子	(H14.4.8採用)	
	助手	衛藤 展子	(H14.7.5退職)	
	母性看護・助産学	教授	宮崎 文子	
		講師	吉留 厚子	
		講師	林 猪都子	
講師		小西 清美	(H14.10.1採用)	
助手		神崎 光子		
助手		後藤 由美		
助手		大神 純子		
助手		木村 厚子	(H14.3.1採用)	
助手		溝口 全子	(H14.3.31退職)	
教授		河島 美枝子		
精神看護学	助教授	影山 隆之		
	助手	大賀 淳子		
精神保健福祉学 保健管理学	教授	栗栖 瑛子	(H14.3.31退職)	
	教授	草間 朋子		
地域看護学	助教授	平野 互		
	講師	桜井 礼子		
	助手	高波 利恵		
	助手	望月 京子	(H14.4.1採用)	
	教授	木下 由美子		
	講師	工藤 節美		
	助手	加藤 さゆり		
	助手	宇都宮 仁美	(H14.4.1転入)	
	助手	時松 紀子	(H14.9.1採用)	
	助手	志賀 たずよ	(H14.3.31退職)	
国際看護学	助手	梶原 美佐	(H14.3.31転出)	
	助手	森永 千佳子	(H14.4.8採用)	
	助手	森永 千佳子	(H14.7.5退職)	
	教授	洪 麗信	(H14.12.31退職)	
	助手	八代 利香		

2. 非常勤講師

帖佐 理子	保健医療ボランティア
ホァン ホセ・アルタミラノ	スペイン語
大林 雅之	看護の倫理
澤田 佳孝	美術とこころ
原 知章	文化人類学入門
佐渡 敏彦	看護と遺伝
吉河 康二	看護と遺伝
宮本 修	音楽とこころ
大杉 至	人間と社会
二宮 孝富	法学入門
合田 公計	経済学入門
吉良 國光	大分の歴史と文化
金 賛會	韓国語
肥田木 孜	母性病態論・助産診断技術学
梶原 眞一	助産診断技術学
日高 貢一郎	言語表現法
西 英久	哲学入門
園田 祥子	生体微生物反応論
西園 晃	生体微生物反応論
内布 敦子	成人・老人看護学特論

3. 事務職員

事務局

事務局長	小出 綱夫	(H14.4.1転入)
事務局長	佐世 克元	(H14.3.31転出)
次長兼総務課長	石川 誠	
主幹	淵 信子	
主査	長尾 成朗	
主任	渡邊 康弘	
主任	平川 俊助	(H14.10.1転入)
主事	山根 厚人	(H14.9.30転出)
技師	那須 博文	
業務技師	和田 ともえ	
臨時職員	立川 八久美	(H14.4.1採用)
臨時職員	神崎 純子	(H14.10.1採用)
臨時職員	和田 尚子	(H14.3.31退職)
臨時職員	上村 康子	(H14.9.30退職)

学生部

学生部長	併任(河島 美枝子)	
教務学生課長	門脇 俊彦	(H14.4.1転入)
教務学生課長	岩村 正隆	(H14.3.31転出)
主幹	安部 正雄	
主査	佐藤 俊実	
主任	矢部 美香	(H14.4.1転入)
主任	清水 秀夫	(H14.3.31転出)
非常勤保健師	宮地 恵子	(H14.4.1採用)

非常勤保健師	宇留島 佳子	(H14.3.31退職)
臨時職員	飯田 美香	(H14.4.1採用)
臨時職員	佐藤 晶子	(H14.3.31退職)

附属図書館

附属図書館長	併任(齋藤 高雅)
図書館管理係長	萱島 香苗
非常勤司書	牛島 聡子
非常勤司書	吉野 美奈子